

「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥  
－NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態－

「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に望む支援

2009年3月

制 作

境 泉洋 徳島大学総合科学部

川原一紗 徳島大学大学院人間・自然環境研究科

木下龍三 徳島大学大学院人間・自然環境研究科

久保祥子 徳島大学大学院人間・自然環境研究科

若松清江 徳島大学大学院人間・自然環境研究科

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会（家族連合会）

# 目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第一部 家族調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3. 結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第二部 本人調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3. 結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第三部 自由記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第四部 全体のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

参考・引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・

資料

## 図表一覧

### 第一部 家族調査

- 表 1-1 本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所
- 図 1-1 引きこもり本人との家族回答者の続柄
- 図 1-2 家族回答者の年齢
- 図 1-3 母親の年齢
- 図 1-4 父親の年齢
- 図 1-5 引きこもり本人と家族回答者の同・別居
- 図 1-6 引きこもり本人の性別
- 図 1-7 引きこもり本人の年齢
- 図 1-8 引きこもり本人（男）の年齢
- 図 1-9 引きこもり本人（女）の年齢
- 図 1-10 引きこもり期間
- 図 1-11 引きこもりの開始年齢
- 図 1-12 引きこもりの程度
- 図 1-13 複数人いる家庭
- 図 1-14 引きこもり本人の相談機関の利用状況
- 図 1-15 家族回答者の相談機関の利用状況
- 図 1-16 家族回答者が開所を希望する曜日
- 図 1-17 家族回答者が希望する開所時間
- 図 1-18 家族回答者が希望する閉所時間
- 図 1-19 家族回答者が求める支援の方法
- 図 1-20 家族回答者が相談したい専門家（1）
- 図 1-21 家族回答者が相談したい専門家（2）
- 図 1-22 家族回答者が望む情報提供の方法
- 図 1-23 家族回答者が望む支援

### 第二部 本人調査

- 表 2-1 調査回答者が住んでいる場所
- 図 2-1 調査回答者の性別
- 図 2-2 調査回答者の年齢
- 図 2-3 引きこもり経験者が開所を希望する曜日
- 図 2-4 引きこもり経験者が希望する開所時間
- 図 2-5 引きこもり経験者が希望する閉所時間
- 図 2-6 引きこもり経験者が求める支援の方法
- 図 2-7 引きこもり経験者が相談したい専門家（1）
- 図 2-8 引きこもり経験者が相談したい専門家（2）
- 図 2-9 引きこもり経験者が望む情報提供の方法
- 表 2-10 引きこもり経験者が望む支援
- 図 2-11 調査回答者の引きこもり経験の有無
- 図 2-12 現在ひきこもり状態にある人の引きこもりの程度
- 図 2-13 調査回答者の引きこもり期間
- 図 2-14 現在ひきこもり状態にある人の相談経験の有無
- 図 2-15 現在社会参加している人の相談経験の有無

- 図 2-16 現在ひきこもり状態にある人の相談機関の利用状況
- 図 2-17 相談機関を利用する上での妨害要因
- 図 2-18 引きこもり経験者の対人交流に対する不安
- 図 2-19 引きこもりの程度とSIAS得点の関連
- 図 2-20 相談に対するの評価が引きこもり経験者の相談可能性に与える影響

#### 第四部 全体のまとめ

- 図 4-1 引きこもり本人の平均年齢と引きこもり開始年齢の時系列変化
- 図 4-2 家族と本人の希望する相談方法の比較
- 図 4-3 家族と本人の希望する専門家の比較
- 図 4-4 家族と本人の希望する情報発信の比較
- 図 4-5 家族と本人の希望する支援の比較

## はじめに

2009年度より始まる「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に求められるものは何なのか？この問いに答えることを目的に本年度の調査は実施されました。

本報告書は、家族調査、本人調査、自由記述から構成されています。家族調査と本人調査では、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に対する要望を調査しています。具体的には、開所を希望する曜日、相談の受付時間、希望する相談方法、相談したい専門家、希望する情報提供の方法、希望する支援について調査を行っています。こうした調査から、家族や引きこもり経験者が、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に何を望んでいるかを明らかにしました。

第三部の自由記述では、家族や引きこもり経験者が「ひきこもり地域支援センター（仮称）」にどのようなことを相談しようとしているか、どんな情報を求めているか、どのような支援を求めているかについて回答を求めました。自由記述には、引きこもりを取り巻く現状が切実に語られています。

本年度の調査では、家族426名、引きこもり経験者83名の協力が得られ、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に対するニーズを知る上で重要な知見が得られたと考えています。「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に携わる多くの方々に本報告書を見ていただければと思っています。本調査で得られた知見が、利用者のニーズに合った「ひきこもり地域支援センター（仮称）」の構築に僅かでも資することができれば、これ以上の喜びはありません。

最後になりましたが、6年に渡り本調査の実施に協力して下さった全国引きこもりKHJ親の会の会員の皆様、各地区代表の方々に心より感謝申し上げます。ご協力下さった皆様のご厚意を無駄にしないよう、本調査の結果を広く普及、活用していく所存です。

平成21年3月吉日

境 泉 洋

本調査では、以下のような用語の定義を用いています。

1. ひきこもり状態

就学，就労，家庭外の交流などの社会参加を避けている状態

2. ひきこもり地域支援センター（仮称）

ひきこもり地域支援センター（仮称）は，都道府県・指定都市に自立支援対策を推進するための核となるセンターであり，①第一次相談機能としての役割を担う，②各関係機関のネットワークの連携強化を図る，③地域のひきこもり対策にとって必要な情報を広く提供する，以上3点を目的に新たに設置される施設です。

本調査は，平成20年度科学研究費補助金若手研究（B）「ひきこもり状態に対する臨床心理的地域援助システムのあり方に関する研究」及び平成20年度徳島大学学長裁量経費「ひきこもりの日英比較研究」の助成を受けて実施されました．．

## 第一部 家族調査

## 1. 目的

2009年度より設置される「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に求める支援について家族を対象に調査を実施しました。

## 2. 調査方法

### （1）調査対象者

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会の支部会，準地区会が平成20年11月～平成21年1月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会の参加者の内，調査協力の得られた429名から，ひきこもり本人の年齢が50歳未満でひきこもり開始年齢が10歳以上の家族426名の回答が解析に用いられました。主には，月例会において調査用紙を参加者に配布しその場で回収しましたが，運営上の事情から，翌月の月例会に記入の上で持参したものを回収したり，郵送によって回収を行いました。

### （2）調査内容

①基礎情報 質問紙に回答した家族（以下，家族回答者）及び，引きこもり状態にある人（以下，引きこもり本人）に関する以下の情報について回答を求めました。

- 引きこもり本人が住んでいる都道府県
- 家族回答者と引きこもり本人との続柄
- 家族回答者の年齢
- 家族回答者と引きこもり本人の同・別居
- 引きこもり本人の性別
- 引きこもり本人の年齢
- 引きこもりの期間
- 引きこもりの程度
- 引きこもっている人の数
- 引きこもり本人の相談機関利用状況
- 家族回答者の相談機関利用状況

②「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に望む支援

- 開所を希望する曜日

- 希望する開所時間
- 希望する閉所時間
- 希望する相談方法
- 相談したい専門家
- 希望する情報提供の方法
- 希望する支援

### 3. 結果

#### 1. 基礎情報

表1-1 本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	7	近畿地方	大阪府	17
	山形県	7		兵庫県	12
	青森県	2		京都府	5
	岩手県	4		三重県	2
新潟県	19	滋賀県		1	
甲信越地方	石川県	13	奈良県	1	
	富山県	9	中国地方	広島県	21
	千葉県	41	山口県	12	
関東地方	東京都	33	岡山県	9	
	埼玉県	24	香川県	20	
	神奈川県	20	四国地方	愛媛県	15
	栃木県	19	高知県	12	
	茨城県	3	徳島県	7	
	群馬県	2	宮崎県	4	
	静岡県	33	九州地方	大分県	4
	愛知県	31	鹿児島県	3	
東海地方	岐阜県	2	福岡県	3	
			熊本県	1	
			不明	8	
			合計	426	

#### ①本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所

表1-1に示したとおり、本調査は35都道府県の家族回答者から回答が得られており、全国をほぼ網羅した調査であるといえます。各地方の割合としては、北海道・東北地方が4.7%、甲信越地方が9.6%、関東地方が33.3%、東海地方が15.5%、近畿地方が8.9%、中国地方が9.9%、四国地方が12.7%、九州地方が3.5%となっています。

## ②引きこもり本人と家族回答者の続柄

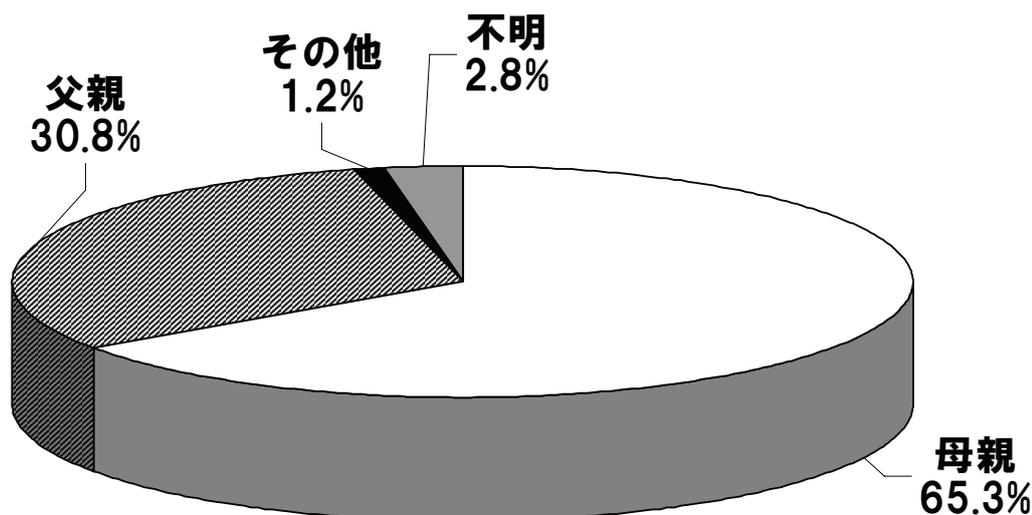


図1-1 引きこもり本人との家族回答者の続柄

調査回答者と引きこもり本人の続柄は、母親が65.3%、父親が30.8%、その他1.2%、不明2.8%でした（図1-1）。その他としては、姉、祖母、叔父、叔母などみられました。親の会参加者と引きこもり本人との続柄に関しては、2002年3月の調査報告書以来、一貫して母親が多いという結果が得られています。

## ③家族回答者の年齢

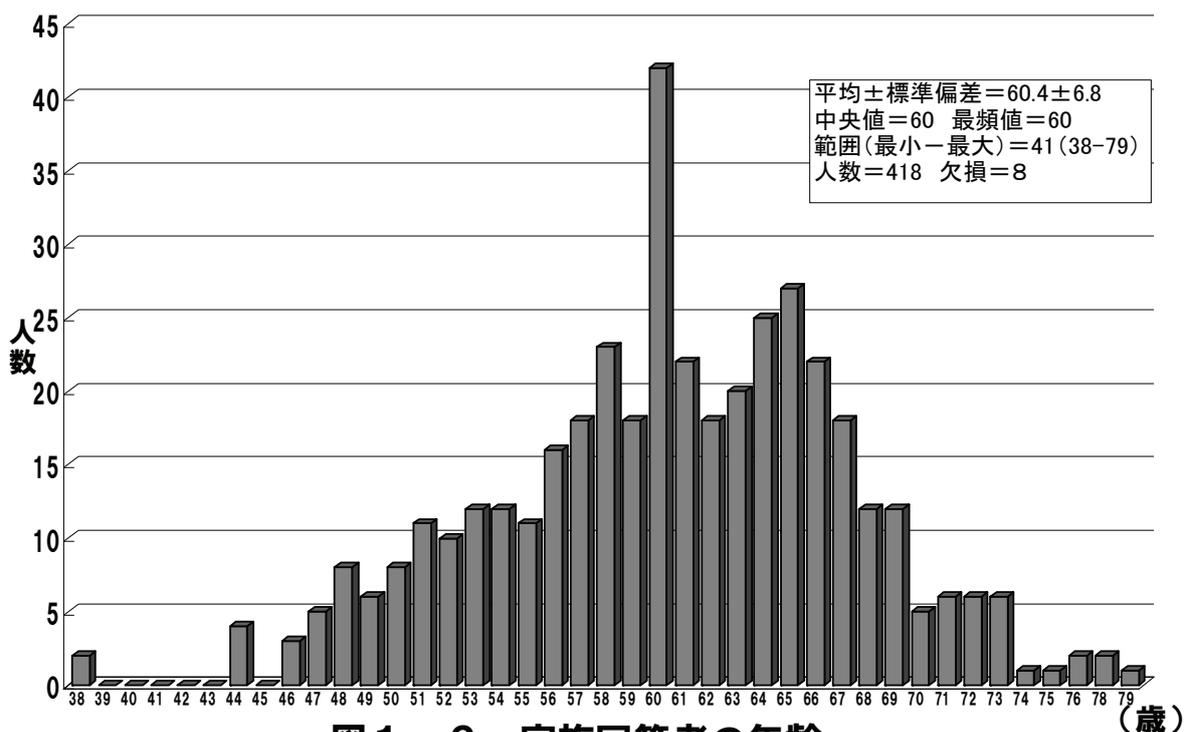


図1-2 家族回答者の年齢

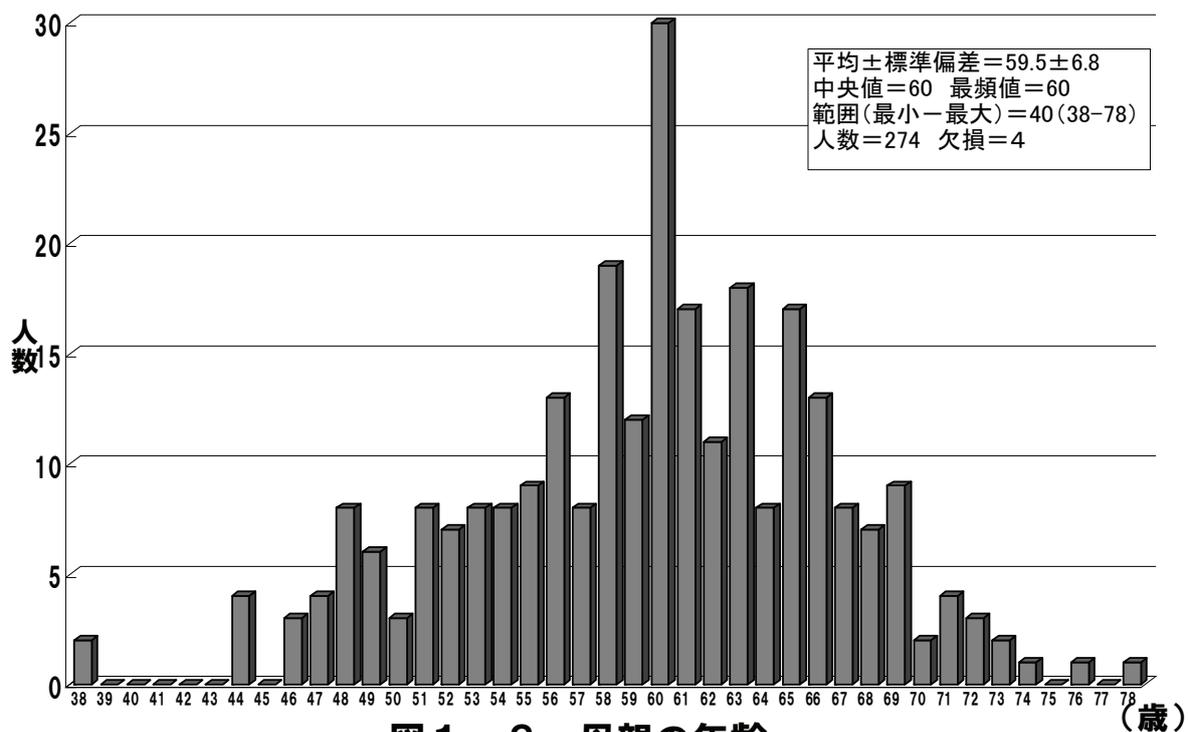


図1-3 母親の年齢

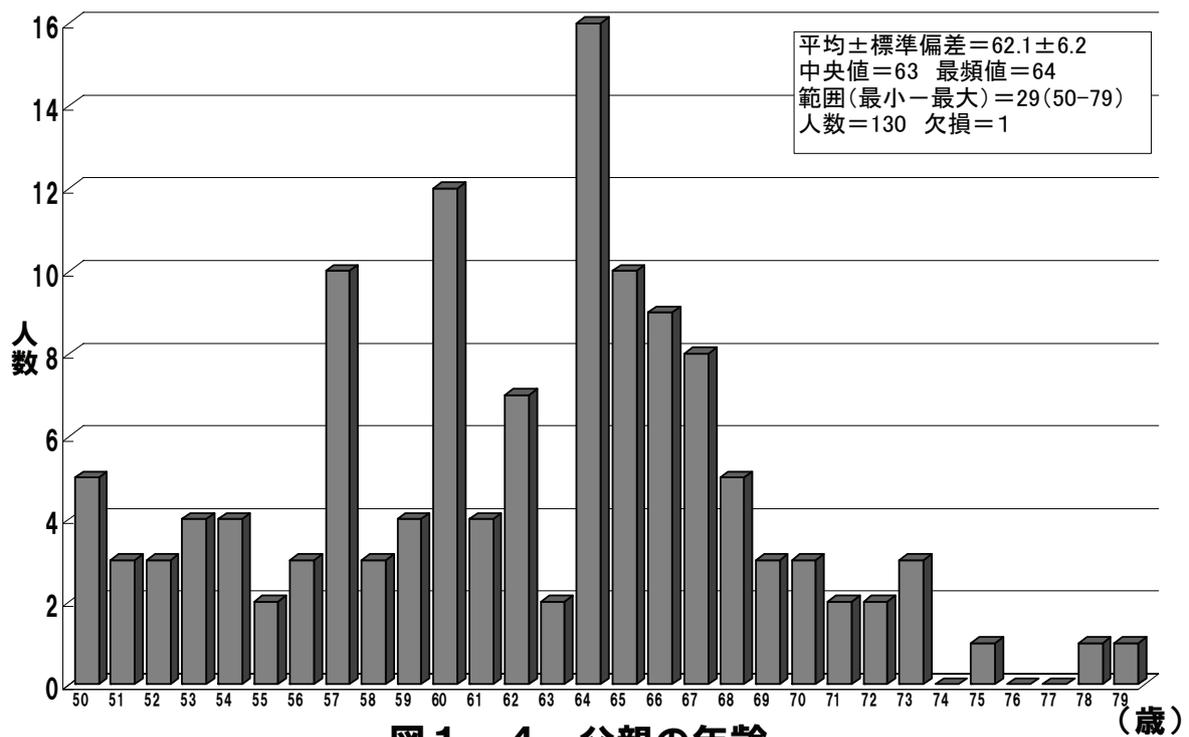


図1-4 父親の年齢

家族回答者の年齢は、平均60.4歳であり、最年少が38歳、最年長が79歳でした（図1-2）。母親の年齢に関しては、平均59.5歳であり、最年少が38歳、最年長が78歳でした（図1-3）。父親に関しては、平均62.1歳、最年少50歳、最年長79歳でした（図1-4）。父親の年齢に関しては、50歳未満がおらず統計的には歪んだデータ分布になっていました。このことは、父親の関わりは50歳になるまで少ないことを示しているといえます。

④引きこもり本人と家族回答者の同・別居

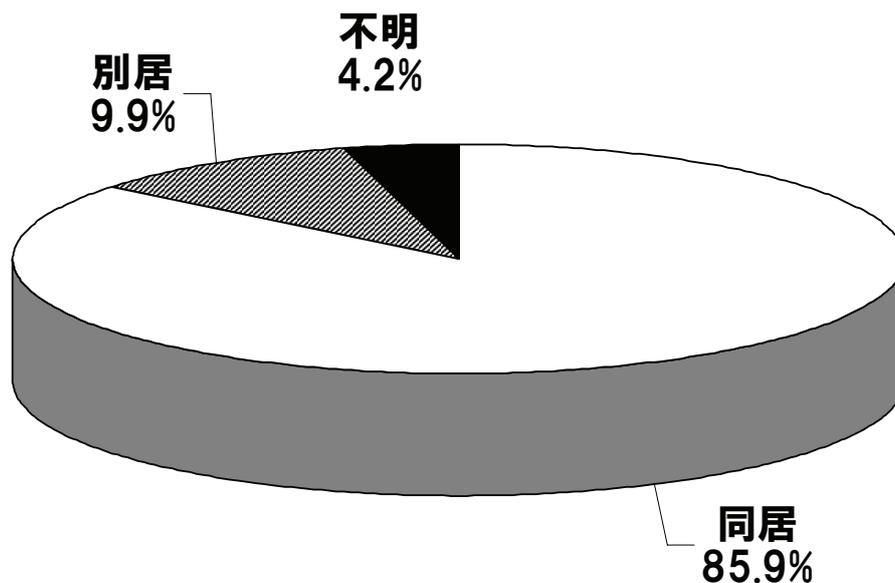


図1-5 引きこもり本人と家族回答者の同・別居

図1-5に示したように、調査回答者と引きこもり本人の同別居に関しては、同居している人が85.9%と圧倒的に多いことが示されました。この傾向は過去の調査においても同様です。

⑤引きこもり本人の性別

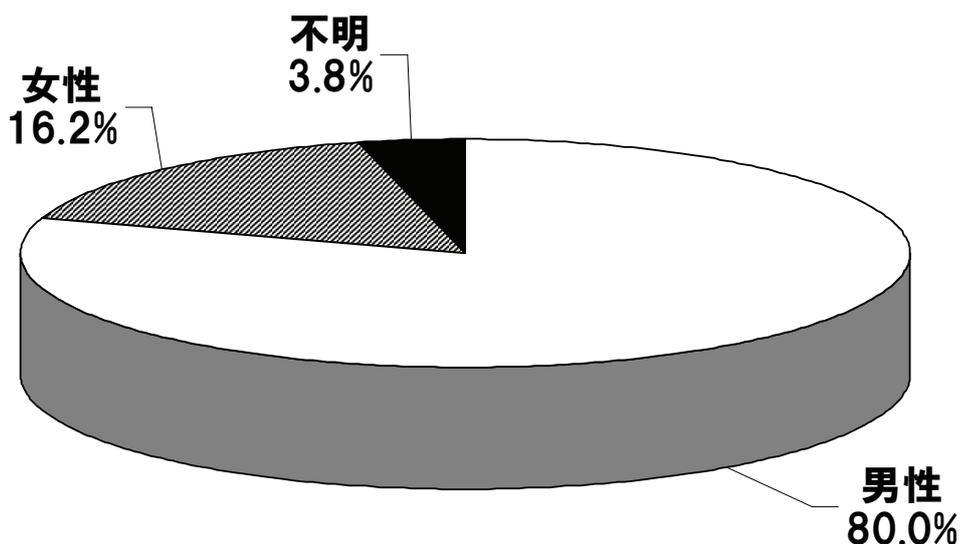


図1-6 引きこもり本人の性別

引きこもり本人の性別については、男性が80.0%、女性が16.2%、不明が3.8%でした。男性が多い傾向もこれまでの調査と同様でした。

⑥引きこもり本人の年齢

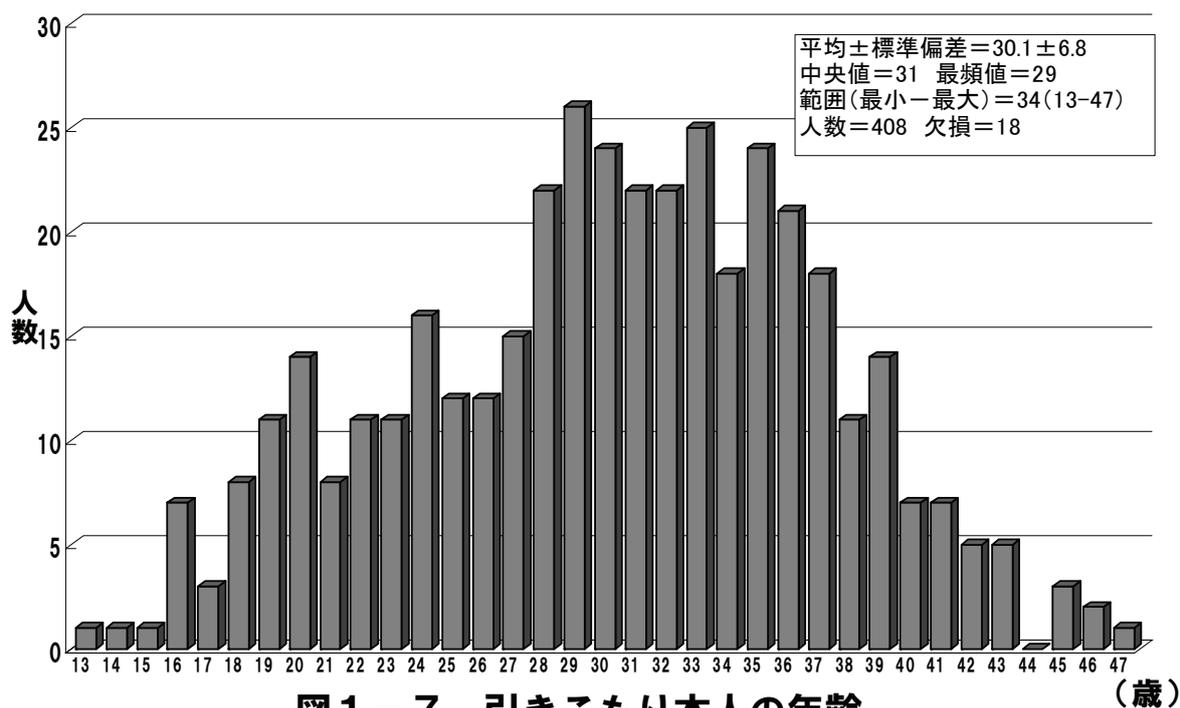


図1-7 引きこもり本人の年齢 (歳)

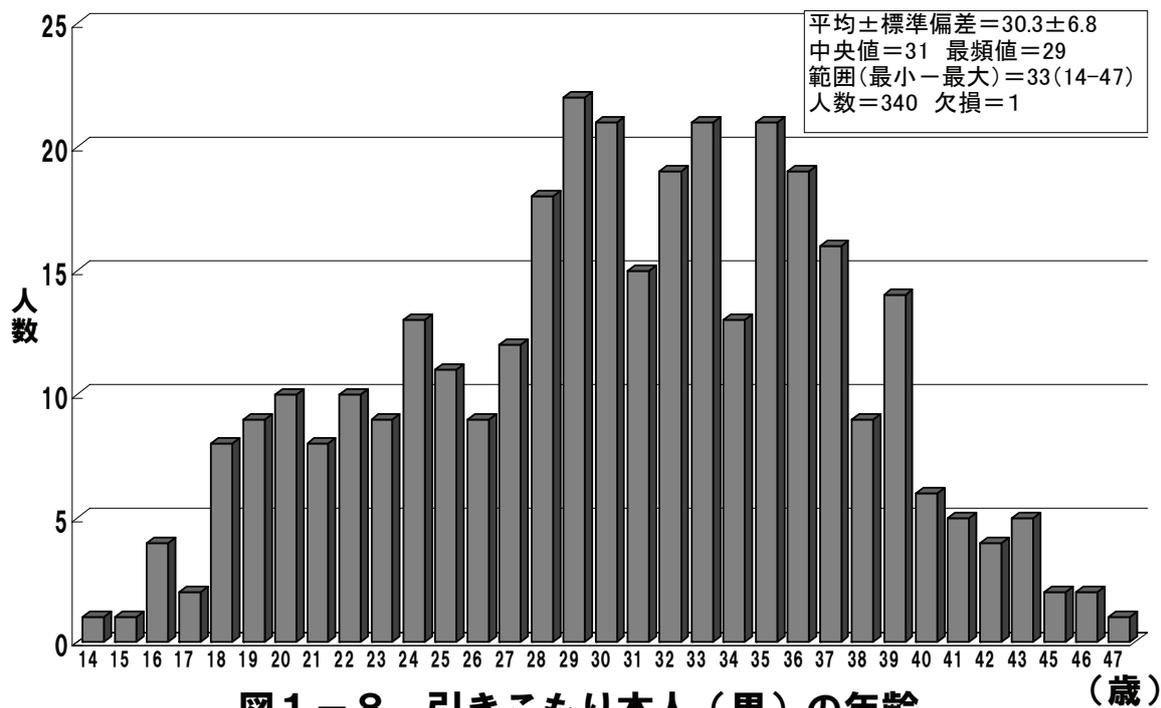


図1-8 引きこもり本人(男)の年齢 (歳)

全体では平均30.2歳であり、最年少が13歳、最年長が47歳でした。男性に関しては、平均年齢30.3歳であり、最年少が14歳、最年長が47歳でした。女性に関しては、平均年齢29.3歳、最年少が13歳、最年長が45歳でした。このことから、男性の年齢が女性よりも年齢が高い傾向にあることが分かります。また、2007年の調査で初めて平

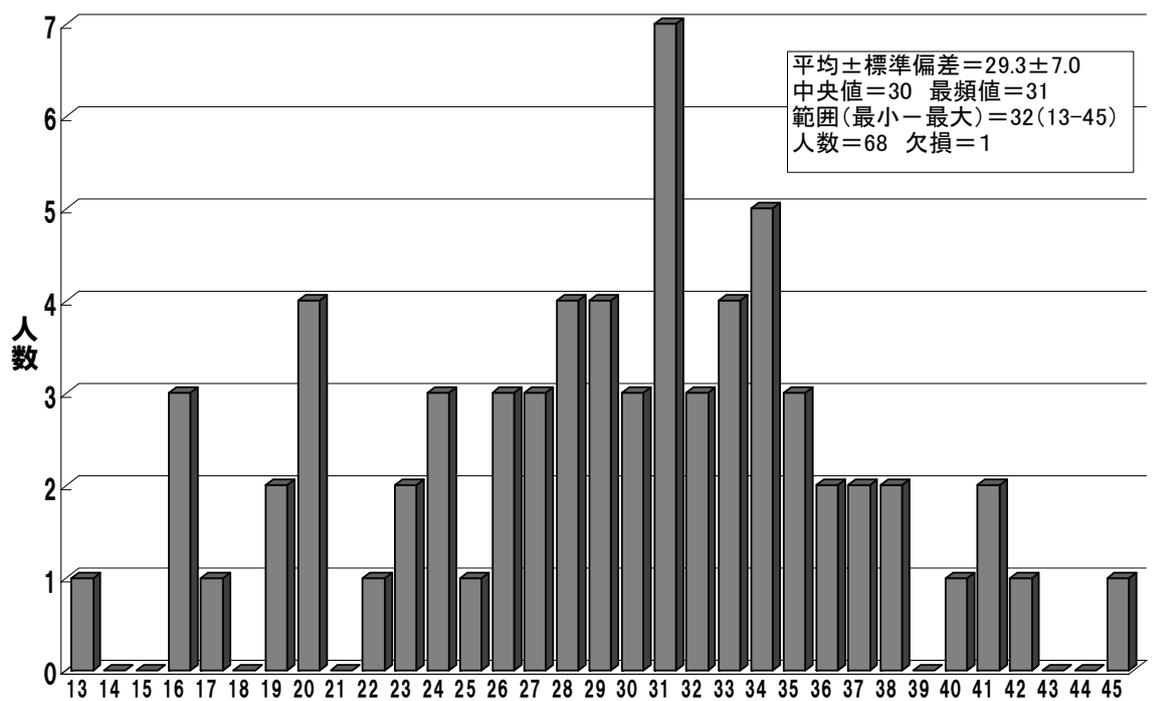


図1-9 引きこもり本人（女）の年齢 (歳)

均年齢が30歳を越えましたが、本年度の調査では若干ではありますが年齢がさらに上昇しました。この結果は、本調査の対象となった引きこもり本人の年齢についての結果であり、引きこもり本人全体の年齢上昇を示しているわけではありません。しかし、高年齢化した引きこもり本人への支援が重要な課題であることには変わりがないといえます。

#### ⑦引きこもり期間

引きこもり期間は、平均8.8年であり、最長が40年でした。引きこもり期間は調査実施時までのものであり、今後さらに伸びる可能性があります。引きこもりの長期化は、引きこもり本人や家族に深刻な影響を与えるため、早期の回復が望まれます。

#### ⑧引きこもりの開始年齢

引きこもりが始まった年齢は、平均21.2歳であり、最小が10歳、最大が44歳でした(図1-11)。特に、12歳から29歳までに引きこもり始める人が89.3%と多く、中学校入学から20代後半までに引きこもりが始まるものがほとんどであるといえます。

#### ⑨引きこもりの程度

引きこもりの程度については、他者との関わりはないが外出しているという人が全

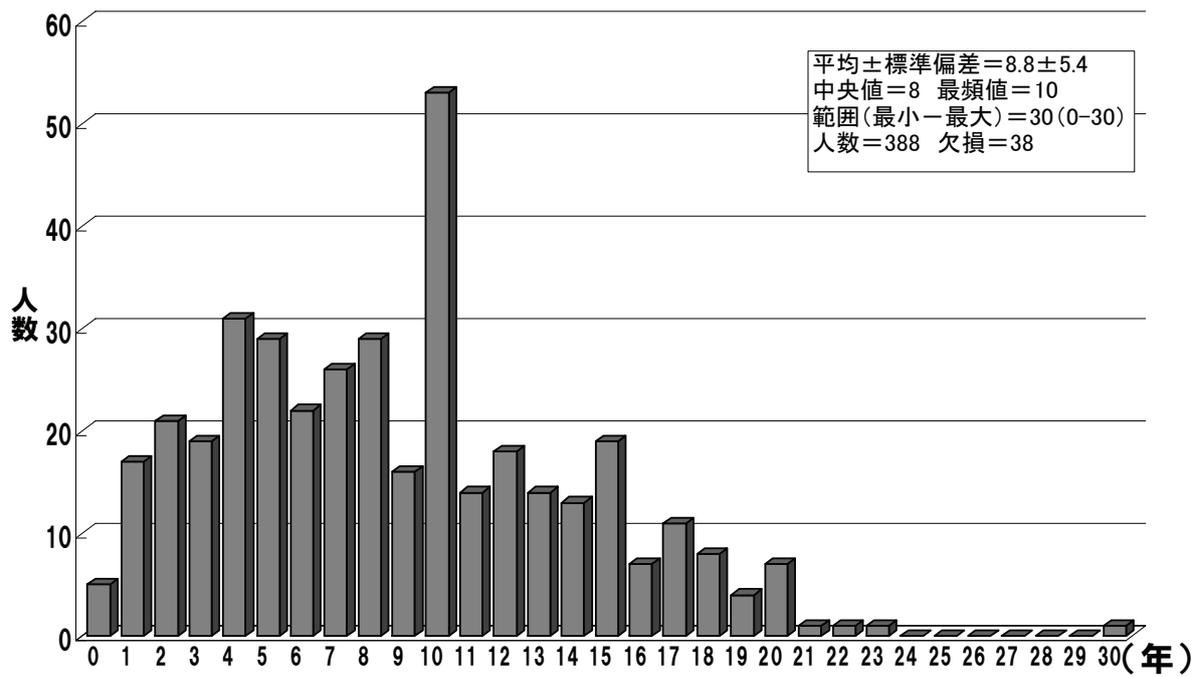


図1-10 引きこもり期間

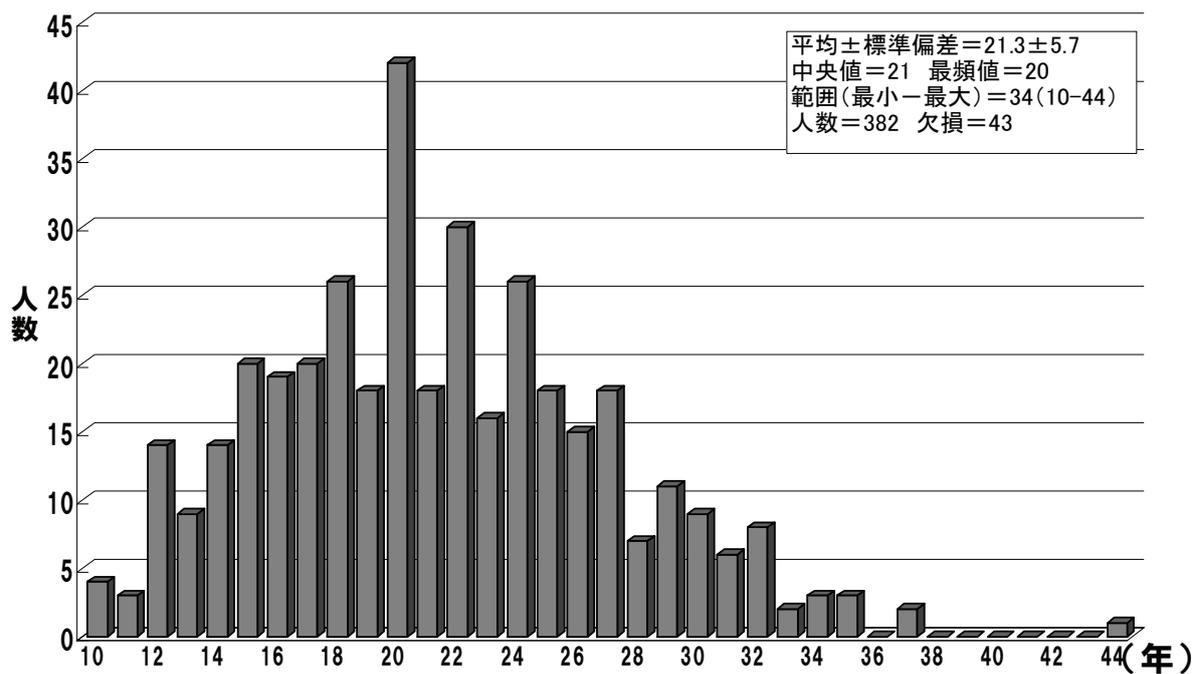


図1-11 引きこもりの開始年齢

体の51.4%と最も多く存在しました。友人との付き合い，地域活動に参加といった人も5.6%含まれています。一方で，外出できないが，家庭内では自由に行動している人が17.6%，外出もできず，家庭内でも避けている場所がある人が5.4%，自室に閉じこもっている人が3.8%となっています。一般的に引きこもりというと外出しないというイメージがありますが，外出できない人は27.7%であり，外出できない人は引きこもりの中でも深刻な状態にあると考えられます。

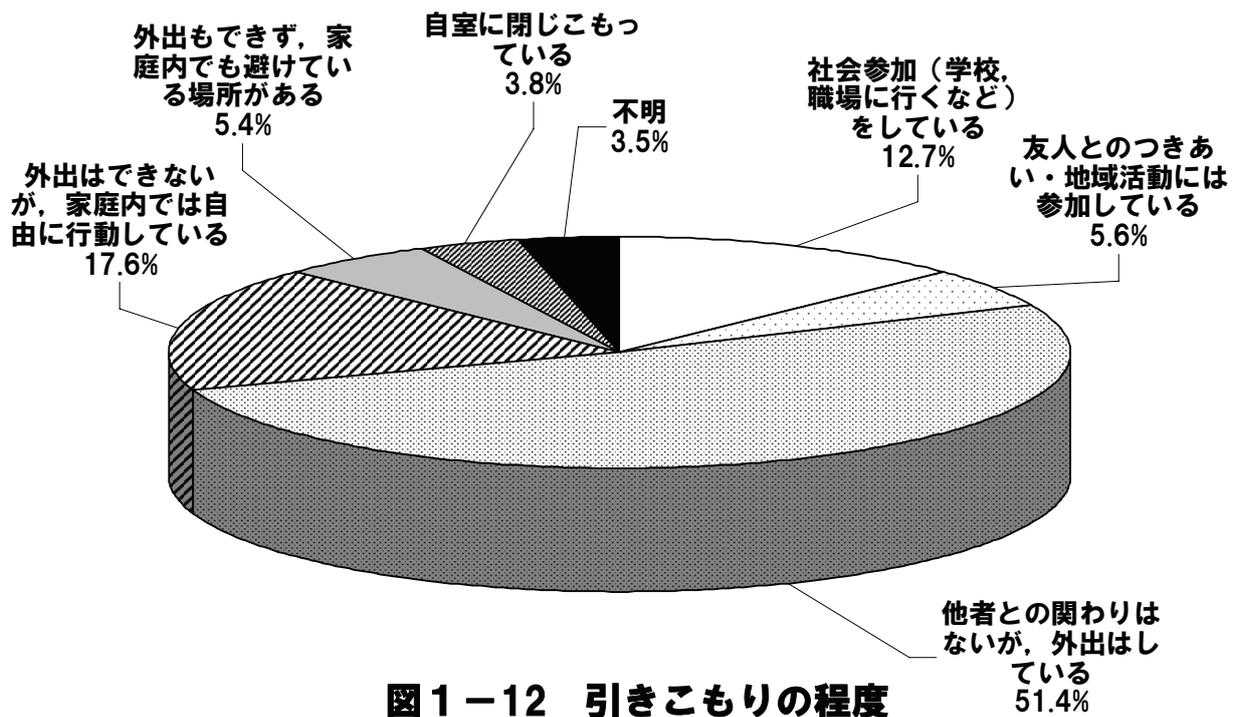


図1-12 引きこもりの程度

⑩引きこもり状態にある人が複数いる家庭

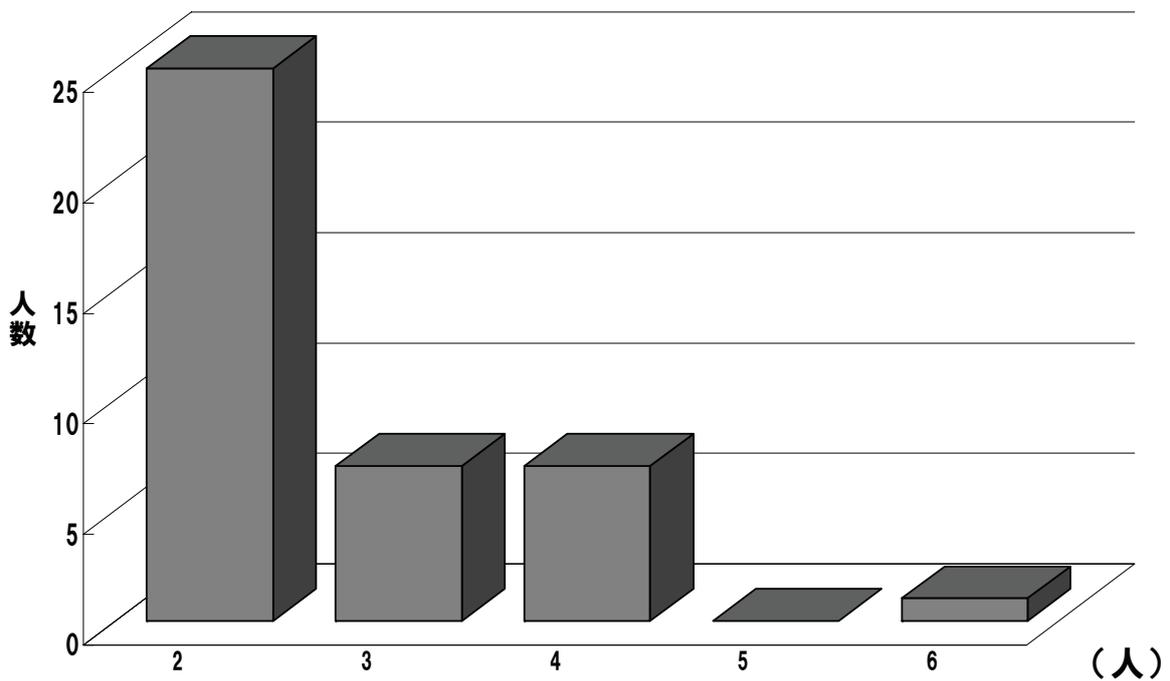


図1-13 複数人いる家庭

引きこもり状態にある人が家庭に2人いる回答者が25名、3人が7名、4人が7名、6人が1名となりました。本調査の対象者のうち40名は引きこもりの人が2人以上家庭にいることになり、これは全体の9.4%にあたります。決して少なくない人数です。

## ⑪引きこもり本人の相談機関の利用状況

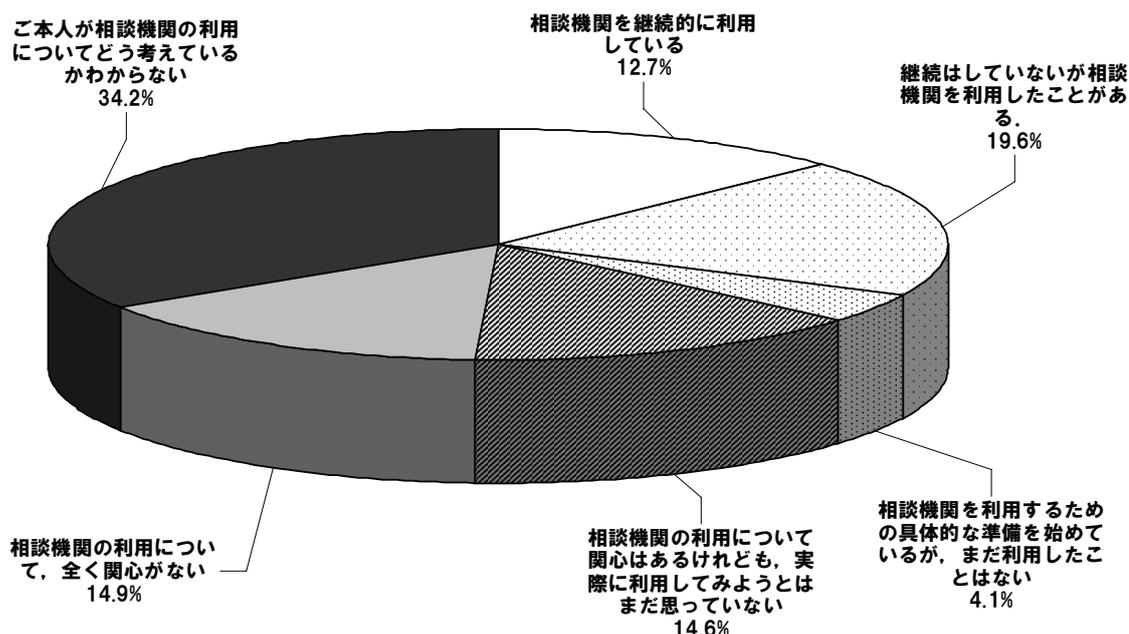


図1-14 引きこもり本人の相談機関の利用状況

図1-14は、引きこもり本人の相談機関の利用状況を示しています。継続的に相談機関を利用している人は僅か12.7%に過ぎません。継続はしていないが相談機関を利用したことがあるという人が19.6%で、これまでに相談機関を利用したことのある人は全体の32.3%です。相談機関の利用について、全く関心がない人が14.9%、本人が相談機関の利用についてどう考えているのか分からない人が34.2%でした。相談機関を利用することが全てを解決するとはいえませんが、長期にわたる引きこもり状態にありながらも相談機関を利用していない人が多いことが分かります。また、最も深刻なのは、家族ですら引きこもり本人が相談機関の利用についてどう考えているのか分からないというケースであると考えられます。

## ⑫家族回答者の相談機関の利用状況

図1-15は、家族の相談機関の利用状況を示しています。家族で定期的に相談機関を利用している人は33.7%です。継続はしていないが相談機関を利用したことがあるという人が37.0%となっており、一旦は利用するけれども継続していない人が多いことが分かります。家族に関しては、相談機関を利用したことのある人は70.7%であり、引きこもり本人と比べて高い値となっています。こうした家族の相談への高い動機づけを足がかりに、引きこもり本人への支援に繋げることが重要と考えられます。

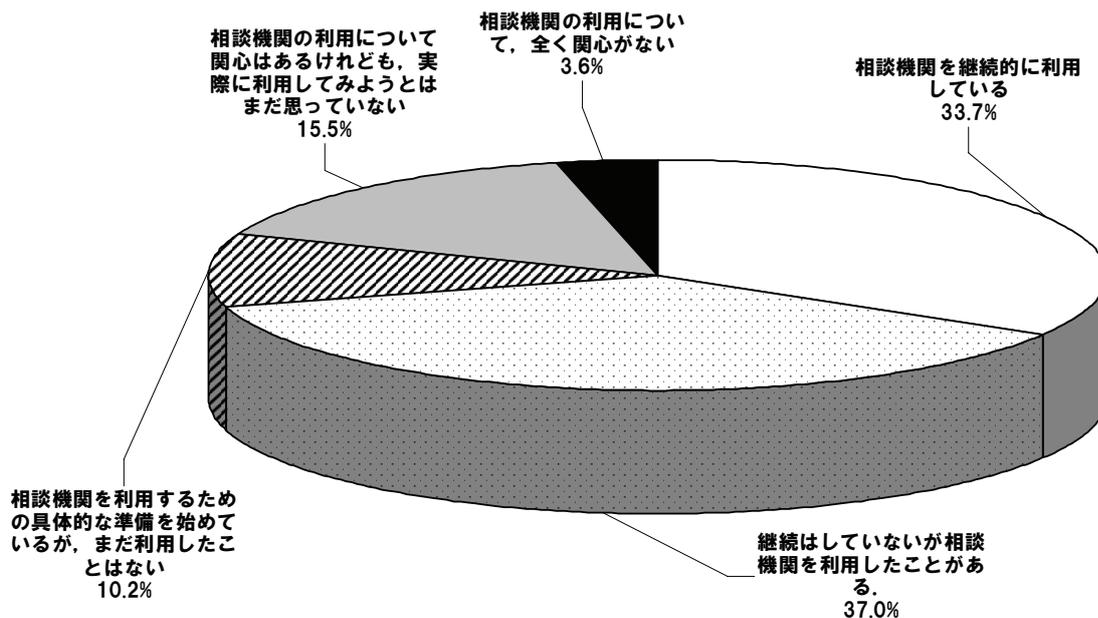


図1-15 家族回答者の相談機関の利用状況

2. 「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に望む支援

①家族回答者が開所を希望する曜日

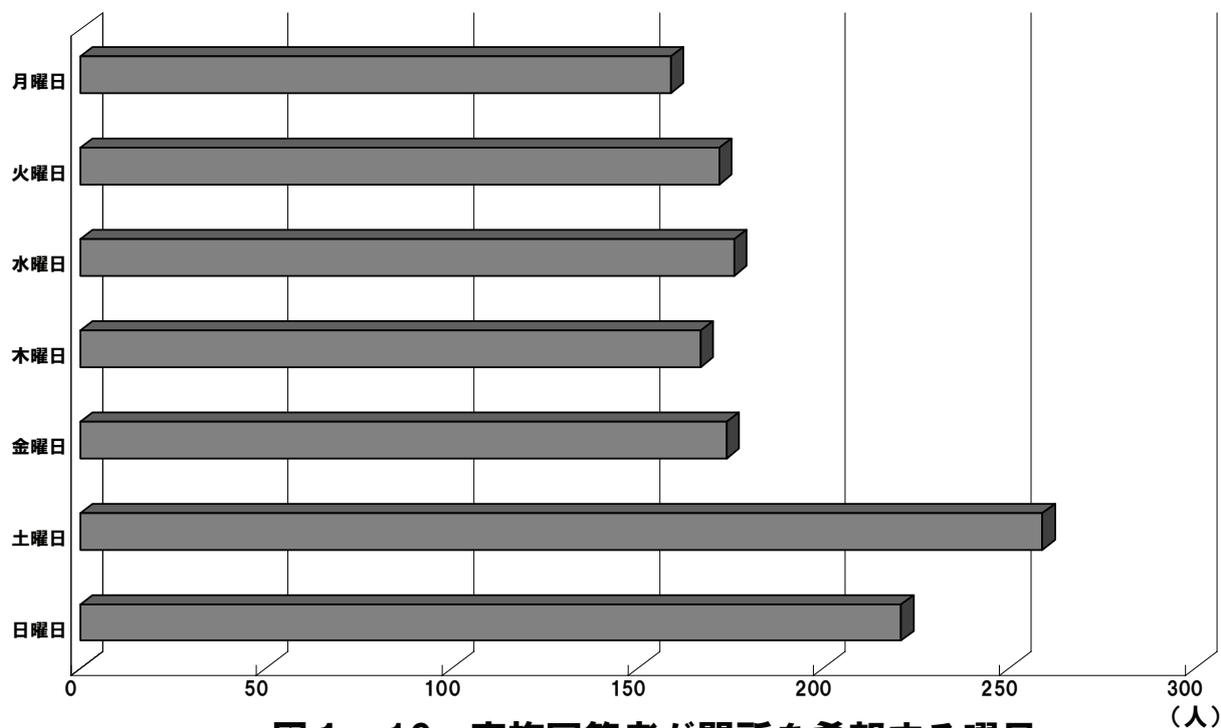


図1-16 家族回答者が開所を希望する曜日

開所を希望する曜日として多かったのは、土曜日と日曜日です。家族の中には働いている人も多く、休日に利用したいという要望が多いためと考えられます。

②家族回答者が希望する開所時間

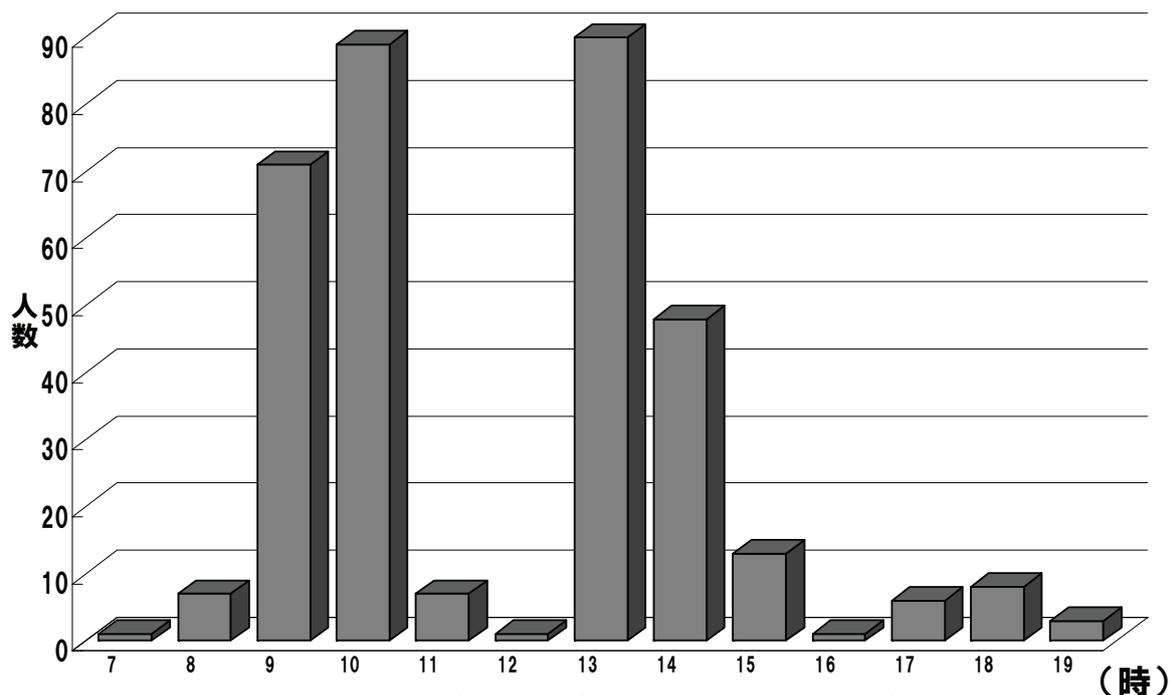


図1-17 家族回答者が希望する開所時間

開所を希望する時間としては、9、10時と、13、14時が多いことが示されました。

③家族回答者が希望する閉所時間

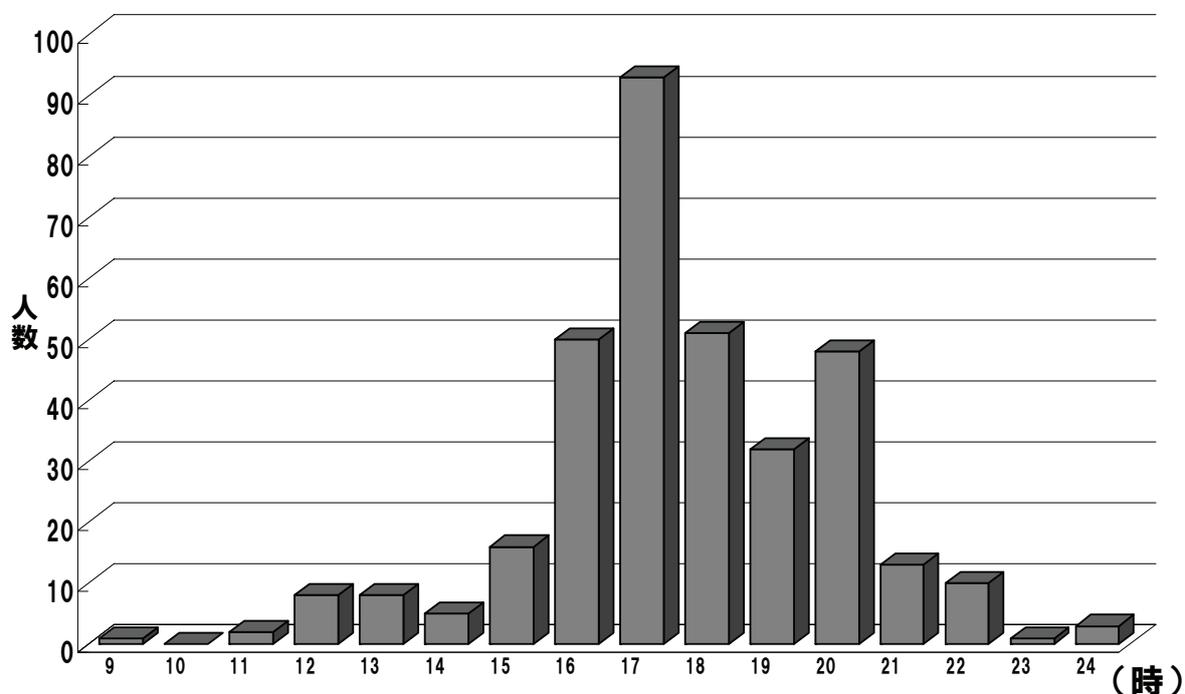


図1-18 家族回答者が希望する閉所時間

閉所時間に関しては、16時～20時迄に集中しています。開所時間と合わせて考えると、9時から20時頃まで開所していると、ほとんどの家族のニーズに応えることが可能になると考えられます。

#### ④家族回答者が求める支援方法

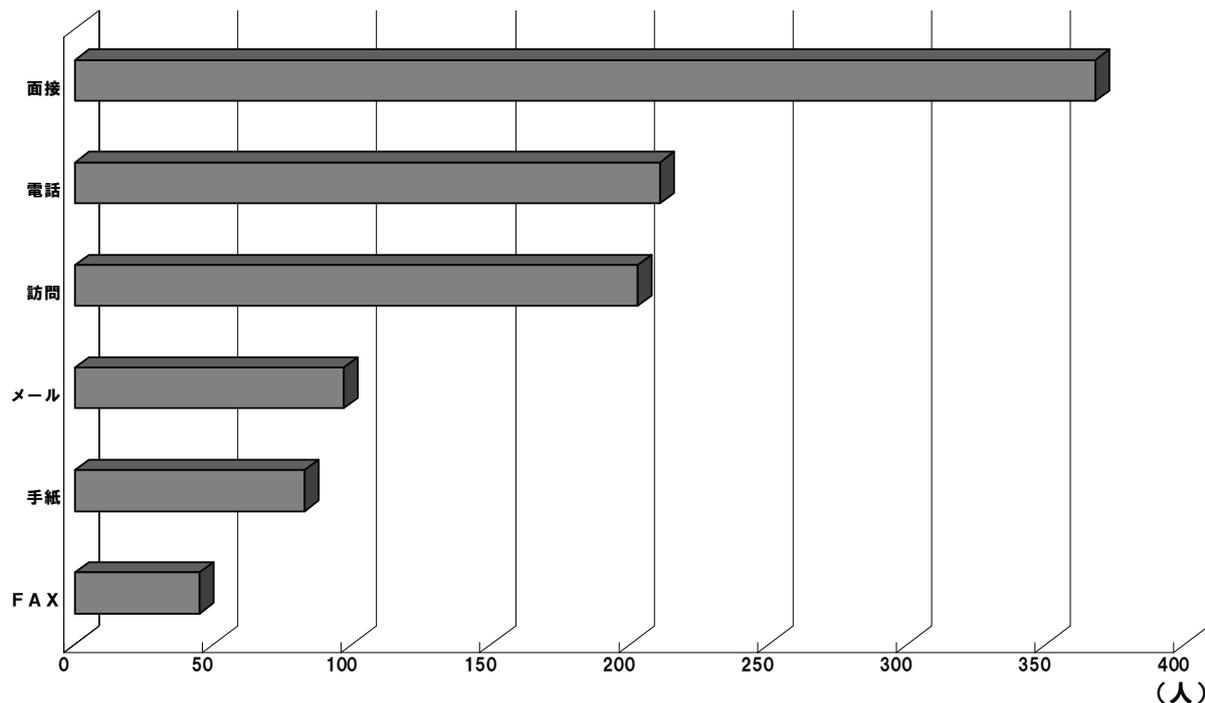


図 1-19 家族回答者が求める支援の方法

家族が希望する支援方法については、面接が最も多く認められました。次いで、電話と訪問が多く認められ、家族の要望に応えるには、面接はもとより電話、訪問を実施する必要があると考えられます。

#### ⑤家族回答者が相談したい専門家

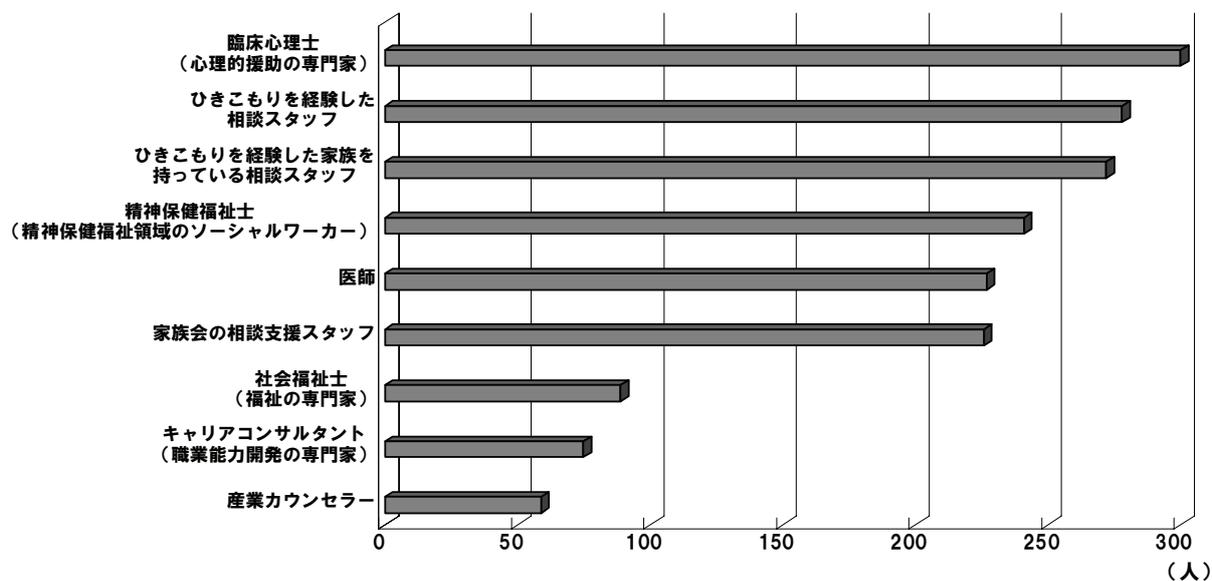


図 1-20 家族回答者が相談したい専門家 (1)

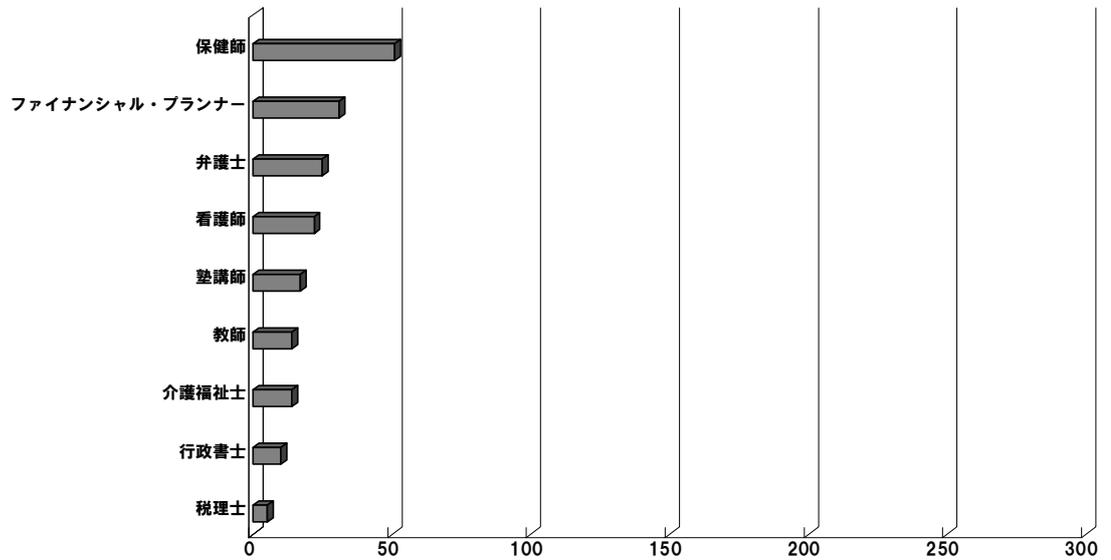


図 1-21 家族回答者が相談したい専門家 (2)

家族回答者が相談したい専門家として、最も多かったのは臨床心理士（心理的援助の専門家）でした。次に、ひきこもりを経験した相談スタッフ、ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフへの要望が多く認められました。さらに、精神保健福祉士、医師、家族会の相談支援スタッフへの要望が多く認められました。

これらの結果は、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」には利用者の心理的側面を理解してくれるスタッフが求められていることを示唆しているといえます。

#### ⑥家族回答者が望む情報提供の方法

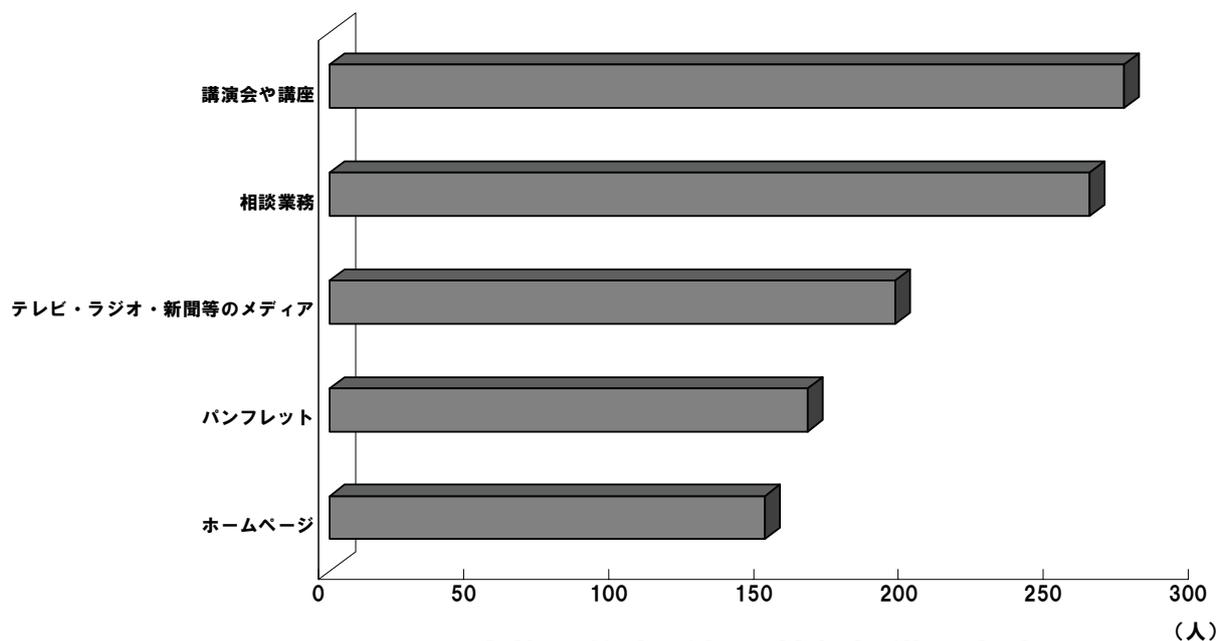


図 1-22 家族回答者が望む情報提供の方法

望まれる情報発信の手段として、最も多かったのが講演会や講座です。相談業務における情報提供は当然のこととして行われますが、相談に来ていない家族に広く情報を提供するためには定期的な講演会の開催などが有効と考えられます。

### ⑦家族回答者が望む支援

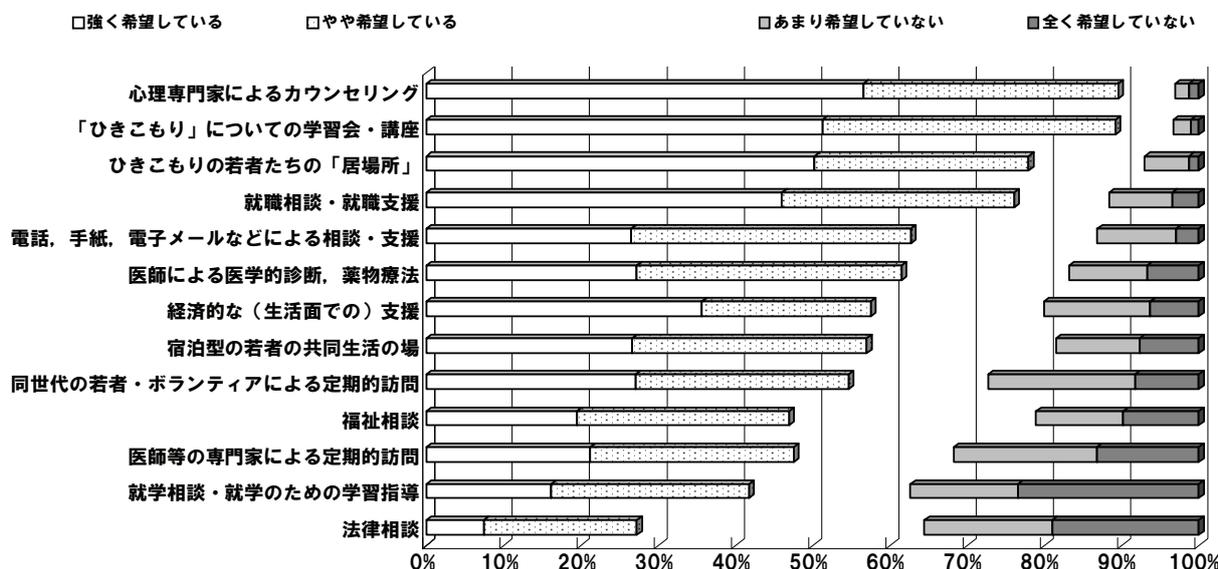


図 1-23 家族回答者が望む支援

家族回答者が「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に求める支援について、最も多かったのが心理専門家によるカウンセリングと「ひきこもり」についての学習会・講座です。これらの二つは、9割以上の家族が求めており、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」において家族への支援を行う上で必須の支援といえます。

また次に多いのが、ひきこもりの若者達の「居場所」と就職相談・就職支援です。引きこもり本人を支援する上で居場所へのニーズは非常に大きいです。居場所は、引きこもり本人を継続的に支援していくシステムの基盤になるものです。居場所は、対象者に関わり続けるためのインフラストラクチャーであり、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」には、引きこもり支援のインフラストラクチャーとしての機能が求められているといえます。

これらの結果から、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」では、心理専門家によるカウンセリング、「ひきこもり」についての学習会・講座、ひきこもりの若者たちの「居場所」、就職相談・就職支援を実施する必要があるといえます。

#### 4. まとめ

本調査から「ひきこもり地域支援センター（仮称）」における家族を対象とした支援に求められる条件として以下のことがあげられます。

- ①週末に利用できる。
- ②午前9時から午後8時頃まで利用できる。
- ③面接，電話，訪問で支援を行うことができる。
- ④臨床心理士，ひきこもりを経験した相談スタッフ，ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフ，精神保健福祉士，医師，家族会の相談支援スタッフといった専門家に相談できる。
- ⑤講演会や講座，相談業務の中で情報提供ができる。
- ⑥心理専門家によるカウンセリング，「ひきこもり」についての学習会・講座，ひきこもり若者たちの「居場所」，就職相談・就職支援を実施できる。

## 第二部 本人調査

## 1. 目的

本調査は二部構成となっています。前半は2009年度から設置される「ひきこもり地域支援センター（仮称）」へのニーズ把握を目的としています。後半は引きこもり経験者の相談機関の利用の実態を明らかにすることを目的としています。

## 2. 調査方法

### (1) 調査対象者

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会の支部会，準地区会が平成20年11月～平成21年1月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会に参加している引きこもり経験者の内，調査協力の得られた83名の回答が解析に用いられました。主には，月例会において調査用紙を対象者に配布し，その場で回収しました。しかし，運営の事情から，配布したものを持ち帰ってもらい翌月の月例会に記入の上持参したものを回収したり，郵送による配布，回収を行った回答者もいました。なお，本調査では，現在KHJ親の会の居場所などに参加できている方を対象としています。

### (2) 調査内容

①基礎情報 本調査に回答した引きこもり経験者（以下，調査回答者）の基礎情報として以下の情報を尋ねました。

- 現在住んでいる都道府県
- 性別
- 年齢

②「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に望む支援

- 開所を希望する曜日
- 希望する開所時間
- 希望する閉所時間
- 希望する相談方法
- 相談したい専門家
- 希望する情報提供の方法
- 希望する支援

### ③相談機関の利用の実態

- 引きこもり経験の有無
- 引きこもり期間
- 引きこもりの程度
- 相談機関の利用経験の有無
- 相談機関利用の状況
- 相談機関を利用する可能性

- 妨害要因チェックリスト

妨害要因チェックリストは、中村ら（2006）にて翻訳されたSteflら（1985）を用いました。この尺度は、「情報（利用可能な相談機関の存在，または相談機関の所在を知っているか）」，「アクセスしやすさ（相談機関までの交通アクセスは良好か，一緒に行ってくれる人は存在するか）」，「経済的・時間的余裕（相談機関を利用するための経済的・時間的余裕は存在するか）」といった8項目から構成されており，相談機関を利用する際に障害だと思う項目を選んでもらいました。

- 対人交流に対する不安

Social Interaction Anxiety Scale 日本語版（以下「SIAS」と記す）は、金井ら（2004）によって開発された翻訳版です。人との会話やつきあいのような他者と交流する状況に対する不安を測ります。「対人交流に対する不安」と「対人交流場面における効力感の低さ」の2因子，20項目で構成されています。「対人交流に対する不安」には「人前で何を話したらよいかかわからないと心配する」など17項目，「対人交流場面における効力感の低さ」には「同年代の人と友達になるのはたやすい（逆転項目）」など3項目が含まれています。「まったくあてはまらない（0点）」から「非常にあてはまる（4点）」までの5件法で回答を求めました。

- 相談行動の利益・コスト

相談行動の利益・コスト尺度改訂版（以下「利益・コスト尺度」と記す）を用いました。この尺度は、永井ら（2008）によって開発された尺度で，相談行動の利益とコストを測定することができます。「ポジティブな結果」，「否定的応答」，「秘密漏洩」，「自己評価の低下」，「問題の維持」，「自助努力による充実感」の6因子，

26項目で構成されています。「ポジティブな結果」には「相談すると悩みの解決方法がわかる」など8項目、「否定的応答」には「相談をしても、相手に嫌なことを言われる」など6項目、「秘密漏洩」には「相談したことを他の人にばらされる」など3項目、「自己評価の低下」には「悩みを相談すると、自分の弱い面を相手に知られてしまう」など3項目、「問題の維持」には「一人で悩んでいても、いつまでも悩みをひきずることになる」など3項目、「自助努力による充実感」には「一人で悩みに立ち向かうことで、強くなれると思う」など3項目が含まれています。「そう思わない（1点）」から「そう思う（5点）」の5件法で回答を求めました。

利益・コスト尺度を用いるにあたり、本研究の主旨に合わせて教示文の「もし、あなたが悩んだり、困ったりしたとき、自分の友だちに悩みを相談するとしたら」を「あなたが『ひきこもり状態』にあることによって生じる悩みを何らかの専門家に相談するとしたら」、項目の「友達に相談をしても意見が合わない」を「何らかの専門家に相談をしても意見が合わない」と変更して調査を行ないました。

### 3. 結果

#### 1. 基礎情報

##### ①調査回答者が住んでいる場所

表2-1 調査回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	山形県	6
	岩手県	3
	北海道	2
	青森県	1
	石川県	1
甲信越地方	新潟県	19
関東地方	千葉県	21
	神奈川県	1
東海地方	愛知県	6
近畿地方	大阪府	6
	兵庫県	5
	京都府	3
四国地方	香川県	2
	高知県	2
	徳島県	2
不明		3
合計		83

表2-1に示したとおり、調査回答者が住んでいる場所は15都道府県に分布しています。各地方の割合としては、北海道・東北地方が15.7%、甲信越地方が22.9%、関東地方が26.5%、東海地方が7.2%、近畿地方が16.9%、四国地方が7.2%、不明が3.6%となっています。

## ②調査回答者の性別

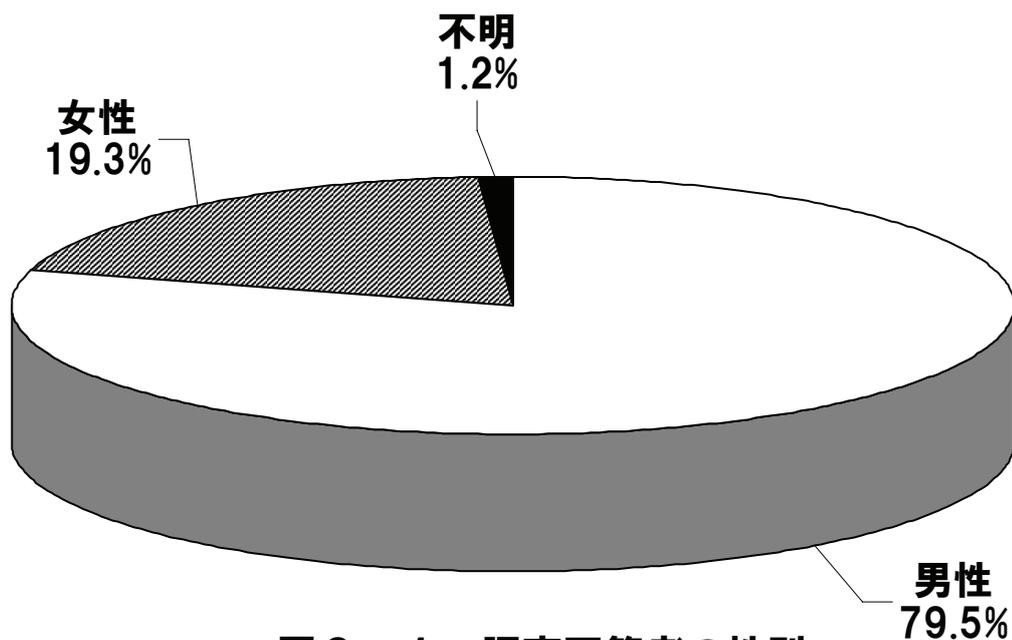


図 2 - 1 調査回答者の性別

家族調査とほぼ同様で調査回答者の性別は男性が79.5%、女性が19.3%、不明が1.2%でした。

## ③調査回答者の年齢

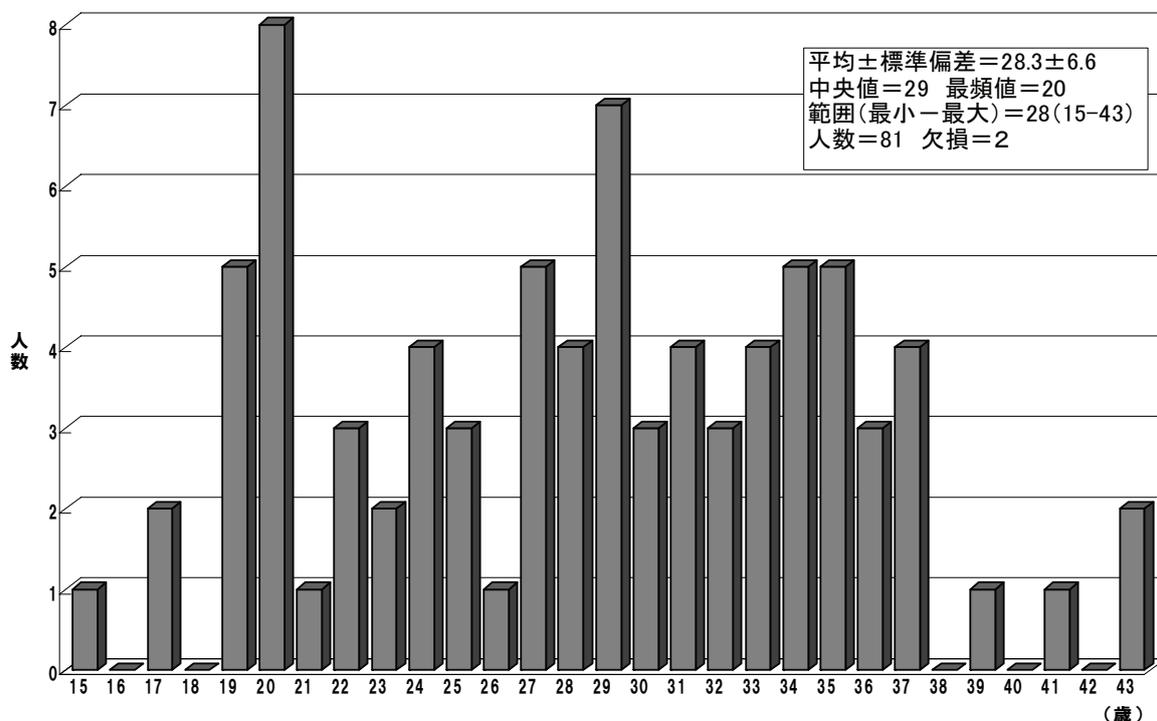


図 2 - 2 調査回答者の年齢

調査回答者の平均年齢は28.3歳であり、最年少が15歳、最年長が43歳でした。家族調査よりも、引きこもり本人の年齢が低い傾向にあります(図2-2)。

## 2. 「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に望む支援

### ①引きこもり経験者が開所を希望する曜日

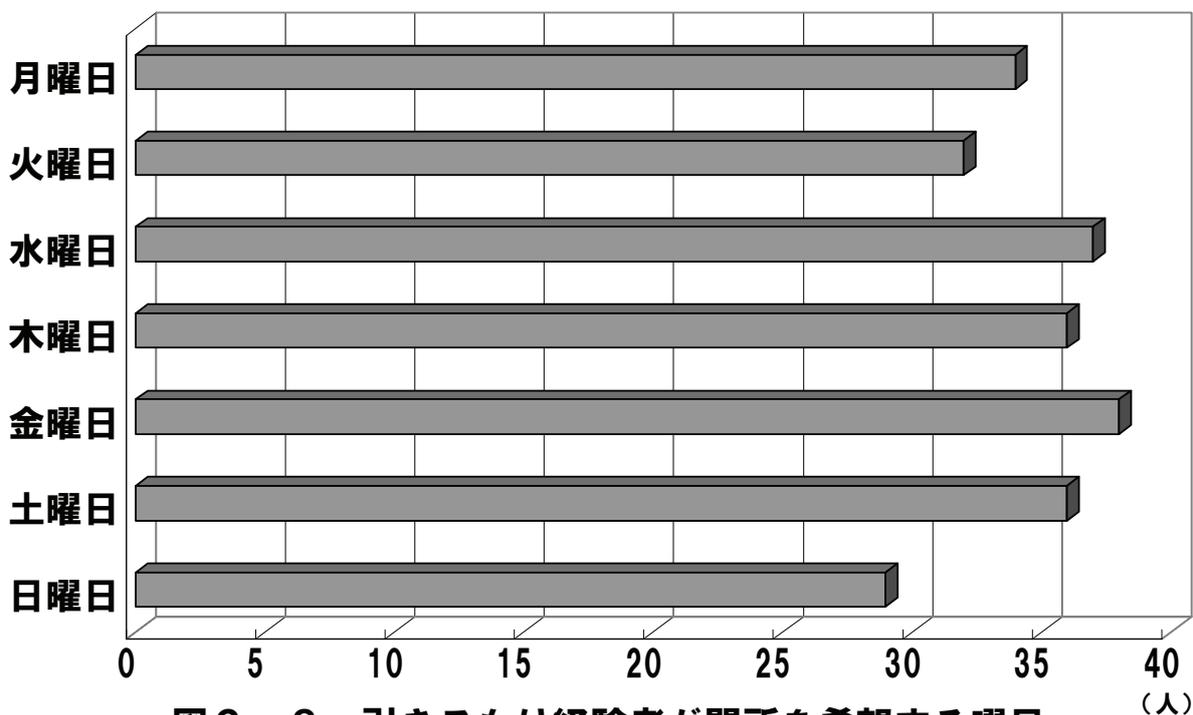


図2-3 引きこもり経験者が開所を希望する曜日

図2-3は、調査回答者が相談を希望している曜日を示しています。曜日による大きなばらつきは見られません。家族回答者が週末を希望しているのと比較すると、ひきこもり経験者は特に希望している曜日はないといえます。

### ②引きこもり経験者が希望する開所時間

図2-4は、調査回答者が希望している相談開始時刻です。10時から相談窓口を開けて欲しいと思う人が多いことが分かります。

### ③引きこもり経験者が希望する閉所時間

図2-5は、調査回答者が希望している相談終了時刻です。18時まで相談窓口を開いて欲しいと思っている人が多いことが分かります。希望する開所時間と合わせると、10時から20時まで開所していると、ひきこもり経験者の多くの要望に応えられるといえます。

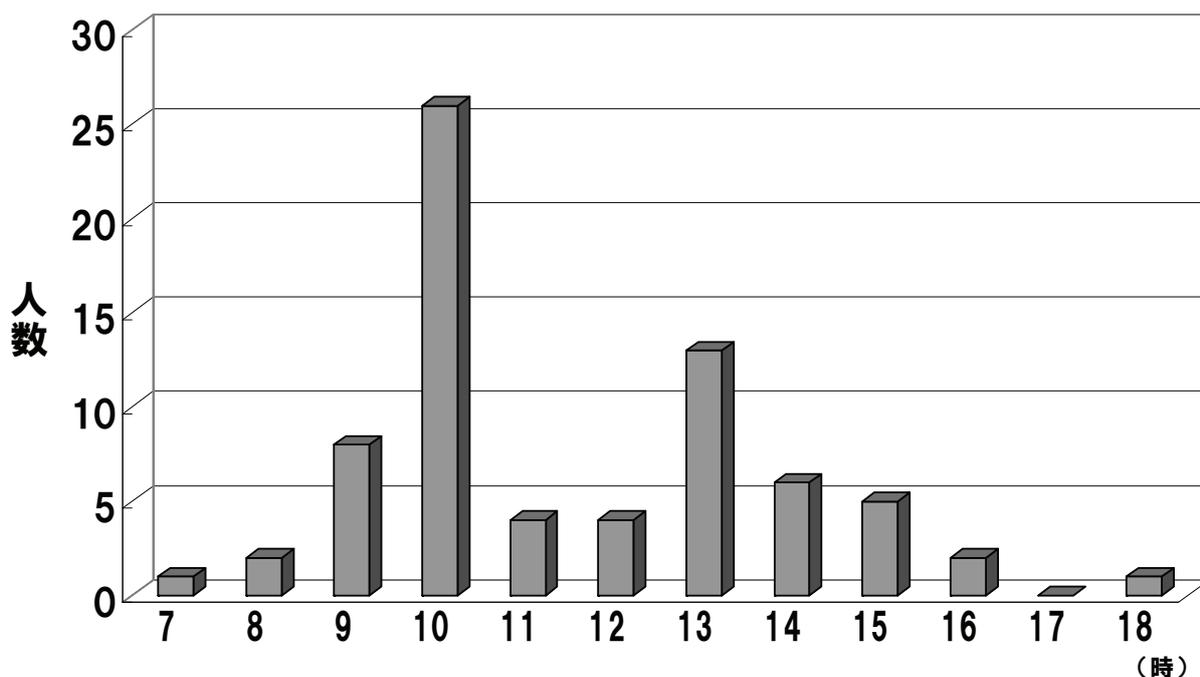


図2-4 引きこもり経験者が希望する開所時間

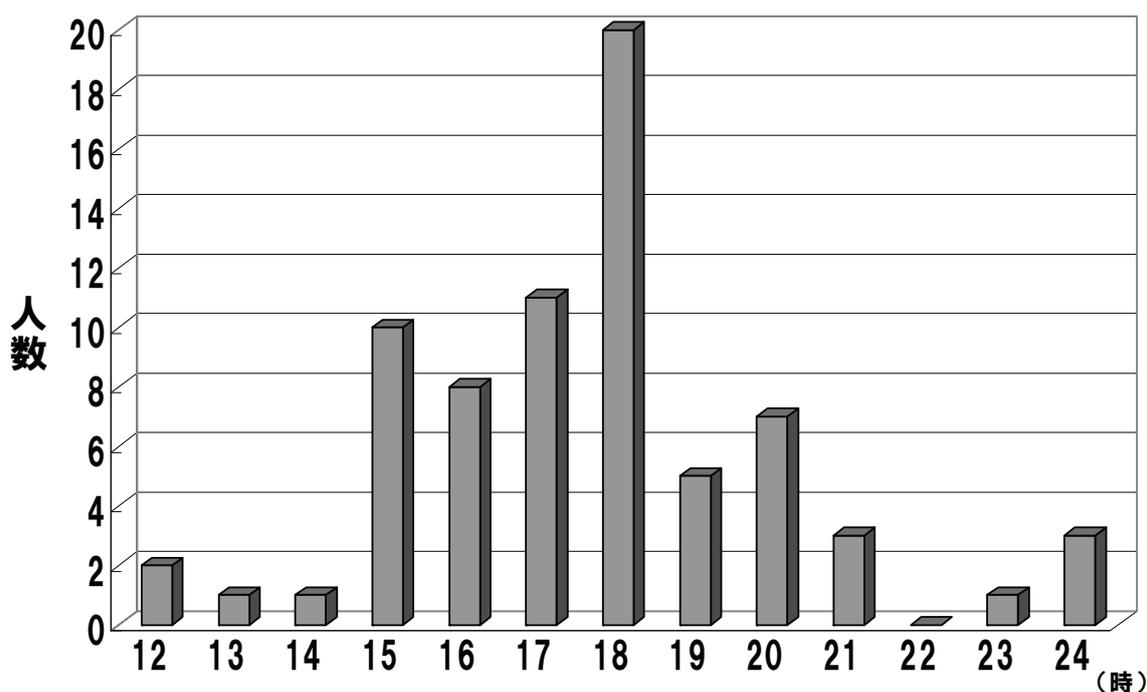


図2-5 引きこもり経験者が希望する閉所時間

⑤引きこもり経験者が求める支援の方法

図2-6は、相談方法を希望する人が多い順に並べ替えたものです。図2-6によると、70%近くの人が面接での相談を望んでいることが分かります。また、電話やメールでの相談を希望する人も40%程度いることが分かります。手紙、訪問、ファックスは10~20%の人が望んでいました。その他には携帯電話のメール、居場所の提供という回答がありました。

家族回答者の調査では、面接、電話、訪問への要望が多く認められましたが、ひきこもり経験者の場合、訪問よりもメールを希望していることがわかります。ひきこもり地域支援センターでの支援の方法としては、面接を主として、電話、訪問、メールでの相談が必要になると考えられます。

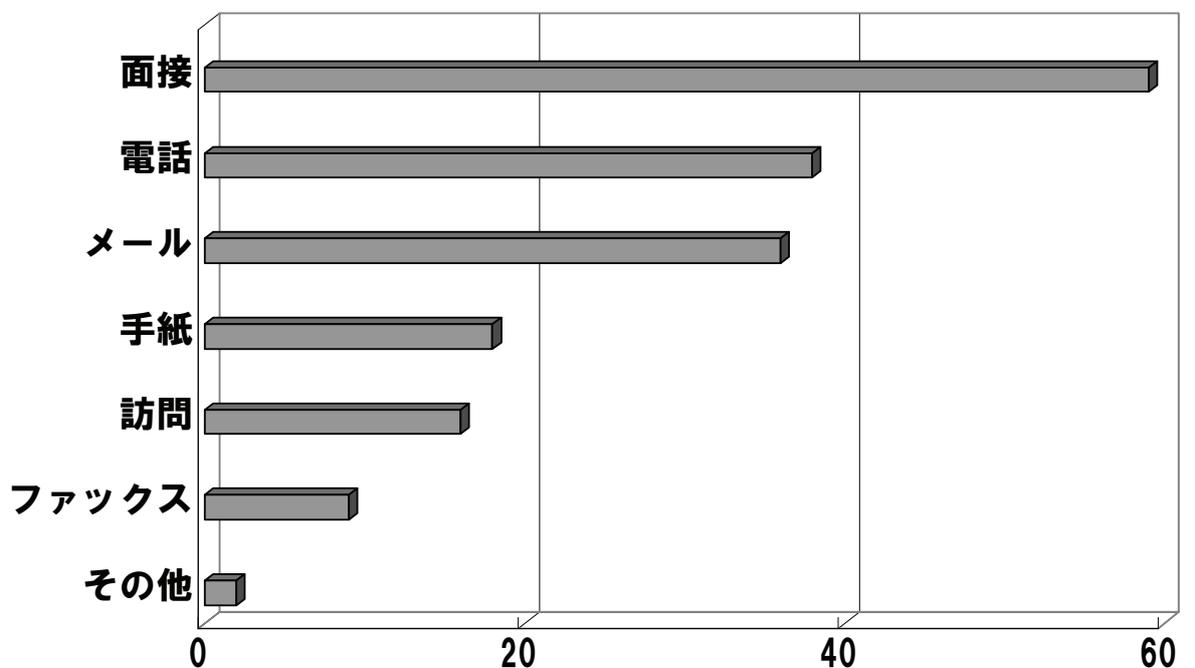


図2-6 ひきこもり経験者が求める支援の方法

③ひきこもり経験者が相談したい専門家

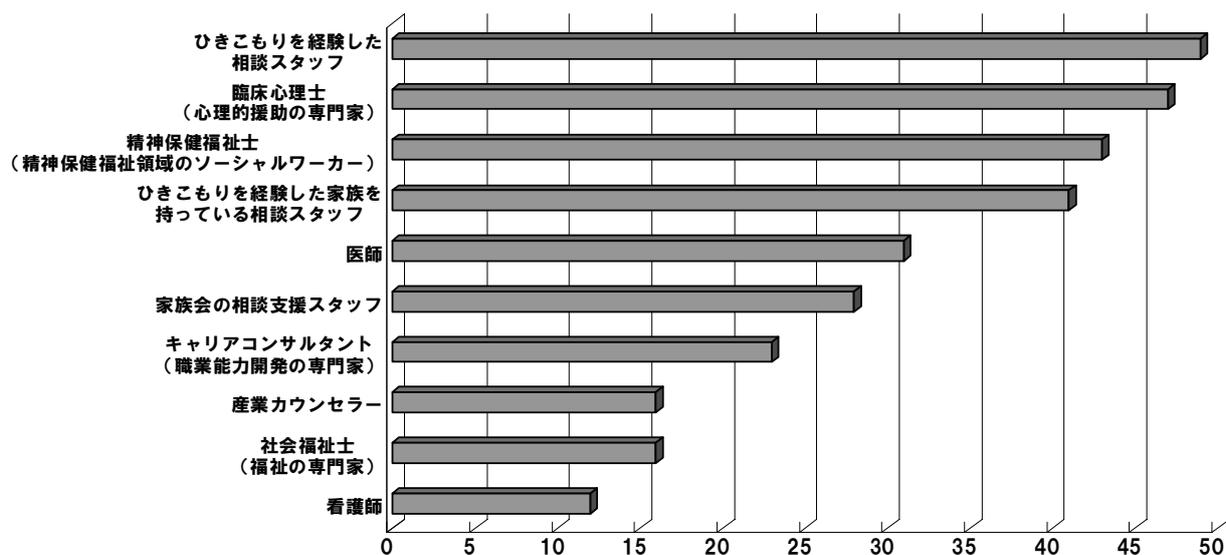
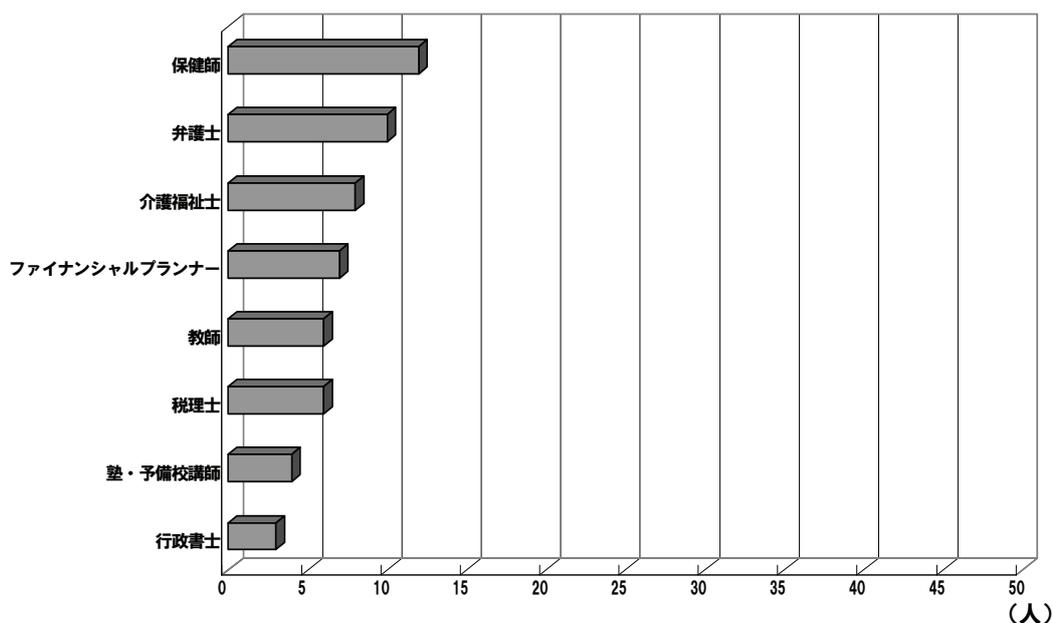


図2-7 ひきこもり経験者が相談したい専門家 (1)

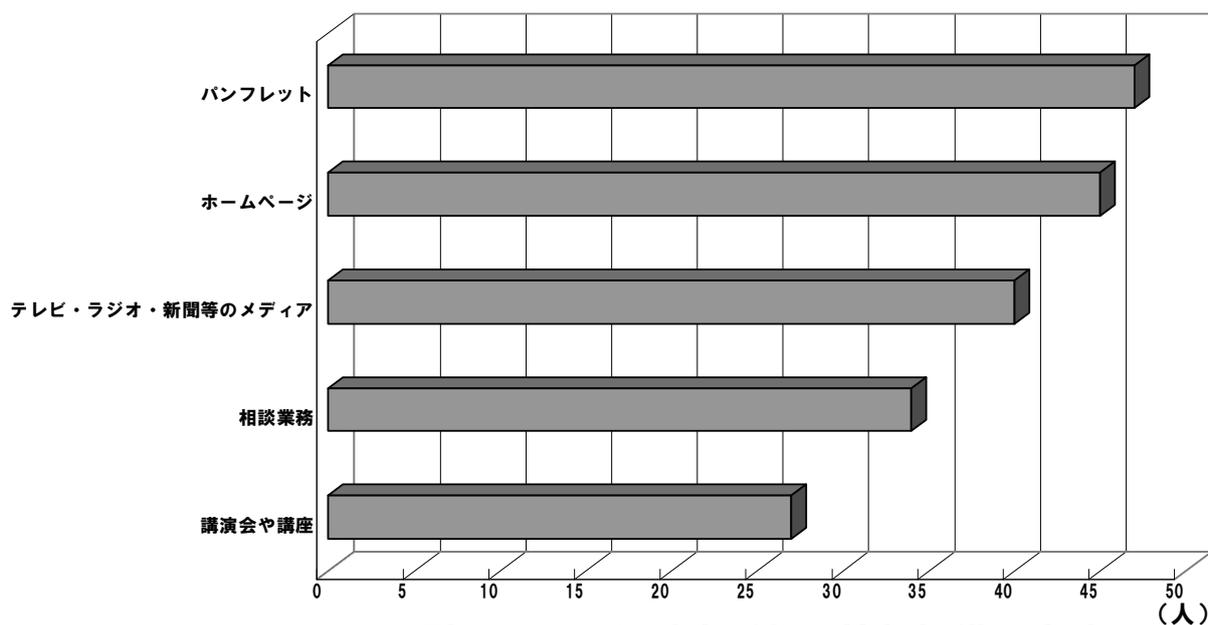


**図2-8 引きこもり経験者が相談したい専門家(2)**

図2-7によると、最も多くの人々が望んでいるのが、引きこもりを経験したスタッフで、次いで臨床心理士でした。さらに、精神保健福祉士、引きこもりを経験した家族を持つ相談スタッフを希望する人も多く認められました。これらに共通する点としては、ひきこもり経験者の心理的側面を理解してくれる人という点が上げられます。

医師、家族会の相談支援スタッフは30%以上の人々が希望していました。それ以外の専門性を希望する人は20%以下でした。その他には中年の孤独死の問題に詳しい人、自分より年上の人、どんな人でもわかってくれる人、という回答が認められました。

④引きこもり経験者が望む情報提供の方法



**図2-9 引きこもり経験者が望む情報提供の方法**

図2-9は、情報提供の方法を希望の多い順に並べ替えたものです。図2-9によると、半数以上の人が入フレットによる情報発信とホームページによる情報発信を希望しています。また、その他には役所・図書館など行政機関の掲示板・ちらし置き場、図書館等の公共の場にパンフレットをおく、という回答が認められました。

家族回答者においてニーズの高かった、相談業務の中での情報提供や講演会や講座による情報発信はひきこもり経験者にはあまり望まれていないといえます。ひきこもり経験者にとっては、パンフレット、ホームページ、メディアといった直接会わない形での間接的な情報提供が求められているといえます。

### ⑤引きこもり経験者が望む支援

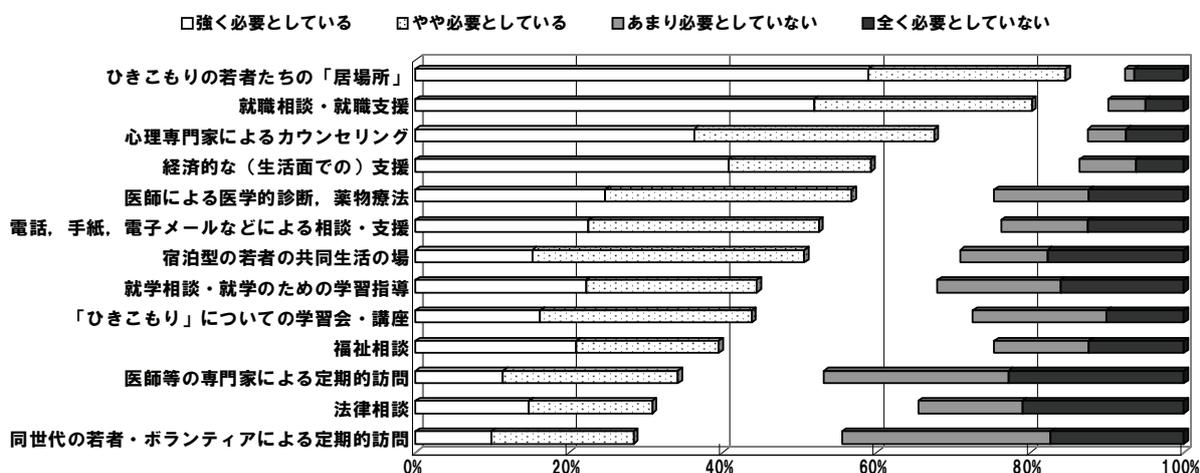


図2-10 引きこもり経験者が望む支援

図2-10は、引きこもりへの支援を必要度の高い順に並べ替えたものです。図2-10によると、引きこもりの若者たちへの「居場所」と就職相談・就職支援は80%以上の人が必要と思っていることが分かります。その他、半数以上が必要と思っている支援としては、心理専門家によるカウンセリング、経済的な（生活面での）支援、医師による医学的診断・薬物療法、電話・手紙・電子メールによる相談・支援、宿泊型の若者の共同生活の場です。2007年度の調査と比較すると、就職支援や経済的支援を求める人の割合が大きくなっています。前回の調査と対象者が変化した可能性もありますが、就職や経済的な支援への必要性が高まっている可能性が考えられます。

### 3. 引きこもり本人の相談機関の利用状況

本調査の後半部分は「就学，就労，家庭外での活動などの社会参加を避けている状態」を「引きこもり状態」とし，「引きこもり状態」にある人の相談行動について検討しました。

#### ①調査回答者の引きこもり経験の有無

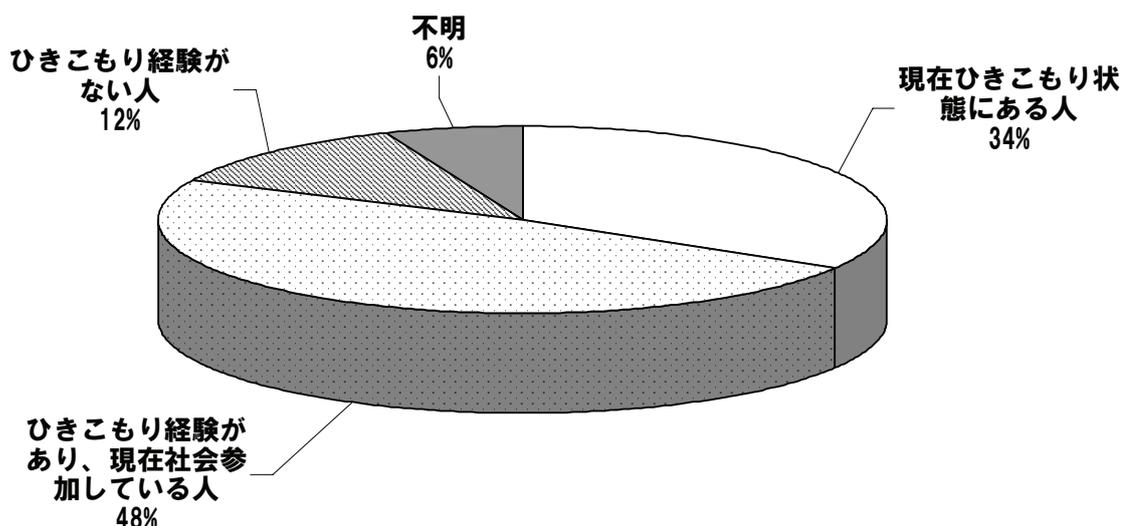


図2-11 調査回答者の引きこもり経験の有無

図2-11は本人用調査回答者に占める「引きこもり状態」にある人の割合を示しています。「3. 引きこもり本人の相談機関の利用状況」においては，現在「引きこもり状態」にある人28名（以下，現在「引きこもり状態」にある人）と過去に「引きこもり状態」を経験し，現在は社会参加している人40名（現在社会参加している人）を対象として解析を行いました。この分類は「引きこもり状態」の定義を尋ねる質問への回答によって判断しました。後半部分は現在「引きこもり状態」にある人28名を中心に分析を行いました。また現在「引きこもり状態」にある人との比較のため，現在社会参加している人40名のデータも解析に用いています。

#### ②現在ひきこもり状態にある人の引きこもりの程度

図2-12は現在「引きこもり状態」にある人の引きこもりの程度を表しています。「他者との関わりはないが，外出はしている」人が最も多く66%を占めています。「社会参加をしている」と回答している人もいましたが，定義を問う質問では「引きこもり状態」にあてはまったので，解析に含めています。家族回答者の調査と比較すると，引きこもりの程度の軽い人が調査対象になっています。

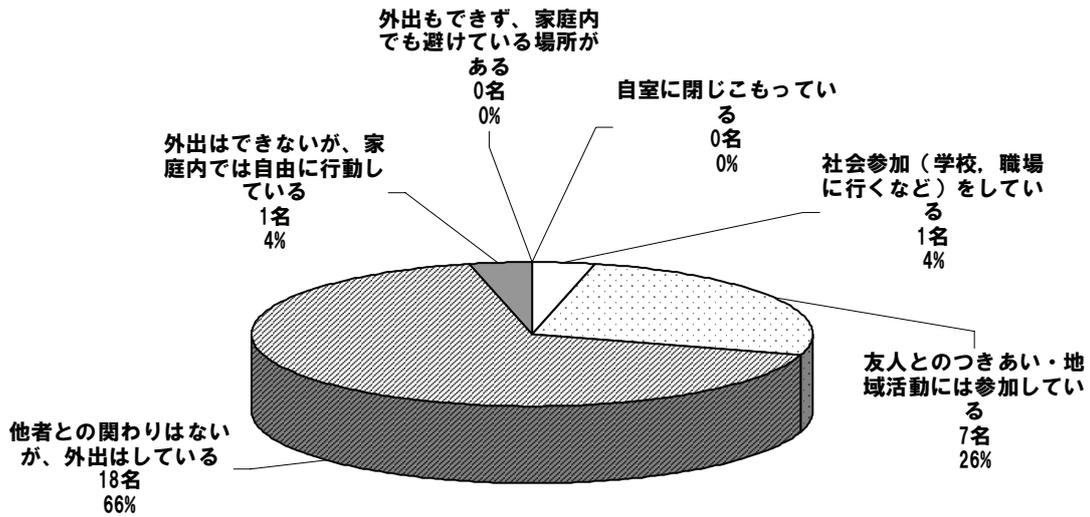


図2-12 現在ひきこもり状態にある人の引きこもりの程度

③調査回答者の引きこもり期間

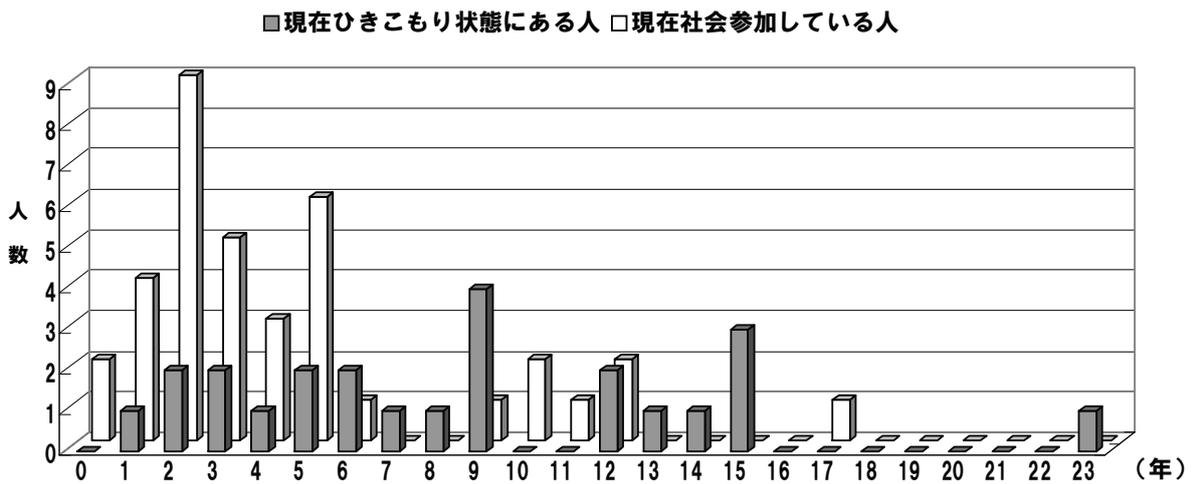


図2-13 調査回答者の引きこもり期間

図2-13は引きこもり期間を表しています。白色は現在「ひきこもり状態」にある人、灰色は現在社会参加している人の引きこもり期間です。現在社会参加している人のほうが引きこもり期間が短いことが分かります。

④調査回答者の相談経験の有無

図2-14、図2-15は「ひきこもり状態」であることで生じた悩みを専門家に相談したことがあるかを表しています。現在「ひきこもり状態」にある人も現在社会参加している人も、9割以上が何らかの専門家に相談したことがあると回答しています。

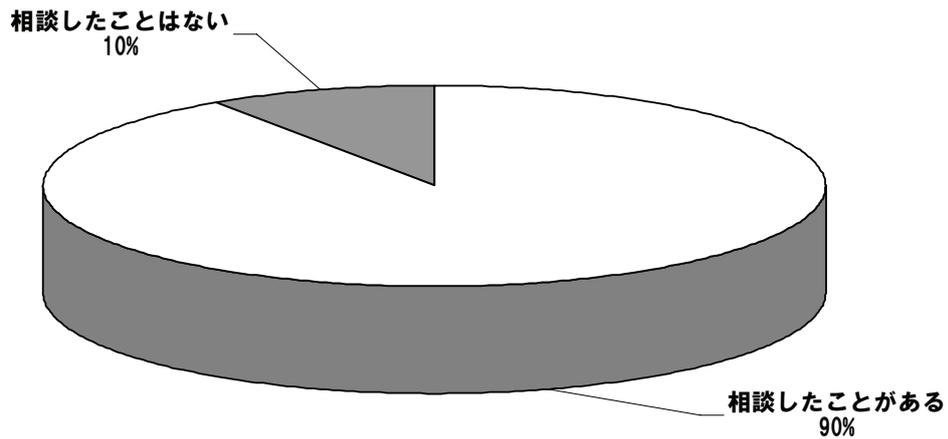


図 2-14 現在ひきこもり状態にある人の相談経験の有無

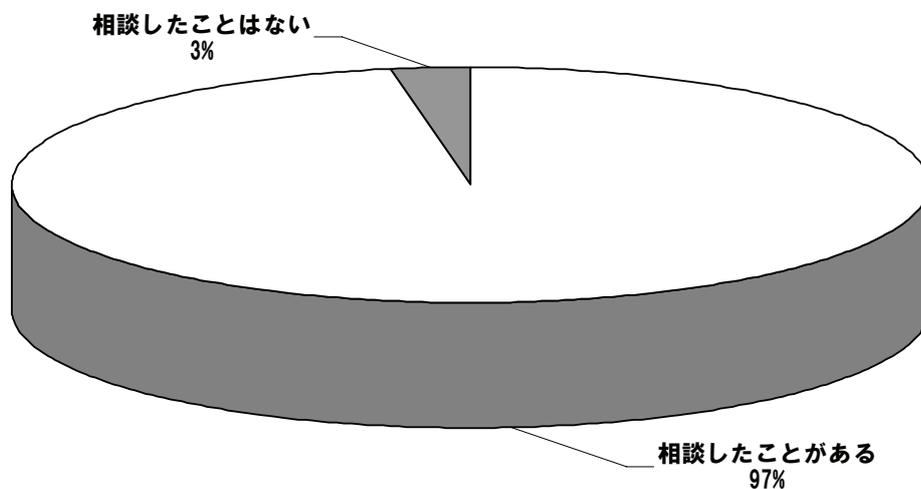


図 2-15 現在社会参加している人の相談経験の有無

⑤現在ひきこもり状態にある人の相談機関の利用状況

図 2-16は、現在「ひきこもり状態」にある人に、ひきこもり状態にあることで生じた悩みについて何らかの専門家に相談することへの程度関心を持っているかについて回答を求めたものです。現在ひきこもり状態にある人の9割近くが、現在ひきこもり状態にあることで生じた悩みを抱えていることが分かります。また、半数近くの人があることを専門家に相談していることが示されました。この結果も、家族調査と比較すると、相談を利用している人が多く本人調査に協力した人の引きこもりの程度が軽い可能性が考えられます。

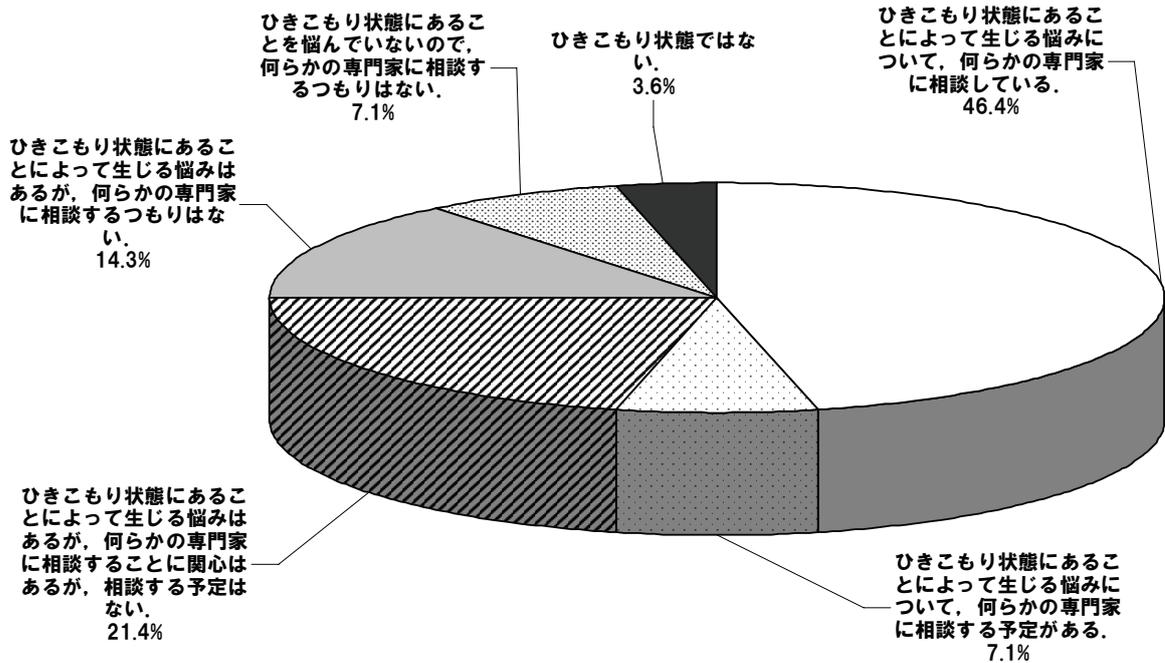


図2-16 現在ひきこもり状態にある人の相談機関の利用状況

⑥相談機関を利用する上での妨害要因

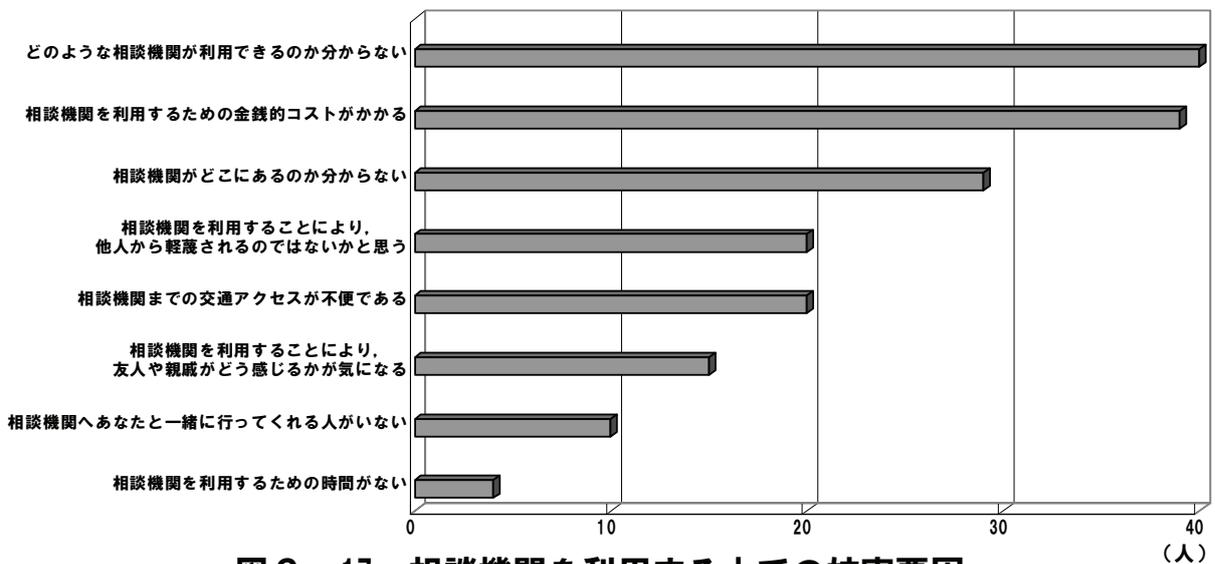


図2-17 相談機関を利用する上での妨害要因

図2-17は、ひきこもり状態にあることによって生じる悩みを何らかの専門家に相談する場合、調査回答者にとって障害になると感じられるものを表してします。半数以上の人々が、どのような相談機関を利用できるか分からない、相談機関を利用するための金銭的コストがかかる、ということが障害になると感じています。相談機関の情報提供と支援を受けるのにかかる金銭的コストの軽減が相談機関の利用を促進するために求められていると考えられます。

### ⑧引きこもり経験者の対人交流に対する不安

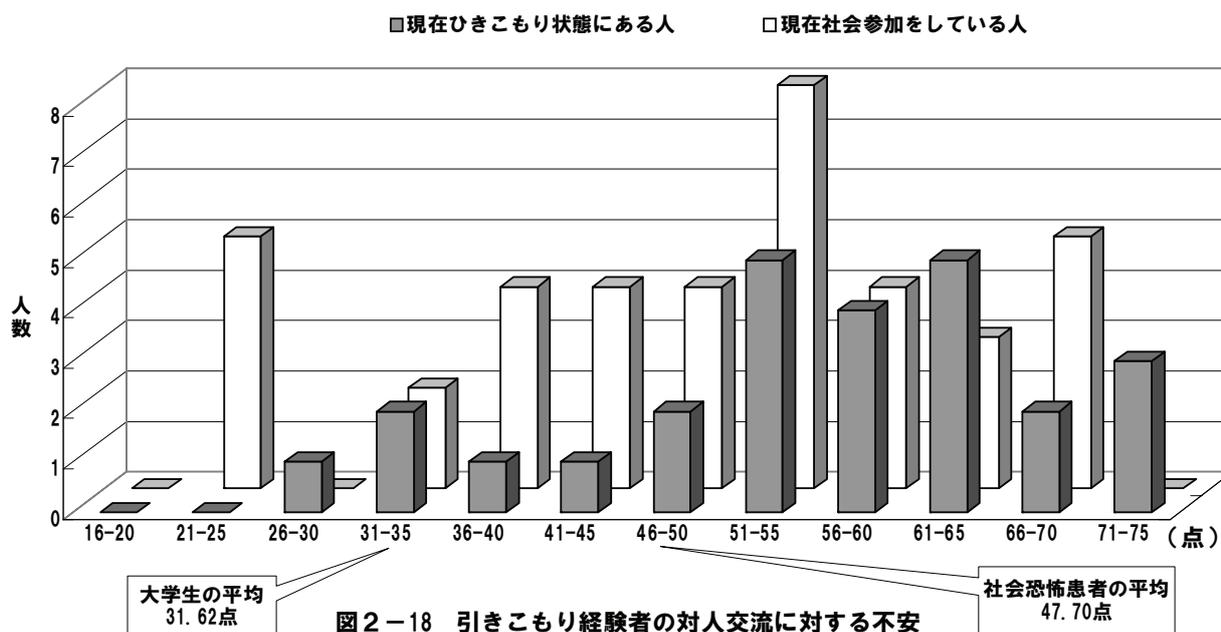


図2-18 引きこもり経験者の対人交流に対する不安

図2-18は、現在「ひきこもり状態」にある人と、現在社会参加している人の対人交流に対する不安の強さをあらわしています。現在ひきこもり状態にある人の平均は55.8点、現在は社会参加している人の平均は47.3点でした。金井ら(2004)によると、本調査で使用したSIASという尺度の大学生の平均点が31.62点、社会恐怖患者の平均点が47.70点でした。現在「ひきこもり状態」にある人は対人交流場面に対して非常に高い不安を感じており、現在社会参加をしている人の中にも、社会恐怖患者と同程度の高い不安を感じている人が多くいることが分かります。

### ⑨引きこもりの程度と対人交流に対する不安の強さの関連

図2-19は、引きこもりの程度と対人交流に対する不安の強さの分布を示したものです。現在社会参加をしている人の引きこもりの程度は「社会参加をしている(1)」としました。引きこもりの程度が「友人とのつきあい・地域活動には参加している(2)」の場合に、最も対人交流に対する不安が高いことが分かります。

### ⑩相談に対する評価がひきこもり経験者の相談可能性に与える影響

図2-20は、調査回答者が相談する可能性に相談に対するメリットとデメリット評価が与える影響の強さを示しています。解析の結果から、相談に対する「ポジティブな結果」の予測が調査回答者の相談する可能性を高めていることが明らかにされました。

た。つまり、相談することで抱えている問題が解決する、気持ちが楽になると考えることで、相談に行く可能性が高くなるといえます。

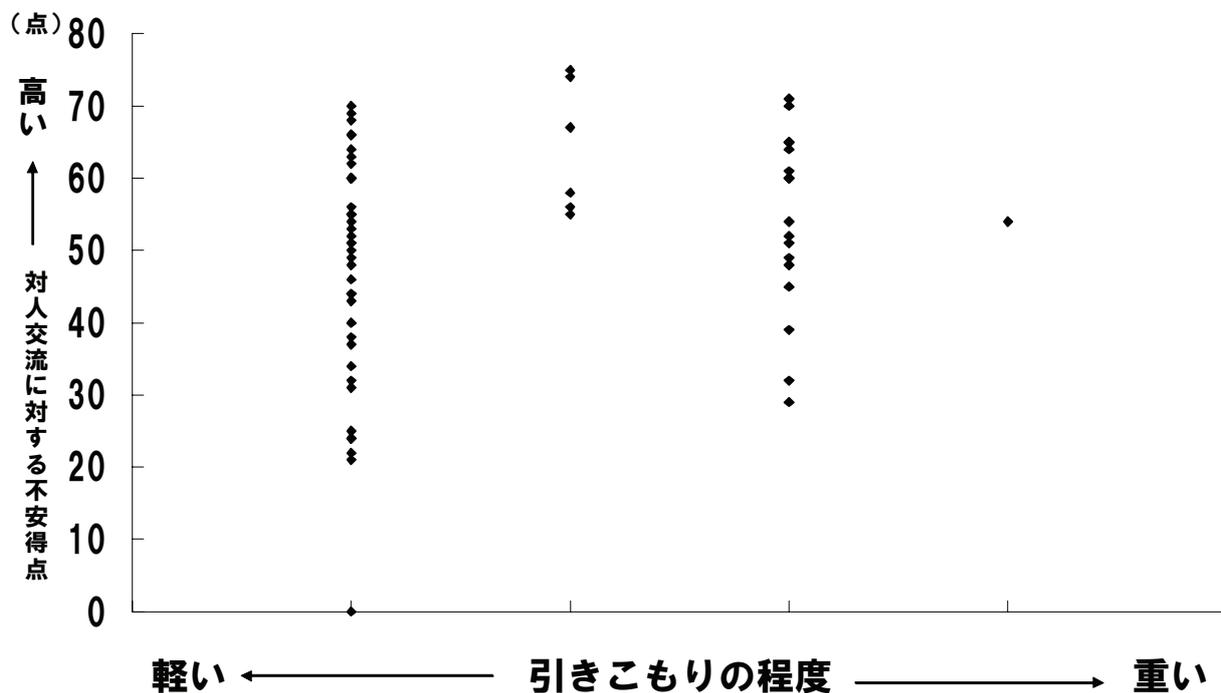


図2-19 引きこもりの程度とSIAS得点の関連

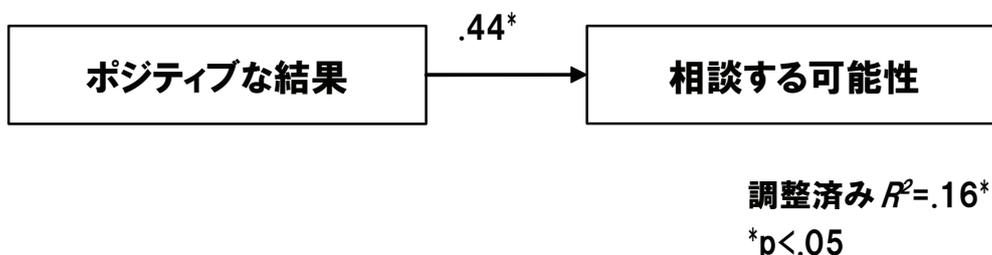


図2-20 相談に対する評価が引きこもり経験者の相談可能性に与える影響

#### 4. まとめ

本調査から「ひきこもり地域支援センター（仮称）」において引きこもり経験者を対象として支援の条件として以下のことがあげられます。

- ①1週間を通して利用できる。
- ②午前9時から午後8時頃まで利用できる。
- ③面接、電話、メールで支援を行うことができる。
- ④ひきこもりを経験した相談スタッフ、臨床心理士、精神保健福祉士、ひきこもりを

経験した家族を持っている相談スタッフといった専門家に相談できる。

⑤パンフレット，ホームページ，テレビ・ラジオ・新聞等のメディアで情報提供ができる。

⑥ひきこもり若者たちの「居場所」，就職相談・就職支援，心理専門家によるカウンセリングを実施できる。

また，本調査では調査回答者の相談機関の利用の実態について，以下ことが明らかにされました。

①現在居場所等に来所している調査回答者のほとんどは相談経験がある。

②どのような相談機関が利用できるかわからない，相談機関を利用するための金銭的コストがかかる，相談機関がどこにあるかわからない，といったことが相談機関を利用する上での障害になっている。

③対人交流に対する不安は，引きこもりが中程度（友人とのつきあい・地域活動には参加している）の時に最も高い。

④相談することによるポジティブな結果を期待できることが，引きこもり経験者の相談機関の利用を促進する。

## 第三部 自由記述

「ひきこもり地域支援センター（仮称）」について以下のことを自由記述で尋ねました。

1. あなたが相談するとしたら、どのようなことを相談したいですか？
2. どのような情報があると、ひきこもりの問題の解決に役立つと思いますか？
3. 「相談窓口」、「関係機関の連携」、「情報発信」という現在の事業計画以外のことで、ひきこもり地域支援センター（仮称）にどのような支援をして欲しいですか？

以下には、それぞれの質問についての回答を引きこもり経験者と家族回答者に分けて記載しています。自由記述の内容は、個人が特定できないように、記述の趣旨が損なわれない範囲で編集しています。また、丸数字（例：①）で示された自由記述の分類は、該当する自由記述が多い順に記載しています。なお、大半の自由記述は掲載しておりますが、記述の量や重複を考慮し、一部掲載していない自由記述があります。

## 1. あなたが（「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に）相談するとしたら、どのようなことを相談したいですか？

<引きこもり経験者の自由記述>

### ①仕事

- 将来仕事に就く時に自分でいろんな責任をかかえなければならないということが不安で仕事をするにあたって、嫌がらせや口の暴力などのない社会で仕事ができる世の中になってほしい。
- 就労。それに関する訓練等。
- 仕事ができるかどうか。
- アルバイトの志望動機や自己アピールが思いつかないこと。
- 相談よりも仕事を紹介して欲しい。
- 就労に結びつくまでの流れをくわしく聞きたい。

### ②心理的支援

- 私は傷つきやすく、ストレスに弱いのでどうすればそのような気持ちをコントロールできるか相談したいです。
- もやもやイライラする気持ち
- 昔嫌だった事、良かった事。
- ひきこもり時に生じた心の悩み。

### ③医学的支援

- 統合失調症の薬の副作用のため薬を飲んでいるために午前中働けないと思うこと。
- 夜寝られないこと。
- 医師の治療でも病気が治らない場合の対策。
- 発達障害について

### ④対人関係の問題

- どうしたら当事者グループに参加してなじめるようになり対人関係を獲得できるか知りたい。
- 友達関係についてお願いします。元気だったころの友達とどのようにつきあっていけば良いか。

- どうしたら人間関係をうまくできるか.
- 会話をするのに話題が思いつかないこと.
- 社会人としての人のつきあいかた

#### ⑤社会参加

- これから社会復帰するにあたってどのようにサポートしてくれるか.
- ひきこもりからいかに社会復帰するか.

#### ⑥将来のこと

- これからの将来／自分の進むべき道.
- 将来の事に関して.

#### ⑦家族のこと

- 家族の中でぐちゃぐちゃになって解決できないこと

#### ⑧行政の支援

- 将来両親が亡くなった場合の経済的社会的アドバイス.
- 社会保障（障害者年金，生活保護など）について.
- 利用可能な施設，制度について.
- 両親が介護が必要になった場合どうしたらよいか.

#### ⑨その他

- どうしたら孤独死からまぬがれることができるか.
- 遺産相続等の諸事.
- 趣味の事等.
- 一人っ子の生活の知恵.

### <家族の自由記述>

#### ①家庭内で日常的にどう接するか

- ひきこもりに伴う精神障害などへの家族の対処の仕方. 本人にとって負担になりすぎてもよくないと思うのですが. どこまで本人に要求したらよいのか, あわてずにじっくり待つことも大切だと思うのですが…その線引きが難しくて悩むところです.
- 親の気持ちは初期のころと比べると変化して, どんな状況も受け入れようという心がまえができたと思う. これから, 子供が自分の意思で出てくるのをひたすら待つのかそれとも, 刺激を与えるのがいいのか悩みます.
- 何を考えているのかさっぱり分からず, どのように対応したらよいのか. ただ, 食事をし, 自室にこもり, 又, 部屋の掃除をすることもありません. 何としてやればいいのか毎日が不安です.
- 親と子どもの年齢的ギャップがあり価値観・生き方についての親の立場はどうあるべきか具体的な日常生活での態度・会話などについてカウンセリング的な指導をしてほしい.
- 親は感情的になってしまうので, 話しをだんだんしなくなってしまいました. 親はつい仕事をと焦った話しになってしまいます. どのように接したらとわからなくなっている状態です. 何から話していいのか, どんなことをしていったらいいのかわかりません.

- ようやく社会に出てたが、引きこもっている方が楽だ、無理をしていると訴え、生きるのがつらいと常に死にたいと言いつけている子供にこの世に生まれて来て良かったと思うようになるには親としてどうかかわっていたら良いのだろうか。
- 会話について．親子で何をどう話をしたら本人を安心させて、不安をなくすことが出来るのかわからない．言葉につまってしまう（親が）無言になってしまう．
- 一切、家族に顔を見せません．せめて、家の中では顔を見せて欲しいです．今、朝と夜、私が寝る前に声かけをしています、今日は何を言ったらいいのかわからない時があります．とにかく、どうやったら部屋から出て来るかと…．
- 今は自活しているが、ストレスがたまって愚痴を言ってきた場合、どういうことばがけとか対応がいいのか．
- どんなことがしたいのか、本音の話ができない．本音を話したいが、どのような方法があるのか教えてほしい．
- 子供が自立しようとしている兆候が見えた時の援助の仕方、タイミングなどうまくつかみたい．
- 本人の意思にまかせるか親が多少とも誘導してもいいかどうか．
- 本人が親とのコミュニケーションをとるようにするにはどうすればよいか．
- 仕事についてもすぐ辞めてしまうのにどのように声をかければよいかかわからない．
- 本人に対して言っている言葉、悪い言葉．
- 日々の具体的な言葉かけ、思いや気持をどうしたら話してもらえるか．
- 本人との会話が無いので今後どのように接したらよいか．
- ひきこもりの子供に対し父親はどう接したら良いか？
- 本人も家族も今の生活に慣れてしまい、今一歩踏み出せない状態をどうするか．
- 本人の考えている事を自由に言える状態にするには、どうしたらよいか．
- 動きだした時の会話．

## ②就労支援

- 何かしらの仕事をして、自分の食い扶持を稼がなければ、親の資産も底を尽きます．今の様な経済状況、雇用環境では働ける職場は皆無と思われれます．引きこもりを経験した者に、働ける職場を斡旋して下さい．
- 仕事（アルバイト含む）について本人ができる仕事があるかどうか．対人関係について本人の不安感が大きいので本人の気持を理解してくれる勤め先があるのか．
- 自分でみつけた仕事をしたいと思った時、ひきこもりが長かったので、履歴書をどうしたらよいかかわからない．ひきこもりの期間を何て書けばよいか？そう言うのをどこに相談したらよいかかわからない．
- 友達もおり、現在ニート状態のため、就労のためのきっかけづくりがわからない．また過去に、いろいろ職についたが長続きせず．現在はリバウンドからか安定して引きこもっている．
- 就業希望があるが、現状は未だ1週間、毎日8h働けるところまでは行かない（精神面、肉体系から）その様な状態の若者が週2～3日、3～4h/日働ける場所を紹介して欲しい．それが叶わなければ、KHJの親の会としてそのような場所を構築していきたい、と思っている．
- 何故仕事をしないのか．学歴が悪い、なかなか仕事につけないため劣等感があるのか、あきらめに近い状態かもと推測している．
- 年齢的に仕事についていないことに悩んでいる．
- 働き始めた後のケアを相談したい．
- 子供の就労支援についてヤングジョブは34才までなので．

- ひきこもりからニート状態になった本人をどうやって就業等につかせるか、又、就業にこだわらず何か社会参加出来る方法はないか。
- 本人に働く気がないので、働くように仕向けるにはどうする。
- 職親の手続き。
- 就業が可能か否かの適性判断可能とすればどのような業務か。
- ひきこもりでもできそうな仕事の紹介。
- 本人は働きたいとも言っているが、現在は就労のきびしい状況でもあり、後半の人生をどういう形で過ごすのが本人にとって幸せか考え込んでしまいます。

### ③社会参加の方法

- 行きづまり、息詰まり感（探究心が失われている状況下）の状態では、その当事者の正真な全貌を突き止め、指導又世話をしていただけの支援者、支援施設を求めます。当事者が打開能力を発揮できない今、有効な専門的刺激を与えなければ解決へ向かわないであろう。多くの人は生まれて無限なる素養、行動力、（実力）をつけ生涯を送っていく事でしょう。しかし「ひきこもり」で迷っている今日、当事者個々に適切な触発要因を与える事が大事と思います。そのための環境づくり。
- 様々な対策をとり、本人共々努力を重ねて来ましたが、現在一番の問題は、引きこもりが治っても社会に参加出来るかどうか、というところにあります。本人も、自分を雇ってくれる所はどこにも無いから、引きこもりが治ってとしても生きていけない、と悲観しています。社会に参加して、働いて賃金を頂けるようになる為に、いろいろと相談したいです。
- 病院を退院したら、家族の元に戻り、再発したら病院へ戻る、の繰返しになってしまふ。退院したら、自立できるようなシステムに乗る方法。生活訓練を指導する援護寮、グループホーム等はあっても収容人数が少なく、入寮出来ない。或いは、辺ぴなところへ行くしかない。アパートで自立を図ると、孤立して成功しない、要は地域に受け入れる準備が整って居ない。
- 家の中では主婦代わりに食事の仕度、買い物は出来るのですが大人しすぎるのか家庭内でもしゃべる事もなく居場所にでも早く行けるようになってほしいと思っているのですがいつになるのか？どうすれば外へ本気で出ていけるようになるのか？
- 自立への再スタートは年齢的に大変に難しい。本人に働く気持は全くないように見える。家庭菜園でもいいから、外に出て体を動かしてもらいたい。それに耐え得る体力はありそうだけど本人は体がボロボロで何も出来ないとの事。
- ひきこもることで、夫婦の在り方、家族の大切さを教えてくれた息子を社会に戻してやりたい。親の会で教えていただいたことを家庭で実践してみますが、なかなか上手くいきません。
- 本人の自由意思で外出（サークル活動、ボランティア活動、勤め先等）できるようにもっていくためには親としての心構え、接し方、支援、手段方法をどのようにしたらよいか。
- ひきこもりから社会に戻ろうとしている状態になりました。それをサポートしてもらえない機関がない。
- 外出でできる様になりましたが人との接触がないので、その先の事を相談したい。

### ④医学的支援

- 最近子供が発達障害の一種があるのではないかと、メディアの情報などを見て思っています。本当にきちんとした診断をして、それに合った相談をしたい。理解してもらって、本音をひきだしてもらいたい。仕事等の背中をおして、相談にのっても

らいたい。

- 身体症状の異常が発覚した当時は非常にあわてました。相談する所もなく、ああでもないこうでもない毎日全身の血がひく思いでしたが、今はなんとなく日が過ぎて平穏ですので何かした方が良いのかな？と思わせられるような親の会の集まりです。「ひきこもり」という言葉も始めてです。
- 引きこもりのことを十分に理解し、対応のノウハウを熟知した上で、診察にあたってくれる病院やクリニック名を知りたい。現時点では、統合失調症対応が主だと聞いています。
- 専門医に話しをきいてもらいたい。親の精神状態を少し軽くするために何か支援してもらえたらと思う。
- 強迫性神経症の治し方とひきこもりの関連。
- 精神的微細障害の診断を。
- 飲酒のこと。
- 本人が統合失調症か否かの正確な診断（何らか性格的に過敏な部分がある）。
- 健康状態。

#### ⑤心理的支援

- 本人が自分の現状を認識し、事実は事実として受け止め、受け入れ、そしてでは何ができるか、したいのか、わずかであっても社会参加して欲しい。そこから少しずつ自信を着け、自分を信じ、意志を持って欲しいと思う。
- 本人の心を引き出してほしい。社会に出られるきっかけを作っていただきたい。まだ一度もメンタルクリニック的な所に行っていないので本人にアタック出来る方を是非。
- 本人も悩んでいると思うので親に言えない事でも話せる人を紹介して欲しいのですが。
- 本人のある行動について、その行動をおこした本人の気持を理解するため、本人の心をどうとらえるかのアドバイスをききたいと思う。
- 薬物療法だけでは効果が期待できない。自立支援として、認知行動療法の併用が好ましい。しかし、どこでやってくれるのか解らない。
- 一歩踏み出す勇気がない様子。小さい頃から友だちの付き合いが長続きしないので性格的なものか原因が知りたいのですが、本人が気にしていなければ良いのか。
- 子供の自信をとり戻させる。何事も疑って、誰を信じようとしなない。
- 過去の成育歴と本人の悩みとのかかわり。
- 本人の気持が理解できないので教えてほしい。
- 子供の心理状態について。

#### ⑥本人の人間関係上の問題

- 本社会参加できるようにしたいが、きっかけがつかめず悩んでいる。家族以外の人との関わりをもたせるにはどうしたらいいか。
- 他人と接することに不安があるのでどの様にして解決していけばいいか。多人数の人がいる場所にはいけない。
- 外出は出来るけど、人と接して話す事が苦手。グループの中に入れるようになってほしい。
- 引きこもり経過の改善状況、又は問題点によってちがうか？現在、外のグループ活動に参加しているが、そこでの人間関係で悩んでいる。
- 本人と意見が合わないとその相手の事を責めたりし母親の私の事も好でないと言い

ます。人に対してとても厳しいです。

- 家から一步も出られないのでどのようにしたら出られるか。人がきらいと言って、人を信用できない。
- 家からは出て、職に就けない。子供の人間関係の築けるまでのサポートを！就労とまでは行かなくても友人を作れる様なサポートを！
- 人との会話の関わり方が下手なので、又、どのように会話をしたらよいか分からず悩んでいるので、その件でお願いしたいです。

#### ⑦経済的支援

- 経済支援、自立支援を図っても共同で生活訓練を受けられる援護寮やグループホームへは入れず、アパートへ入ると孤立状態となる。生活費が割高となる。生活保護を受ける指導相談を受けたい。
- 親も高齢になり年金生活でいつまで支えられるか毎日が不安です。一番相談したいことはひきこもりで収入もなくどうすればよいか、どこへ行けば相談出来るか、経済的な件を一番望んでおります。
- 生活が困難になっていく事が予測されるので、どのように対応していったら良いか？また、年金生活だけになっていくので、これからの生活の見直しを専門家（ファイナンシャルプランナー）に相談にのって欲しい。
- 社会保障制度について、年金（障害者年金）、生活保護について、親が老いた場合の子供のいくべき姿を考えるため。
- 本人の年齢も上がってきているので、経済的な側面を相談したい。
- 行政の経済的な支援の方法。
- 就労が不可でも経済的に支援が受けられるようになるという。
- 相続。

#### ⑧相談機関につなげる

- 一番知りたいが、一番難しいのは、本人がどう第三者（医師、居場所）とかかわってゆく様になれるかどうかということ。
- （子供の病院治療に対しての導き方について）親がみて社会不安障害者と思っております。特に対人緊張感が強く家庭内では顔を合わすことは皆無の状況です。会話は母親と必要なる場合は扉越に会話致している様です。
- どうすれば医師の診察が受けられるか。長期間ひきこもっている子どもの親は、みんな受診させたいと望んでいる。答えも分かっている（両親の努力）が、それができない。子どもは誘いかけに、のってこない。
- ひきこもり当事者年齢が高く、親子（家族）関係が複雑で、母としては経済的援助しか、現在は出来る事がありません。当事者の依存症（摂食、アルコール）を伴っており、専門家の訪問や自助グループ等、なんとか繋げたいと考えています。
- 単なるひきこもりから、強迫症状になった。どういうふうに医療へ結びつけたらいいのかわからない。
- 現在、病院に連れて行きたいのですが、本人がなかなか行かないのでどのようにしたらいいか教えしてほしい（本人は行こうとしているのですが行動に移せない）。
- どうやって病院や臨床心理士の所へ行かせられるか。
- 居場所への本人参加への導入方法。
- 病院へ行けないので困っています。生きていく方途。
- 精神科の病院へスムーズに連れて行く方法。力を貸して頂ける方法。

## ⑨訪問支援

- 医師による訪問サポートや本人と心を通わせるようになるための相談（親を嫌っているため）、本人が社会へ出て活動できるための相談。
- 家族だけでは対応できないので外の風を入れたい。訪問サポートの無料支援。精神科医の応診。
- 子どもの肩を押してくれる訪問サポート（動かないのではない、動けないのですと、よく言われるが、果たして何年その説明がとおるのか、疑問に思っている）
- 若者による定期的訪問。
- はじめは訪問していただいてカウンセリングをうけることができないか。
- 理解してくださる方に訪問についての相談をしたい。

## ⑩高年齢化

- どうしたら生きる目的を持たせることができるのかを知りたい。家族として、今ある本人をあるがままに受け入れられるようになることが第一だと思うがあるがままの本人を受け入れることと、本人の将来を考えて行動することが同一次元に存在することは、不可能なのではないだろうか。ここで、いつも行き詰まるのです。「生きてくれるだけでいい」と思えば、どんなに楽だろう。しかし、親が死んだその日から「生きていること」自体が危うくなってしまいます。その日が来たときに、せめて「生きていること」を保証してくれる制度ができてくれることを望みます。そして、そのとき、本人が生きている意味を見失って、自ら命を断つことのないことを祈ります。親の死が近づいたとき、残していく子を誰に託していけばいいのですか？ どういう準備をしておけばいいのか知りたいです。
- よく第三者の手をかりないと出るのはむずかしいと言われていますが、私としてはどうかして本人が自分で出られる様になってほしいと思っております。少しずつ外向きになってきていますが、やはり対人恐怖はどうしようもないらしく、これから先の生活支援の事を相談したいと思っております。
- 当事者の家族が死亡又は長期療養の状態になって、当事者が生活する仕方の指導をして貰うことを相談しておきたい。
- 親が年をとり本人はその後どのように社会に参加することが出来るか。
- 高齢者になってしまっている息子の将来をどう考えればいいのか。
- 親に万が一の時、今、親がしておくべき事、具体的に準備すべき事柄等。
- 親亡き後の生き方。

## ⑪動機づけ

- 何か行動を起こすのに時間がかかるので、どうしても自分がしなければいけない時以外はエンジンがかかりにくい。どうすれば普通にしなければいけない事にとりかかれるのか。自分から社会に出て行こうとするには何が必要なのか。
- 本人が社会参加したいと思う動機を見つけたい。将来の生活設計についてどのように考えるか。
- ただ本人を見守るだけで本人がなかなか動かない時、どう対応していったらいいのか？
- やる気が全然おきないとか、もう努力したくないというのでどう対応していいかわからない。
- 就活をまったく行わず、ただ無に毎日を過ごしている様は見るにみかねる。チョットした事で意識の変化が表れるよう後押しをいただける相手（棒）がほしい。

## ⑫問題行動への対応

- 今までは大きな声を出したりしなかったのが急に大きな声を出したり床をドンドンやったりする様になり、親としてこの変化をどの様に受けとめてどの様に接しているか。
- ゲームをやめさせる方法、家庭内暴力を止める方法、過去に対する恨み言を止める方法。
- 親と関わりを持った方とは一切話そうとはしません。
- 自分をひきこもりと認めないのでどのようにすればよいか。
- 一人で修行と称して他人と交わらない。宗教関係者の紹介をしてほしい。
- 部屋を全く片づけられないので困っている。
- 昼夜逆転生活をしていること。
- 起きている時間のほとんどをゲーム。
- 依存について。

## 2. （「ひきこもり地域支援センター（仮称）」に）どのような情報があると、ひきこもりの問題の解決に役立つと思いますか？

### <引きこもり経験者の自由記述>

#### ①相談機関の情報

- 相談できる出入りがしやすい居場所、電話相談。
- 困った時の相談機関のリスト。
- 経済的援助が必要な場合の相談の場はどこにあるか。
- 各地方にある支援団体の詳細な情報（NPO、フリースペース等）。
- 認知療法、森田療法等その他具体的な改善方法等の情報・指導。
- 信頼できる相談スタッフの紹介。
- 精神科医師や精神保健福祉士の情報。

#### ②ひきこもり経験者の話

- ひきこもっていた状態から社会に出られるようになったひきこもり当事者の声をききたいです。私のひきこもってる状態を変えるヒントがあるのではと思います。
- ひきこもり経験者のお話。
- ひきこもりから社会復帰した人のサクセスストーリー。
- ひきこもり経験者が現在どのような経緯で自立したかという情報。
- 同じ境遇の人の就職までの道のりを示した情報。
- 実際に世の中に出ている人の体験談等。

#### ③当事者と交流できる場の情報

- 自分は一人ではない、苦しいのは一人ではないと分かれば、一歩進めるのではないかと考えている。
- 当事者間のコミュニケーションの場。
- 私と似たような悩みをもつ人が集う場。
- 年齢の高い人専門のグループ。
- 仲間がどこにいるか？
- 気楽に来られる施設や話し合える近場なサークル活動場。
- 人づきあい苦手な人でもいれる場所の情報。
- ひきこもりの若者たちの「居場所」や共同生活を行なっている場所。
- 居場所の情報。

#### ④仕事のこと

- 職業訓練・適性検査.
- 仕事をする為の訓練.

#### ⑤外に出られるようになるための情報

- ひきこもりを支援する団体を多く作り、ひきこもっている人が相談しやすい専門家の方やひきこもりを経験した家族を持っている方に協力してもらい、ひきこもりの人が少しでも外に足をはこべるようなきっかけになるような話をしてもらいたい.
- 外へ出る活動（農業体験，ボランティアなど）の情報.
- 外出できるようになる工夫.

#### ⑥対人関係の知識・技術を身につけるための情報

- 会話文の参考例. 英語の構文のようなものを覚えるということ. 世の中にはどういふ会話が為されているか，いろんな話題の種類を列挙して，その分類されたものに自分のことを当てはめて考えるための話題の分類. 自分に起きた出来事や話題などを，後で会話にするとときに，思い出せるようにするのに書き残すなどです.
- 人間関係に苦手意識をもつ人が生活していくコツ.
- 社会や家族他人との関わり方について.

#### ⑦その他の情報

- 年金保険料，国民保険料，介護保険料などの支払免除はあるか. 一人っ子の生活の知恵. 両親が亡くなったとき保証人になってくれる人はいるか.
- 医師の治療が無効の場合の対策.

### <家族の自由記述>

#### ①支援機関の情報

- ひきこもりは多様なのでひとつの情報がすべての人に役に立つとは限りません. 精神病圏，発達障害圏，いろいろな場合に応じて，いろいろな角度からのアプローチをしてもらいたいです. また重症度もそれぞれ違うので，外にも出られる，家族となら何でも話せるような軽症の人にはそういう人用の，まったく部屋から出られず，家族にも顔を見せられないような重症の人にはまたその人に合った，きめ細かな情報があればいいと思います.
- 1. ひきこもりから就労までの過程例情報. 2. ひきこもりにうまく関われる人材情報. 3. 思春期青年期に適切に関われる医師，精神科病院情報. 4. ひきこもりにうまく関われる施設情報と子がそこに行けるようになるまで支援してくれる人材情報. 5. 思春期青年期の家庭内暴力，反社会的行動を止めることができる機関，人材情報.
- ひきこもりについてよく理解している病院・医師の情報. ひきこもりについてよく理解しているカウンセラーの情報. 支援団体・施設等の情報.
- 同じような立場の人がいっぱいいて居場所もあってという情報を個人的にでも流してほしい.
- 一歩ふみ出すための方法，就学のための支援，あらゆる面での人材，自分でさがすのではそれだけで時間がたつ. 定期的に訪問してくれる人材. 各施設，カウンセリグ者の連携をとって，よりよい方法を示してほしい. 家庭の中だけではどうにもならない.
- カウンセリグがほしいです（本人の気持ちをうまく聞き出せる様な人）. ひきこも

りから立ち直らせた親の立場からこうしたら私の子供は直ったとか…そんな情報がほしいです。

- ひきこもりも、いろいろなタイプがあると思いますが、どんな人でも気軽に集い、心が安らぐ場所の紹介。将来の不安をなくす社会復帰プログラム。
- 人は「生きよう」とする本性を持ち合せているのであるから、一人ひとり異なる当事者の状況に合う「光」を照射できる支援制度をつくり活用する。
- 近くに親の居場所をたくさん作って下さい。気持ちが楽になると子供も早く良くなります。
- 本人と家族と相談員の三者で相談し、アドバイスを受けたい。精神保健福祉士など相談しアドバイスを受けたい。
- 本人の段階に応じた情報。医者、カウンセラー、訪問サポート士。居場所、地域でのアルバイト先。
- 進路さがし、自分さがし、これからの生き方など何でも相談にのってくれてアドバイスしてくれる。40才台くらいの人がいて親切に対応してくれる人がいると、当事者が訪ね、力をもらえるような気がします。
- 家族（親）の相談機関、当事者に対する①電話、②メール、③手紙、④訪問、⑤面接等の具体的働きかけ。
- 社会のシステムから外れてしまった場合にはどのような接点をつくっていくべきかなど。公共の機関の窓口（相談）などを知る。福祉のシステムなどとあわせて、医薬の最新の情報なども知りたい。
- ①本人への対応の仕方、親の意識改革つまり、親への②本人へのカウンセリング、③ひきこもりから脱出した後にも社会の受け皿があるという希望がもてるような情報。
- 支援に当って、各支援団体のどのような方がどのような方法で問題解決にあたられるのか、また公的・民間の線引きがどのようにされ、経費がどの程度必要とするのかといった具体的な情報が整理されていれば利用しやすい。
- 家族会、講演会、仲間づくりの会、居場所など、テレビ、ラジオでの情報。
- 講演会、医者、病院の情報、親の会の情報。
- 安心してお話しできるサポーター。医師の専門的知識のある方。
- 病院マップ等、障害者施設等のマップ等を公的機関につくってもらう。
- ひきこもりについての相談機関、専門病院、NPO法人、就職支援センター等。
- 本人が出て行ける場所。
- テレビ、ラジオ、新聞などで医師、専門家。
- 家族支援。相談、カウンセリング、情報提供。
- 本人が心をゆるして話を聞いてもらえる人の存在があったらいいと思う。
- 決断を迫られる事態が起こらない限り本人は動かないと思う。自分を受けとめて自立支援（生活）をして下さる機関があるのを知ったら、動き出すかもしれないが。
- 本人が通院できない場合、親だけでも相談にのってくれる医療機関の情報。
- デイケアの充実している医療機関の情報を欲しい。なかなか理解ある病院がない。
- ひきこもりをなおしてくれた先生紹介して。

## ②引きこもりを経験した本人・家族の回復までの話

- 引きこもりを経験し、その状態から脱出した体験談を聞きたいが、自分の子に合わない事例もあると思うので、人材バンクのような形で、引きこもりからの脱出体験者で、協力できる方を確保したい。その際、謝礼の形で相談者がいくらかの費用が出せば、脱出者の方の生活支援にもなると思う。またそのようなことは、メディア

も取りあげやすい活動であると思う。

- ひきこもりだった人の体験談，どうやってぬけだせたか，その解決法．よく，何かのきっかけがあって，出られるようになったときですが，そのきっかけのつかみ方？
- やはり御自身が引きこもりの経験があるかないかで違うと思います．苦しい情（状況）からどのように立ち直って来られたのか，その点が一番参考になると思います．より多く人の体験談を聴く機会がありましたらと思います．
- 専門的な情報も参考になりますが，やはり家族や当事者の体験談の中に，問題を解決していくいろんな手がかりがあると思います．いろんな家族や当事者の話をたくさん聞きたいです．
- 引きこもりをほぼ脱出した本人の所属できる就労場所ないしは施設の紹介と適所のアドバイス或いは指導．
- 本実際に立ちなおった家族・本人の体験談．
- ひきこもりから一歩よい方向に前進できた家族の様子．ひきこもり経験者が，ひきこもりの時期に自分の事，家族の事などどんなふうに考えていたか．
- 具体的な「引きこもり」年齢別・男女別・学歴別・引きこもり期間の長さ別脱出成功例と失敗例．
- 月例会時の最後のディスカッションの時間体の中で，同世代の同々の疾患を持っている家族の実際の治療の成功例，又，病院，医院，etc紹介等々を拝聴今迄以上に出来ますことを欲しています．
- 今ある状態がどう変化し，改善していくかその過程を知りたい．そうすれば，この子はそういう段階を踏んでいき，良くなるんだなと希望を持つことができる．
- いろいろなひきこもりの人のお話が聞けたらいいと思うけど，本人がそういう場へ出かける工夫が一番大切なのでどうしたら出かけられるか？が問題．
- ひきこもりでもいろいろの理由があるので同じような原因，挫折等している子供をもつ親同志の話し合い．
- 相談会や講演会等の情報事体は，なるべくある程度目立たないと気付かないので新聞等や学校を通じて知らせしてほしい．引きこもりから脱した具体例や，今現在ひきこもり状態の人の心情．
- 解決に向っている体験談．
- 長年ひきこもっていて，社会復帰した方の話を聞きたい．
- 個人によりみな状態がちがう．対処の方法により改善された例を数多く集めた体験集のようなもの，日常会話，言葉かけなど…．
- 1. ひきこもりから社会復帰に成功事例の体験発表①当事者による②そのご父兄による③レベル別・症状別・年代別・性別等で色々の事例．
- 1. 各種タイプ別（ひきこもり歴の多い，少ない/病歴ある，なし（精神））の脱出出来た親の体験談．
- ひきこもりから社会復帰した本人の経験談より．ひきこもった原因とか，その時の本当の気持ちとかを色々と知りたい．
- ひきこもりの子供がひきこもりから立ち直っていく過程を詳細に記録したもの．
- 「ひきこもり脱出」の処方箋．しかし難しいでしょう．
- 若者（当事者）の色々な考え方を知りたい．

### ③就労に関する情報

- 元ひきこもりでも仕事ができる場所（お店でもどんな仕事でも）あれば，教えてほしいです．

- ひきこもり経験があっても雇用に協力してくれる（→就労時に面接でひきこもりが大きなハンディにならないような）働き場所に対する情報.
- 職業を求めている時に外に働きに出たい気持ちを後押ししてくれる制度が欲しい。  
「こういう仕事をやりませんか？」と情報が知らせてくれる制度があれば良い.
- 本人の精神状態を理解してもらえるような職場ができ、受け入れてもらえるような環境の場を作ってもらいたいと思います.
- 最近仕事をしなければとと思っているらしく、気に入る仕事が見つければ少しは解決するのではと思っています.
- 働く場所での自信を持てなくなり人間として、もっと認められる働きをしなくてはと自分を責めている本人を見ていると、家族として今の働く場の現状を知る情報が分かりやすく説明されている情報先があればと思います.
- このような件で困っている子が向いている仕事内容なんかも知りたいです. 同じような悩みでも元気になられた方などの情報も知りたいです.
- 皆さん各々ひきこもりの条件、本人の性格も違うと思いますので、本人を何か必要としてくれる場、仕事などがあれば少しは解決の道が開かれるような気がします.
- 一番知りたいのは引きこもりを受け入れてくれる企業（就労したいと思ったとき、いつでも受け入れてくれる企業）.
- 精神障害者でも就業可能な場所.
- ひきこもり経験のある若者を積極的に受け入れてくれる職場.
- 情報、仕事体験、研修、仕事の勉強、資格等の情報

#### ④家族支援の情報

- 学校の先生に子どもの状態について相談しても、対処の仕方など、ひきこもりになる前の段階で親としてどう接すればいいのかなどの情報がまったく得られず、公的機関への紹介がなく、つなげてもらえなかったので学校でひきこもりに対する情報、子どもへの接し方などの情報が必要だと思っています.
- ひきこもりを経験した、本人・家族との（話を聞く）つながりを大切にしていこう. ひらきなおること. 親が元気になる.
- 親の会の活動,
- 全国の親の会の様子.
- 親の見方、考え方がこの様に変わったら子供に元気がでたという具体的な情報.
- 両親の役割、本人がひきこもり初期への対応.
- 家族が孤立しないための、情報.
- 家族教室.

#### ⑤訪問等の相談機関外での支援

- 本人を外出させるべく、本人と接触、訪問などしてくれる人々、団体の情報（経済的負担が少ないとうれしい）.
- ひきこもりが1年以上の長期にわたっている時には、親の希望により、本人宛に定期的に情報、お誘いなどの手紙を通して届ける.
- 訪問サポート. いつも家族以外と話をしていない. 他人との接触が少ないので、年齢の割には幼い.
- 訪問サービス（34才で終了ではなく、年齢制限をはずして欲しい. 就労に結びつくまで）.
- 支援センター、訪問介護.

3. 「相談窓口」, 「関係機関の連携」, 「情報発信」という現在の事業計画以外のことで、ひきこもり地域支援センター（仮称）にどのような支援をして欲しいですか？

<引きこもり経験者の自由記述>

①当事者の集まり

- ひきこもり当事者の人たち同士が遊んだり、スポーツをしたりとひきこもり当事者同士の交流を支援して欲しいです。
- 出会いの会みたいなのを開いて、異性と接したい（変な意味ではなく）。異性に対して免疫をつけたい。 & 青春を味わいたい。
- 当事者の居場所がほしい。
- 年齢の高い人専門の当事者グループがあったらよいと思う。
- 居場所の存在を広めてほしい。また色々な居場所について知りたい。
- 当事者同志の交流の場の提供、参加の呼びかけ。
- レクリエーション・デイケアのようなプログラム。
- 学校や会社以外でコミュニケーションの取れる場を増やしてほしいです。
- 旅行もしくは外での集団活動の計画。

②就職支援

- アルバイトに採用されるまでの手助けと、働き続けられるようにフォローしていただくということです。
- ひきこもり経験者の面倒を見て下さる企業をさがし、いろんな作業や経験をつみ、社会復帰を目指せるように出来ればよいと思う。
- 長年ひきこもっていた人がどうやって生活のリズムをつけて社会復帰していく為の相談、支援を増やして欲しい。
- 医療や福祉の援助を受けながらでもいいから何らかの就労がしたい。
- 就労支援、資格取得支援。
- 就職のあっせん。仕事の紹介。

④カウンセリング

- カウンセリング（ただし、当事者の重軽度による）。
- 心理カウンセラー的なことです。
- 精神科医によるカウンセリング。
- 無料又は低価格でのカウンセリング。

⑤家族支援

- ひきこもりを持つ家庭への定期的訪問。
- 家族のケア。

⑥生活の支援

- 両親亡きあとの当事者の支援。障害年金生活支援その他経済支援。
- 生活への金銭的支援。

⑦その他

- 私くらいの年齢の人たち、中年のひきこもりについてもっと研究してうまく対応してほしい。当事者グループに参加してもうまくなじめない人がいるのでそのことをもっとうまく考えてほしい。一人っ子当事者の支援。

- 友達関係がうまくいくようにしたい。元気だった頃の友達との関係を復活させたい。（今の友達プラス）健常者（同じ世代の人）の理解。
- ひきこもりの方は近所の方からどのように見られているかを、考えているので、近所の人々が、「あそこの人々、〇〇でねえ。」等と、差別せずにしてもらいたい。「近所の目が怖い。」という考えの方がいる。理髪店でも、「仕事は？」などきかないようにしてもらいたい。
- 相談者が最初の相談の時に気軽に来れるような感じになるといいなと思います。
- 医師が治せないケースの人へ具体的対策をしてほしい
- 年代別。

### <家族の自由記述>

#### ①訪問等の相談機関へ来ない人への支援

- どういう支援があっても当人が出むけないので訪問してほしい。
- 外出支援のようなこと。外出できる機会を増やせば少しずつコミュニケーションが図れるようになるのでは？何かのきっかけを与えていただければと思います。
- いつでもこちらが困っている時に相談に行けると良いが日時が決められても行く事が困難な場合があるので、訪問サポートをしてもらおう（安価もしくは、無料にて）。
- サポート支援。電話、メールなどの訪問前の支援。当事者は人間関係を自分から切っている状態なので徐々に支援していける人材がほしいです。
- 訪問はしてもらいたい気持ちがあるが、それが本人に良いのか悪いのか今のところわからない。
- 個別相談に応じてくれて、訪問サポートを行ってくれる機関が居住地に欲しい。今の所、保健所しかないのが現状であるが不十分である。
- 実態調査の為、当事者家庭を訪問して欲しい。訪問サポート費用の支援をして欲しい。
- 軽症の人には、定期的な訪問活動、外にでれる人には、デイケア、ボランティアへの参加、就業訓練などがあればいいと思います。
- 無償の訪問、医師や心理士の訪問。
- ひきこもり経験者による訪問。
- 訪問サポート士の支援。
- 訪問ボランティアの育成と訪問、カウンセラー。
- 同世代でひきこもり経験のあるスタッフの訪問を希望します。
- 豊富な訪問サポート士を加えた活動（各タイプ、年齢別、性格別）。

#### ②就労支援

- 就労の支援、短時間から就業できるような機関があればいいのでそういう仕組みを作ってほしい。
- ひきこもりを含めた若者の（これを30代、40代前半）就労問題まで含めた支援、ビジネスマナーに書類の書き方、自己分析までを含めた若者すべてにおこりうる問題の支援。
- 個人一人一人に添った自立のための就業訓練をしてくれる機関（多様な希望を受けて、個人にあった所を紹介し、世話をしてくださるような場所）。
- うちはまだ出られませんが、もう少しでも出られた時何か働ける場所なりを提供できる様なものを少しずつでも作っていただけたらと思います。作り手がなくなった農地を借りるとか、持ち主のお年寄りの世話をするとか…。

- パソコンで何でもできるので簡単な仕事をやりたい。本人の気分良好の時に聞いたところ「就業の訓練する場があるといいな」との事でした。
- 若者の社会参加や就労体験の場の提供、職親制度のネットワーク化、安心して働ける理解のある就労先の斡旋。
- ニート状態にある人の就業先の開発（理解ある経営者が経営する会社、つまり本人を受け入れてくれる会社を開発する）と就業への支援。
- アルバイトやボランティア等いかなる場所でも受け入れていただけるようにしてほしいと思います。
- ひきこもり状態の人を一步一步ていねいに導き、自立できるような就労の場所。
- 職業訓練の役割&趣味etcの講座を開いていただきたい。
- 軽い仕事を少し他人と接する仕事を与えたい（農業は嫌いである、力がない）。
- 職親制度。
- 具体的なハローワーク等との連携。ハローワーク的職場の紹介。
- 就業支援の機会や場所の提供。職業訓練など機会がほしい。
- ひきこもりでできる仕事の支援。
- 職業にむすびつく作業所設立→仕事として働ける場所の提供。
- 就労の受け皿を作って欲しい。
- 本人がどのような仕事につけるか、そのような情報をたくさんほしいと思います。

### ③居場所

- 若者達の居場所を作り、ボランティアの人達が余りお金のかからないスポーツでも音楽でも教えてくれると良いかと思います。
- 親に会い、積極的にアプローチしてほしい。本人は義務教育が終わるとよりどころがなくなり、頼るところがなくなる。中学卒業後も市の教育センターのような受け皿があると安心できる。公的機関で「居場所」がつかれるといい。
- 相談だけで終ると意味がないので親の会や中間施設、若者の居場所へとつないで欲しい。
- 居場所（若者）を作って欲しい。医師、カウンセラー、ケースワーカー、などがいて同時の居場所を運営して欲しい。
- 外出しはじめた時に使う、フリースペース。

### ④支援者の育成

- 何よりも、センターの担当者の人柄による。センターに行けば居場所もある。家族教室も受けられる。勿論そこでカウンセリングも受けられる。行政の横すべりセンターでなく、本当に理解のある人達で運営し、また、そこで共感できる仲間（親同士）に会える場所として事業も今迄のようなどおり一通ではなく、柔軟な対応で望んでほしい。
- 役人的対応では解決しにくいと思う。使命感をもてるような人の起用をお願いしたい。
- ひきこもり本人に直接関わることのできる人材を確保してほしい。
- 個々・集団で相談を受ける。各員の支援を深くそして長期的スタンスで実践していく。
- 支援者の経済生活が成り立つようにしてもらいたい（親の支払負担を軽減させる）。
- 継続的に利用できることが一番の重要課題だと思うので、定期的、訪問をしてくれる、ボランティアスタッフを、育成してほしい。

- センター職員が時間的余裕を持って、質の高い支援を。専門医を配置，カウンセラー，精神保健福祉士等の配置。

#### ⑤経済的負担の軽減

- 専門の方ですと，経済的に負担がかかると思いなかなかふみ込めません。そんな事，いってる場合ではないのですが…。
- 経済的支援，年金手当。
- 本人無収入期間中，年金・健康保険の免除をお願いしたい。
- 働けない者に課せられた納税義務等の軽減・免除。
- 相談員派遣費用の補助。

#### ⑥家族への支援

- 余力があれば，当事者のいる家族の精神的なサポートの活動や場を確保してもらえ  
ること（この発想を持っていてほしい）。
- 親が避難できるところがほしい。
- 悩んでいる家族が週に一度位集まり自由に語り合える場所の提供。
- 親への支援（親の会，親への心の寄り添っていただける会など）。

#### ⑦相談機関の利用を促進する支援

- 途中，相談等の関係・利用が途切れてしまう状況下であっても，その後の状況について，再利用が可能な体制づくりが確立されているシステム。
- ひきこもっている当事者はまず「相談窓口」まで行けないので，まず家族の相談・支援が必要です。
- ひきこもり本人が，医療，カウンセリング，支援施設につながったあともフォローしてほしい。

#### ⑧その他

- ひきこもりとセンターに名前が付いていたら，本人は相談に行かないと思うので，名称を変えてほしい。
- ひきこもりにも格差があり，経済的に低い者は支援さえ頼みにくい。車，パソコン，携帯買えない。父を亡くし，母は精一杯の努力をしてきた。現在もただぼーっ  
としているのではなく，手段を考えつついるところ。

## 第四部 全体のまとめ

## 1. ひきこもり本人の年齢

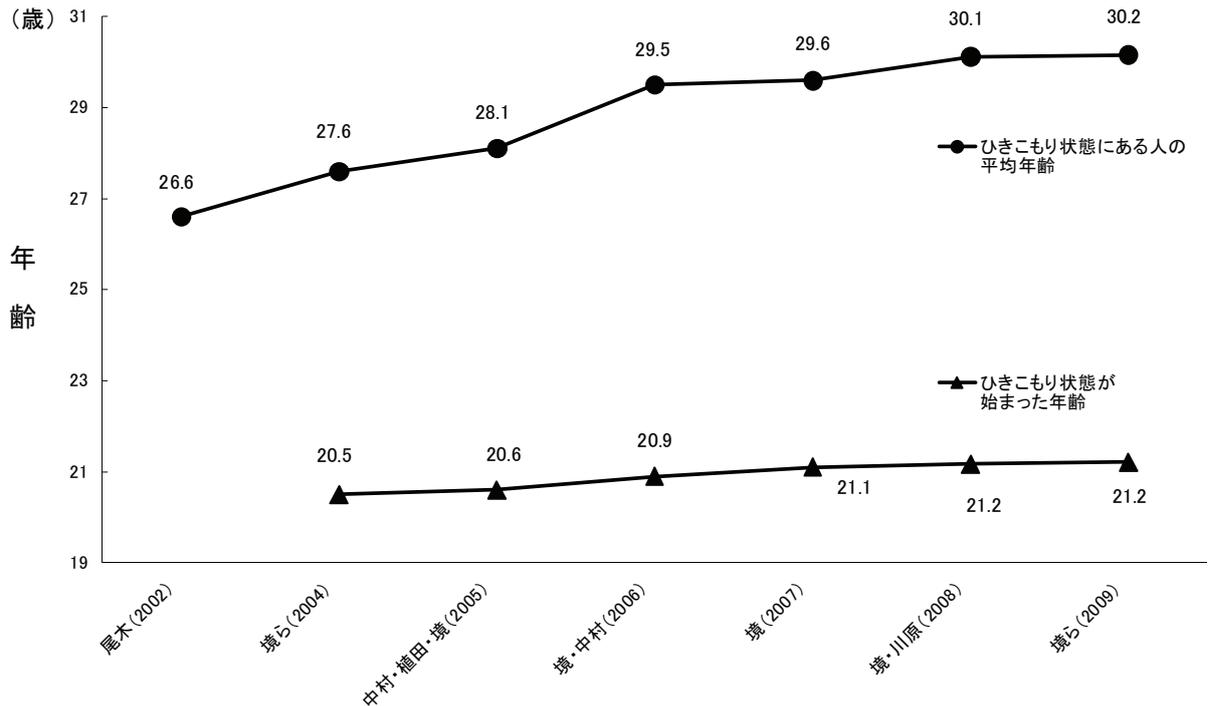


図4-1 ひきこもり本人の平均年齢とひきこもり開始年齢の時系列変化

ひきこもり本人の平均年齢は、本年度30.2歳となり昨年度の30.1歳をさらに上回りました。KHJ親の会においてひきこもり本人の高年齢化はますます深刻になっているといえます。

ひきこもり開始の年齢については、若干ではありますが2003年の調査開始以降、一貫して上昇する傾向にあります。このことは、KHJ親の会においては、ひきこもりが始まる年齢がわずかながら上昇していることを意味しています。一般に、ひきこもり状態は、10代に始まるといわれますが、KHJ親の会に関しては、20代、30代にひきこもり状態が始まる事例が多く含まれていると考えられます。

ひきこもり支援において最も重要なことは、早期に対応しひきこもり状態を長期化させないことです。本年度の調査におけるひきこもり期間の平均は約9年でした。ひきこもり状態の長期化は、付随する様々な問題を引き起こしています。親の高齢化、社会復帰の機会の減少、経済的問題、心理的問題、身体的問題、きわめて多くの問題がひきこもり状態の長期化によって引き起こされているといっても過言ではありません。様々な結果としてひきこもりが長期化し、高年齢化した事例には、手厚い支援が必要になると考えられます。

## 2. ひきこもり本人と家族への支援の比較

ひきこもり本人と家族の支援への要望について以下のことがあげられます。

### ①支援方法について

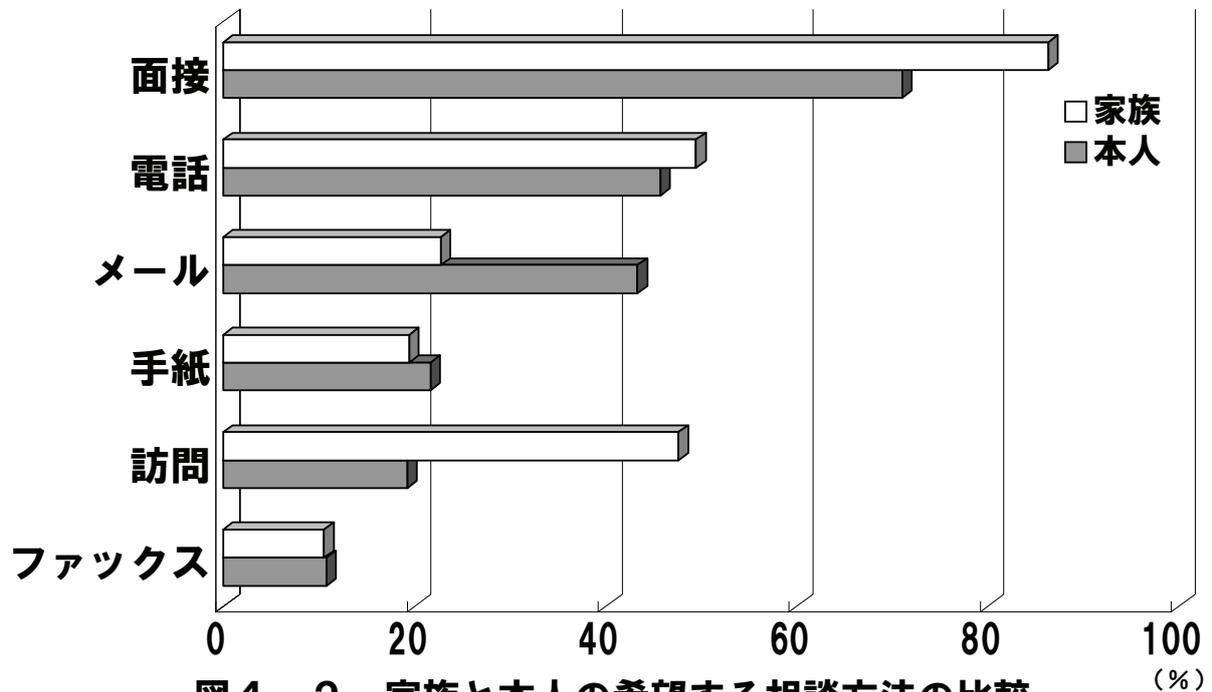


図4-2 家族と本人の希望する相談方法の比較

- ・家族が求めている支援は、面接、電話、訪問である。特に、家族は本人よりも、面接、訪問を求めている。
- ・ひきこもり本人が求めている支援は、面接電話、メールである。特に、ひきこもり本人は家族よりも、メールを求めている。

### ②求める専門性について

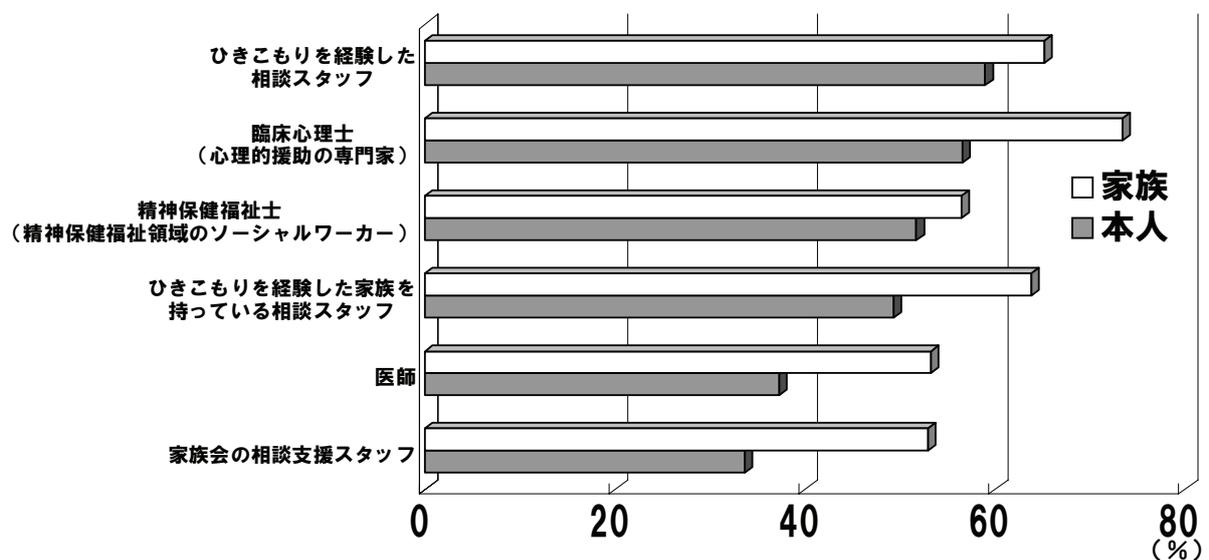
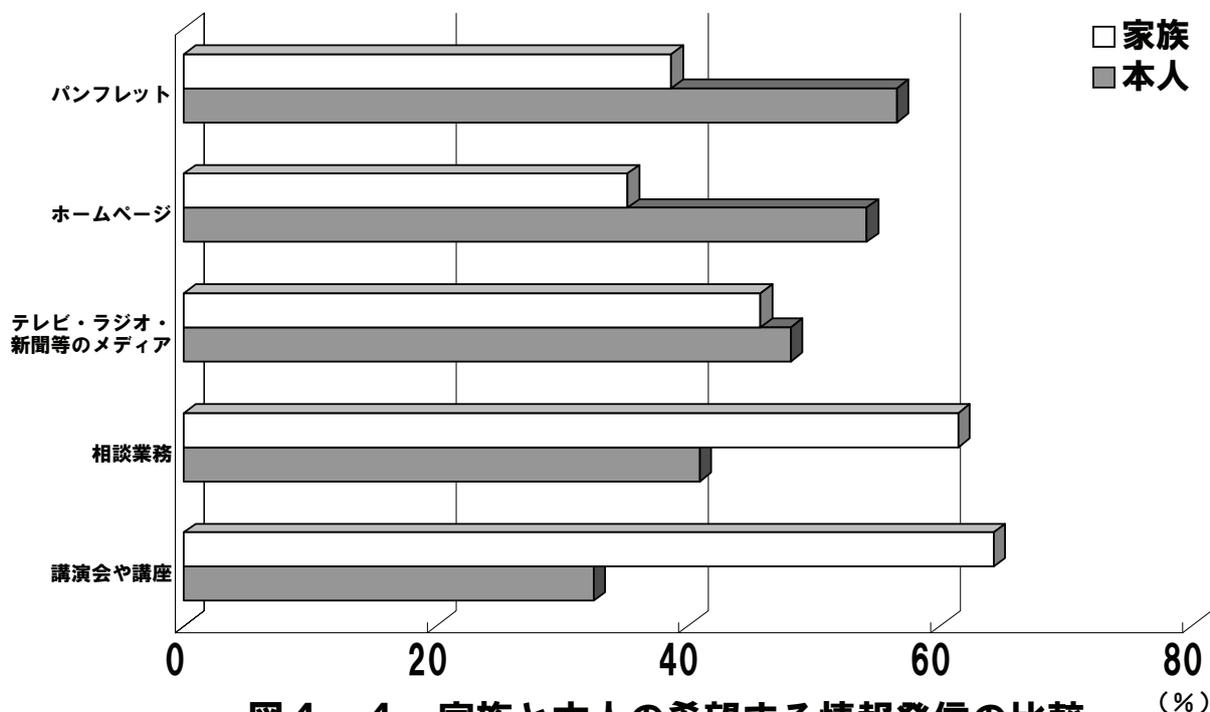


図4-3 家族と本人の希望する専門家の比較

- ・家族が求める支援者の専門性は、臨床心理士、ひきこもりを経験した相談スタッフ、ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフ、精神保健福祉士、医師、家族会の相談スタッフを求めている。特に、家族はひきこもり本人よりも、臨床心理士、ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフ、医師、家族会の相談スタッフを求めている。
- ・ひきこもり本人が求める支援者の専門性は、ひきこもりを経験した相談スタッフ、臨床心理士、精神保健福祉士、ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフを求めている。

### ③情報発信の方法について



- ・家族が求める情報発信の方法は、講演会や講座、相談業務である。
- ・ひきこもり本人が求める情報発信の方法は、パンフレット、ホームページである。

### ④希望する支援について

- ・家族が希望する支援は、心理専門家によるカウンセリング、「ひきこもり」についての学習会・講座、ひきこもり若者たちの「居場所」、就職相談・就職支援である。特に、家族はひきこもり本人よりも、心理専門家によるカウンセリング、「ひきこもり」についての学習会・講座を求めている。

- ・ひきこもり本人が希望する支援は、ひきこもり若者たちの「居場所」、就職相談・就職支援、心理専門家によるカウンセリングである。特に、引きこもり本人は家族よりも、「居場所」、就職相談・就職支援を求めている。

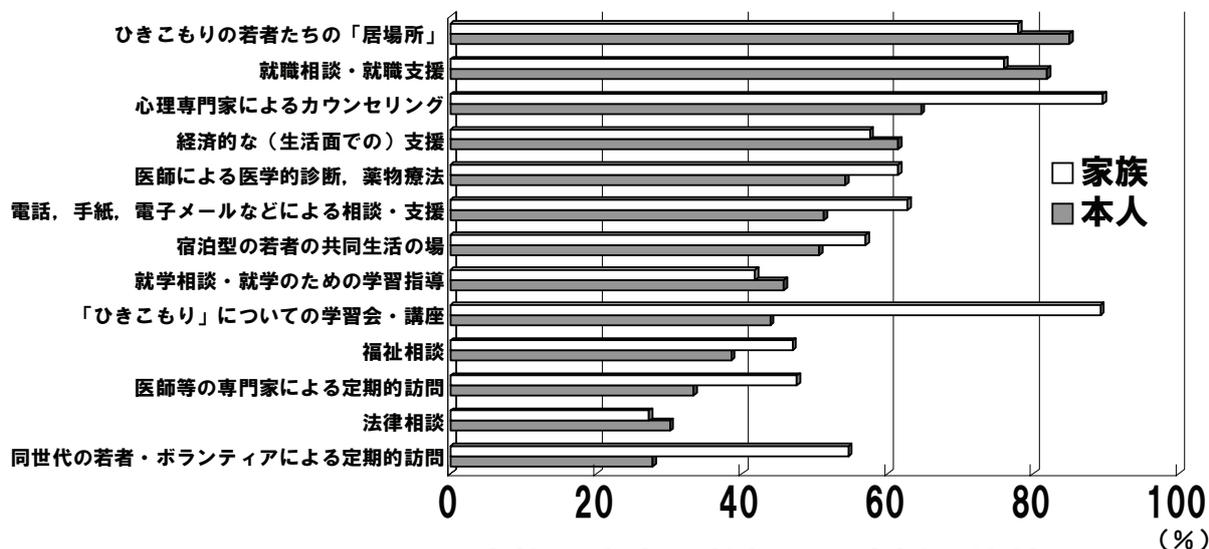


図4-5 家族と本人の希望する支援の比較

以上の4点から家族とひきこもり本人への支援のあり方は、以下のような点において異なるといえます。

- ①支援方法において、家族は訪問、面接、ひきこもり本人はメールへのニーズが特に強い。
- ②求められる専門性について、家族は臨床心理士、ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフ、医師、家族会の相談スタッフへのニーズが特に強い。
- ③情報発信の方法として、家族は講演会や講座、相談業務の中の情報提供、ひきこもり本人はパンフレット、ホームページといった方法へのニーズが特に強い。
- ④希望する支援としては、家族は心理専門家によるカウンセリング、「ひきこもり」についての学習会・講座、ひきこもり本人は「居場所」、就職相談・就職支援へのニーズが特に強い。

全体を通して、ひきこもり本人は電話、メール、ホームページ、パンフレットといった間接的な関わりによる支援を求める傾向があります。これはひきこもり本人ができれば相談機関を利用せずに間接的に関わりたいというニーズの表れと考えられます。逆に、家族は訪問を特に強く求めています。しかし、ひきこもり本人は訪問を求める傾向は高くないため、安易な訪問は避けるべきだといえます。

### 3. ひきこもり地域支援センターとKHJ親の会の連携のあり方

本調査の結果から、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」には訪問支援、情報提供、居場所、相談業務、就労支援が求められているといえます。そしてKHJ親の会には、行政への働きかけ、広報活動、新たな事業展開が求められています。つまり、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」は、社会復帰までの包括的な支援が求められており、KHJ親の会にはさらなる社会への働きかけと、既存の支援では不足している部分を補完する新たな事業展開が求められているといえます。

ひきこもり地域支援センターは、ひきこもり支援のインフラ施設となるべきものです。これまで、引きこもりの人は学齢期を終えると学校というインフラ施設を失い路頭に迷っていました。学校のようなインフラ施設がなければ、引きこもりの人とその家族は、必要な支援をすべてを自分で構築していくしかありません。引きこもりからの回復の難しさは、回復のプロセスの基盤となるインフラ施設の不在によるところが大きいといえます。

「ひきこもり地域支援センター（仮称）」は、利用者のニーズを受け、ニーズを満たす施設になる必要があります。引きこもりの人とその家族は、ひきこもり地域支援センター（仮称）を利用し、共に育てていくことが必要です。親が学校運営に関わるように、KHJ親の会は「ひきこもり地域支援センター（仮称）」の整備に関心を持ち、他人任せではなく、我が子を預けるインフラ施設として機能するよう協力していくことが望まれます。

## おわりに

第三部の自由記述には、家族やご本人の切実な思いが綴られています。自由記述から感じられたのは、日々を安心して過ごせるようになりたい、将来に希望を持ちたいという思いです。家族は、引きこもり本人との関わり方が分からず、日々大きな苦悩を感じています。引きこもりが本人だけでなく家族も含めた問題であるということを改めて感じました。

引きこもり支援が何故これほどまでに困難なのか。それは、引きこもり支援が「引きこもりからの新たな生き方を模索する過程」であるからだといえます。

引きこもり支援の目標は何らかの形で社会に参加することです。しかし、今日の社会は全ての人にとって社会参加を続けることが困難になっています。この時代に、長期にわたる引きこもりから社会参加を続けられるようになるのは容易なことではありません。引きこもりからの新たな生き方を模索する過程は、マイナスからのスタートといっても過言ではないのです。

今、我々に求められているのは、困難な状況でも社会に参加する努力を続けることだと思います。その努力の過程で得られたことは、これからの混沌の社会を生きる多くの人にとって生き方のヒントを与えてくれると思います。我々は、自信を持って引きこもりからの新たな生き方を模索する努力を重ねていけばいいのです。

「ひきこもり地域支援センター（仮称）」は我々の希望です。「ひきこもり地域支援センター（仮称）」が、利用者のニーズに耳を傾け、ニーズに応える引きこもり支援の地域の中核となることを願ってやみません。

本調査が、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」の充実に僅かでも資することができれば望外の喜びです。

平成21年3月吉日

境 泉 洋

## 引用・参考文献

- 金井嘉宏・笹川智子・陳 峻雯・鈴木伸一・嶋田洋徳・坂野雄二 2004 Social Phobia ScaleとSocial Interaction Anxiety Scale日本語版の開発 心身医学, **44**, 842-850.
- 永井 智・新井邦二郎 2008 相談行動の利益・コスト尺度改訂版の作成 筑波大学心理学研究, **35**, 49-55.
- 中村 光・岩永可奈子・境 泉洋・下津咲絵・井上敦子・植田健太・嶋田洋徳・坂野雄二・金沢吉展 2006 ひきこもり状態にある人を持つ家族の受療行動の実態 ころの健康, **21**, 26-34.
- 尾木直樹 2002 「ひきこもり」問題と社会はどう向き合うべきか：600家族の声にみる解決と支援への提言臨床教育研究所「虹」.
- 境 泉洋・植田健太・中村 光・嶋田洋徳・坂野雄二・全国引きこもりKHJ親の会（家族連合会） 2004 「ひきこもり」の実態に関する調査報告書：全国引きこもりKHJ親の会における実態 早稲田大学大学院人間科学研究科坂野研究室.
- 境 泉洋・植田健太・中村 光・嶋田洋徳・金沢吉展・坂野雄二・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会（家族連合会） 2005 「ひきこもり」の実態に関する調査報告書②：全国引きこもりKHJ親の会における実態 志學館大学人間関係学部境研究室.
- 境 泉洋・中村 光 2006 ひきこもり家族実態アンケート調査・調査結果データ分析とまとめ ひきこもり家族調査委員会 ひきこもり家族の実態に関する調査報告書, P7~P45.
- 境 泉洋・中垣内正和・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2007 「引きこもり」の実態に関する調査報告書④：全国引きこもりKHJ親の会における実態 志學館大学人間関係学部境研究室.
- 境 泉洋・川原一紗・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2008 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤：全国引きこもりKHJ親の会における実態 徳島大学総合科学部境研究室.
- Stefl, D. M. & Prospero, D. C. 1985 Barriers to mental service utilization. *Community Mental Health Journal*, **21**, 167-178.

# 付 録

## 付録 1 調査用紙（家族用）

## アンケート協力をお願い

本調査は、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」での支援に関する親の会のニーズを明らかにすることを目的としています。親の会のニーズを明らかにすることで、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」にどのような支援を求めていくのかを明確にしたいと考えております。

本調査の結果は、今後のひきこもり問題への対応を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の趣旨をご理解いただき是非ともご協力をお願い致します。

調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

なお、本調査の結果は調査実施担当者のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

### 調査にご回答頂く上での注意点

- ① 本調査では、ひきこもり状態にある人を「ご本人」と表現し、調査に記入されているあなたのことを「ご家族」と表現しております。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのではありませんので、他の家族の方とは相談しないでください。
- ③ ご本人一人につき一部の質問紙にお答え下さい。ひきこもり状態にある人が二人の場合は二部お答え下さい。

### 調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

徳島大学総合科学部 境 泉洋研究室 Tel&Fax 088-656-7191（直通）

E-mail : [motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp)

ホームページ : <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、具体的に記入してください。

1. ご本人は、社会参加（学校、職場に行くなど）をしておらず、  
自宅以外での活動が長期にわたって失われている。・・・・・・ はい・いいえ
2. 本人がひきこもり状態にあることで、ご本人、又はご家族が何  
らかの困難や不都合を感じている。・・・・・・ はい・いいえ
3. あなたが住んでいる場所をお答えください。→ \_\_\_\_\_ 都・道・府・県
4. ご本人からみての、あなたの立場をお答え下さい。  
a. 母親      b. 父親      c. その他（具体的に\_\_\_\_\_）
5. あなたの年齢をお答え下さい。      →      （\_\_\_\_\_歳）
6. あなたが入会しているKHJ親の会支部会についてお答えください。  
①会の名前（\_\_\_\_\_）      ②入会していない
7. ご本人とご家族の同・別居をお答え下さい。  
a. 同居      b. 別居（別居してから\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_カ月）
8. ご本人の性別・年齢をお答え下さい。→      a. 男性      b. 女性
9. ご本人の年齢をお答え下さい。      →      （\_\_\_\_\_歳）
10. ご本人のひきこもりの期間をお答え下さい。      →      （\_\_\_\_\_年\_\_\_\_\_カ月）
11. ご本人のひきこもりの程度について、最も当てはまる数字に○を付けて下さい。  
① 社会参加（学校、職場に行くなど）をしている  
② 友人とのつきあい・地域活動に参加している  
③ 他者との関わりはないが、外出はしている  
④ 外出はできないが、家庭内では自由に行動している  
⑤ 外出もできず、家庭内でも避けている場所がある  
⑥ 自室に閉じこもっている
12. ひきこもり状態にある人が、ご家族に2人以上いらっしゃる方は次の間にお答えください。  
該当しない方は、次のページにお進みください。

ひきこもっているご家族の人数をお答えください。      { \_\_\_\_\_ } 人

- B. ひきこもり地域支援センター（仮称）に対するニーズについてお聞きします。  
以下の質問について、あてはまるものを○で囲むか、具体的に記入して下さい。

ひきこもり地域支援センター（仮称）は、都道府県・指定都市に自立支援対策を推進するための核となるセンターであり、①第一次相談機能としての役割を担う、②各関係機関のネットワークの連携強化を図る、③地域のひきこもり対策にとって必要な情報を広く提供する、以上3点を目的に新たに設置される施設です。

1. 何時に相談業務を開始して欲しいですか？ 午前・午後のどちらかを○で囲んで、  
（ ）の中に数字を記入してください。 → 午前・午後（ ）時
2. 何時に相談業務を終了して欲しいですか？ 午前・午後のどちらかを○で囲んで、  
（ ）の中に数字を記入してください。 → 午前・午後（ ）時
3. 何曜日に相談業務をして欲しいですか？あなたが希望する曜日をいくつでも○で  
囲んでください。

→ 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日・日曜日

4. あなたが希望する相談方法をいくつでも○で囲んでください。その他を選んだ場合は、  
（ ）の中に希望する相談方法を記入してください。

→ a. 面接      b. 訪問      c. 電話      d. メール  
e. ファックス      f. 手紙      g. その他（ ）

5. どのような専門性を持ったスタッフに相談したいですか？以下の選択肢から、あ  
てはまる専門性の【 】の中に○をつけてください。○はいくつつけて構いません。  
その他を選んだ場合は、（ ）の中に希望する専門性を記入してください。

- |                                |                                       |                         |
|--------------------------------|---------------------------------------|-------------------------|
| 【   】 医師                       | 【   】 看護師                             | 【   】 介護福祉士             |
| 【   】 臨床心理士<br>(心理的援助の専門家)     | 【   】 精神保健福祉士（精神保健福<br>祉領域のソーシャルワーカー） | 【   】 社会福祉士<br>(福祉の専門家) |
| 【   】 塾、予備校講師                  | 【   】 産業カウンセラー                        | 【   】 保健師               |
| 【   】 教師                       | 【   】 キャリアコンサルタント<br>(職業能力開発の専門家)     | 【   】 行政書士              |
| 【   】 弁護士                      | 【   】 ファイナンシャルプランナー                   | 【   】 税理士               |
| 【   】 家族会の相談支援スタッフ             | 【   】 ひきこもりを経験した相談スタッフ                |                         |
| 【   】 ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフ |                                       |                         |
| 【   】 その他（ ）                   |                                       |                         |

6. あなたが相談するとしたら、どのようなことを相談したいですか？以下に自由にお書きください。

7. どのような情報があると、ひきこもりの問題の解決に役立つと思いますか？以下に自由にお書きください。

8. 情報発信の方法として、あなたが希望するものをいくつかでも○で囲んでください。

- a. 相談業務中での情報提供                      b. パンフレットによる情報発信  
c. ホームページによる情報発信                  d. 講演会や講座による情報発信  
e. テレビ・ラジオ・新聞等のメディアによる情報発信  
f. その他( \_\_\_\_\_ )

9. 以下の支援は、あなたにとってどれくらい必要ですか？「1：全く必要としていない」から「5：強く必要としている」の5つの選択肢の中から、あてはまる数字を○で囲んでください。

	全く必要としていない	あまり必要としていない	どちらでもない	やや必要としている	強く必要としている
1 同世代の若者・ボランティアによる定期的訪問	1	2	3	4	5
2 医師等の専門家による定期的訪問	1	2	3	4	5
3 ひきこもりの若者たちの「居場所」	1	2	3	4	5
4 宿泊型の若者の共同生活の場	1	2	3	4	5
5 「ひきこもり」についての学習会・講座	1	2	3	4	5
6 就職相談・就職支援	1	2	3	4	5
7 心理専門家によるカウンセリング	1	2	3	4	5
8 医師による医学的診断，薬物療法	1	2	3	4	5
9 電話，手紙，電子メールなどによる相談・支援	1	2	3	4	5
10 経済的な（生活面での）支援	1	2	3	4	5
11 就学相談・就学のための学習指導	1	2	3	4	5
12 法律相談	1	2	3	4	5
13 福祉相談	1	2	3	4	5

10.「相談窓口」、「関係機関の連携」、「情報発信」という現在の事業計画以外のことで、ひきこもり地域支援センター（仮称）にどのような支援をして欲しいですか？  
以下に自由にお書きください。

11.今後、全国ひきこもり KHJ 親の会に望む活動について、以下に自由にお書きください。

12.本調査についてお気づきの点がありましたら、以下に自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。  
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

## 付録2 調査用紙（本人用）

## アンケート協力のお願い

本調査は、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」での支援に関する親の会のニーズを明らかにすることを目的としています。親の会のニーズを明らかにすることで、「ひきこもり地域支援センター（仮称）」にどのような支援を求めていくのかを明確にしたいと考えております。

本調査の結果は、今後のひきこもり問題への対応を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の趣旨をご理解いただき是非ともご協力をお願い致します。

調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報の保護には最大限配慮致します。

なお、本調査の結果は調査実施担当者のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

全国引きこもり KHJ 親の会（家族会連合会）

調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

徳島大学総合科学部 境 泉洋研究室 Tel&Fax 088-656-7191（直通）

E-mail : [motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp)

ホームページ : <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

A. 以下の質問について、あてはまるものを○で囲むか、具体的に記入して下さい。

1. あなたが住んでいる場所をお答え下さい。 → \_\_\_\_\_ 都・道・府・県

2. あなたの年齢をお答え下さい。 → ( \_\_\_\_\_ 歳)

3. あなたの性別をお答え下さい。 → a. 男性 b. 女性

B. ひきこもり地域支援センター（仮称）に対するニーズについてお聞きします。  
以下の質問について、あてはまるものを○で囲むか、具体的に記入して下さい。

ひきこもり地域支援センター（仮称）は、都道府県・指定都市に自立支援対策を推進するための核となるセンターであり、①第一次相談機能としての役割を担う、②各関係機関のネットワークの連携強化を図る、③地域のひきこもり対策にとって必要な情報を広く提供する、以上3点を目的に新たに設置される施設です。

1. 何時に相談業務を開始して欲しいですか？ 午前・午後のどちらかを○で囲んで、  
\_\_\_\_\_ の中に数字を記入してください。

→ 午前・午後 ( \_\_\_\_\_ ) 時

2. 何時に相談業務を終了して欲しいですか？ 午前・午後のどちらかを○で囲んで、  
\_\_\_\_\_ の中に数字を記入してください。

→ 午前・午後 ( \_\_\_\_\_ ) 時

3. 何曜日に相談業務をして欲しいですか？あなたが希望する曜日をいくつでも○で  
囲んでください。

→ 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日・日曜日

4. あなたが希望する相談方法をいくつでも○で囲んでください。その他を選んだ場  
合は、\_\_\_\_\_ の中に希望する相談方法を記入してください。

→ a. 面接 b. 訪問 c. 電話 d. メール

e. ファックス f. 手紙 g. その他 ( \_\_\_\_\_ )

5. どのような専門性を持ったスタッフに相談したいですか？以下の選択肢から、あてはまる専門性の【 】の中に○をつけてください。○はいくつつけて構いません。その他を選んだ場合は、( )の中に希望する専門性を記入してください。

- |                                 |                                    |                          |
|---------------------------------|------------------------------------|--------------------------|
| 【    】 医師                       | 【    】 看護師                         | 【    】 介護福祉士             |
| 【    】 臨床心理士<br>(心理的援助の専門家)     | 【    】 精神保健福祉士（精神保健福祉領域のソーシャルワーカー） | 【    】 社会福祉士<br>(福祉の専門家) |
| 【    】 塾・予備校講師                  | 【    】 産業カウンセラー                    | 【    】 保健師               |
| 【    】 教師                       | 【    】 キャリアコンサルタント<br>(職業能力開発の専門家) | 【    】 行政書士              |
| 【    】 弁護士                      | 【    】 ファイナンシャルプランナー               | 【    】 税理士               |
| 【    】 家族会の相談支援スタッフ             | 【    】 ひきこもりを経験した相談スタッフ            |                          |
| 【    】 ひきこもりを経験した家族を持っている相談スタッフ |                                    |                          |
| 【    】 その他 ( _____ )            |                                    |                          |

6. あなたが相談するとしたら、どのようなことを相談したいですか？以下に自由にお書きください。

7. どのような情報があると、ひきこもりの問題の解決に役立つと思いますか？以下に自由にお書きください。

8. 情報発信の方法として、あなたが希望するものをいくつかでも○で囲んでください。

- a. 相談業務の中での情報提供                      b. パンフレットによる情報発信  
 c. ホームページによる情報発信                      d. 講演会や講座による情報発信  
 e. テレビ・ラジオ・新聞等のメディアによる情報発信  
 f. その他( \_\_\_\_\_ )

9. 以下の支援は、あなたにとってどれくらい必要ですか？「1：全く必要としていない」から「5：強く必要としている」の5つの選択肢の中から、あてはまる数字を○で囲んでください。

	全く必要と していない	あまり必要と していない	どちらでも ない	やや必要と している	強く必要と している
1 同世代の若者・ボランティアによる定期的訪問	1	2	3	4	5
2 医師等の専門家による定期的訪問	1	2	3	4	5
3 ひきこもりの若者たちの「居場所」	1	2	3	4	5
4 宿泊型の若者の共同生活の場	1	2	3	4	5
5 「ひきこもり」についての学習会・講座	1	2	3	4	5
6 就職相談・就職支援	1	2	3	4	5
7 心理専門家によるカウンセリング	1	2	3	4	5
8 医師による医学的診断，薬物療法	1	2	3	4	5
9 電話，手紙，電子メールなどによる相談・支援	1	2	3	4	5
10 経済的な（生活面での）支援	1	2	3	4	5
11 就学相談・就学のための学習指導	1	2	3	4	5
12 法律相談	1	2	3	4	5
13 福祉相談	1	2	3	4	5

10. 「相談窓口」、「関係機関の連携」、「情報発信」という現在の事業計画以外のことで、ひきこもり地域支援センター（仮称）にどのような支援をして欲しいですか？  
以下に自由にお書きください。

11. 今後、全国ひきこもりKHJ親の会に望む活動について、以下に自由にお書きください。

12. 本調査についてお気づきの点がありましたら、以下に自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

なお、次からのページには調査実施担当者が現在行っている、ひきこもり経験者の相談機関の利用に関する調査があります。ご協力いただける方は、次のページにお進みいただけますと幸いです。

以下の調査は、平成 20 年度科学研究費補助金若手研究 (B)「ひきこもり状態に対する臨床心理的地域援助システムのあり方に関する研究」及び平成 20 年度徳島大学学長裁量経費「ひきこもり日英比較研究」の助成を受けて実施されるものです。

NPO 法人全国引きこもり K H J 親の会が実施する全国調査とは別のものですが、報告書には結果を記載致します。ひきこもり状態のより詳細な実態把握のために行われる調査ですので、調査の趣旨をご理解頂き、ご協力頂ける方のみご記入下さい。

以下の調査では、特に 相談機関の利用 についてたずねる調査が中心となっております。

**C. 以下の質問について、あてはまるものを○で囲むか、具体的に記入して下さい。**

1. 現在、あなたは就学、就労、家庭外の交流などの社会参加を避けている状態（以下「ひきこもり状態」と表記する。）ですか？

→ a. はい b. いいえ

2. 過去に「ひきこもり状態」を経験されたことはありますか？

→ a. はい b. いいえ

**1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。  
ご協力いただき、誠にありがとうございました。**

3. 「ひきこもり状態」はどれくらい続いていますか？または、どれくらい続きましたか？

→ ( \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ ヶ月)

4. あなたの現在のひきこもりの程度をお答え下さい。

- a. 社会参加（学校、職場に行くなど）をしている
- b. 友人とのつきあい・地域活動には参加している
- c. 他者との関わりはないが、外出はしている
- d. 外出はできないが、家庭内では自由に行動している
- e. 外出もできず、家庭内でも避けている場所がある
- f. 自室に閉じこもっている

5. 今までに「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みについて、何らかの専門家に相談したことがありますか？

→ a. はい b. いいえ

6. 現在のあなたの状態について、あてはまるものを1つだけ○で囲んでください。

- a. 「ひきこもり状態」ではない。
- b. 「ひきこもり状態」にあることを悩んでいないので、何らかの専門家に相談するつもりはない。
- c. 「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みはあるが、何らかの専門家に相談するつもりはない。
- d. 「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みについて、何らかの専門家に相談することに関心はあるが、相談する予定はない。
- e. 「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みについて、何らかの専門家に相談する予定がある。
- f. 「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みについて、何らかの専門家に相談している。

7. 今現在、あなたが「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みについて何らかの専門家に相談する可能性は何%ですか？「絶対に相談しない」を0%、「必ず相談する」を100%として数字でお答えください。

→ ( ) %

D. あなたが「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みを何らかの専門家に相談する場合、障害になると感じるものを、以下の項目の( )に○をつけて下さい。(複数選択可)

- 現在相談されている場合は、相談する際に障害だと感じるものに○をつけて下さい。
- 現在「ひきこもり状態」でない方は、当時のことを振り返ってお答えください。

- 1. ( ) どのような相談機関が利用できるのか分からない
- 2. ( ) 相談機関がどこにあるのか分からない
- 3. ( ) 相談機関までの交通アクセスが不便である
- 4. ( ) 相談機関へあなたと一緒にってくれる人がいない
- 5. ( ) 相談機関を利用することにより、他人から軽蔑されるのではないかと思う
- 6. ( ) 相談機関を利用することにより、友人や親戚がどう感じるかが気になる
- 7. ( ) 相談機関を利用するための金銭的コストがかかる
- 8. ( ) 相談機関を利用するための時間がない

E. 以下に20項目の質問があります。各項目をよく読んで、あなたにあてはまる  
ところに○をつけて下さい。

	ま っ た く あ て は ま ら な い	少 し あ て は ま る	あ る 程 度 あ て は ま る	か な り あ て は ま る	非 常 に あ て は ま る
1 目上の人（先生、上司など）と話さなければならない時、緊張する	0	1	2	3	4
2 人と目を合わせるの難しい	0	1	2	3	4
3 自分のことや自分の気持ちについて話す時、緊張する	0	1	2	3	4
4 同僚とうまくやっていくのは難しいと感じる	0	1	2	3	4
5 同年代の人と友達になるのはたやすい	0	1	2	3	4
6 道で知り合いに会うと緊張する	0	1	2	3	4
7 社交的に人とつきあうのは苦痛である	0	1	2	3	4
8 誰かと2人っきりになると緊張する	0	1	2	3	4
9 パーティなどで人と会うのは平気だ	0	1	2	3	4
10 人と話すのは難しい	0	1	2	3	4
11 話題を見つけるのはたやすい	0	1	2	3	4
12 自分を表現するとき、ぎこちないと思われるのではないかと心配する	0	1	2	3	4
13 人の意見に反対するのは難しい	0	1	2	3	4
14 魅力的な異性と話すのは難しい	0	1	2	3	4
15 人前で何を話したらよいかかわからないと心配する	0	1	2	3	4
16 よく知らない人とつきあうのは緊張する	0	1	2	3	4
17 話をしている時、恥ずかしいことを言っているのではないかと感じる	0	1	2	3	4
18 集団でいる時、自分は無視されているのではないかと心配する	0	1	2	3	4
19 集団でつきあうのは緊張する	0	1	2	3	4
20 あまり知らない人に会った時、あいさつするかどうかわからない	0	1	2	3	4

F. もし、あなたが「ひきこもり状態」にあることによって生じる悩みを何らかの専門家に相談するとしたら、どのようなことを考えますか？また、相談した結果どのようになるとお思いますか？

	そう 思わ ない	あ ま り そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	少 し そ う 思 う	そ う 思 う
1 相談すると、よい意見やアドバイスをもらえる	1	2	3	4	5
2 悩みを相談することは、自分の弱さを認めることになる	1	2	3	4	5
3 相談をすると、相手が悩みの内容を他の人に言ってしまう	1	2	3	4	5
4 相談すると気持ちが楽になる	1	2	3	4	5
5 相談したことを他の人にばらされる	1	2	3	4	5
6 相談すると、悩みが解決する	1	2	3	4	5
7 相談をしても、相手に話を真剣に聞いてもらえない	1	2	3	4	5
8 相談すると、気持ちがスッキリする	1	2	3	4	5
9 相談をしても馬鹿にされる	1	2	3	4	5
10 人に相談するよりも、自分で悩みにとりくむほうが充実感がある	1	2	3	4	5
11 相談すると、相手が励ましてくれる	1	2	3	4	5
12 1人で悩みに立ち向かうことで、強くなれると思う	1	2	3	4	5
13 相談しないで1人で悩んでいても、よけい悪くなると思う	1	2	3	4	5
14 何らかの専門家に相談をしても意見が合わない	1	2	3	4	5
15 相談をしても、相手に嫌なことを言われる	1	2	3	4	5
16 相談をしても、相手が別の意見を言うてくる	1	2	3	4	5
17 悩みを相談すると、自分の弱い面を相手に知られてしまう	1	2	3	4	5
18 人に相談するよりも、自分でなんとかすることで成長できる	1	2	3	4	5
19 悩みを相談しても、それを秘密にしてもらえない	1	2	3	4	5
20 相談をしても、相手に話を簡単に流される	1	2	3	4	5
21 悩みを誰にも相談しないと、ずっと悩みから抜け出せないと思う	1	2	3	4	5
22 1人で悩んでいても、いつまでも悩みを引きずることになる	1	2	3	4	5
23 悩みを相談すると、自分を弱い人間のように感じてしまう	1	2	3	4	5
24 相談すると、相手が悩みの解決のために協力してくれる	1	2	3	4	5
25 相談すると、悩みの解決法がわかる	1	2	3	4	5
26 相談すると、相手が真剣に相談に乗ってくれる	1	2	3	4	5

## 問い合わせ先

境 泉洋 (さかい もとひろ)

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1

徳島大学総合科学部 臨床コミュニティ心理学研究室

Tel&FAX 088-656-7191

E-mail: [motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp)

HomePage: <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町1-3-3

FAX 048-758-5705

E-mail: [webmaster@khj-h.com](mailto:webmaster@khj-h.com)

HomePage: <http://www.khj-h.com/>